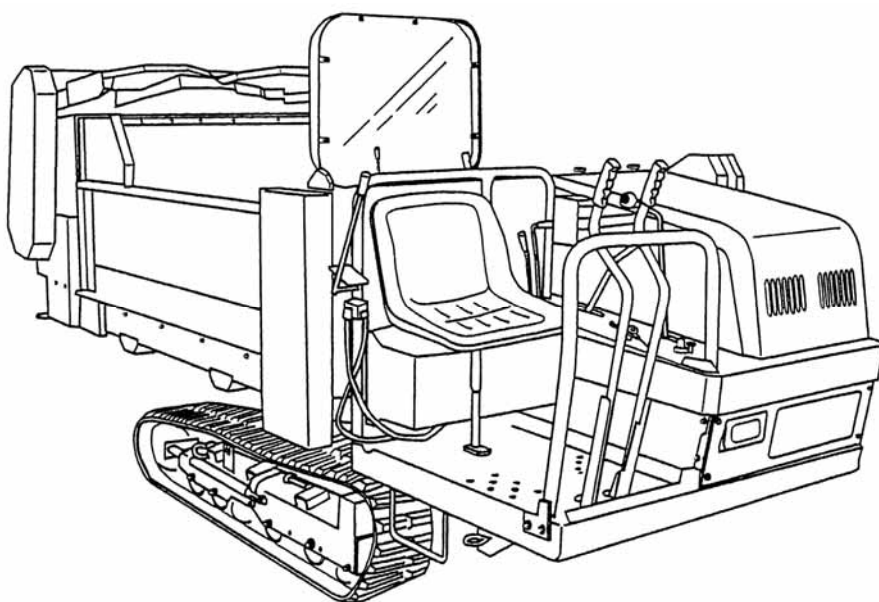


自走積込マニュアルスプレッダ

取扱説明書

コキタロウ

MSX1050



ご使用の前に必ずお読み下さい。

atex

はじめに

- このたびは、本製品をお買いあげいただき、まことにありがとうございます。
- この取扱説明書は、本製品を使用する際にぜひ守っていただきたい安全作業に関する基本的事項及び、最適な状態で使っていただくための正しい運転・調整・整備に関する技術的事項を中心に構成されています。
- 本製品を初めて運転される時はもちろん、日ごろの運転・取扱いの前にも取扱説明書を熟読され、十分理解の上、安全・確実な作業を心がけてください。
- この取扱説明書は、いつでも取り出して読むことができるよう大切に保管してください。説明書を紛失、または損傷された場合は、速やかにお買上げ先にご注文ください。
- 本製品を貸与、または譲渡される場合は、相手の方に取扱説明書の内容を十分理解していただき、この取扱説明書を本製品に添付してお渡してください。
- なお、品質・性能向上あるいは安全上、使用部品の変更を行なうことがあります。その際には、本書の内容・イラストなどの一部が、本製品と一致しないことがありますので、ご了承ください。
- もし、おわかりにならない点がございましたら、ご遠慮なくお買上げ先へご相談ください。
- **⚠重要** 表示は下記のように安全上、取扱上の重要なことを示しています。

表 示	重 要 度
⚠危険	その警告に従わなかった場合、死亡又は重傷を負うことになるものを示しております。
⚠警告	その警告に従わなかった場合、死亡又は重傷を負う危険性があるものを示しております。
⚠注意	その警告に従わなかった場合、ケガを負うおそれのあるものを示しております。
重要	商品の性能を発揮させるための注意事項を説明しております。



注意

- 本製品は、圃場内作業車ですので、公道及び公道とみなされる道路での運転はできません。当該道路上での運転による事故及び違反につきましては、責任を負いかねます。

目 次

重要安全ポイントについて	2
安全表示ラベルについて	3～5
安全のポイント	6
安全な作業をするために	6～19
保証とサービス	20
各部の名称とはたらき	21
各部の名称	21
操作レバーおよびスイッチの名称とはたらき	22～33
作業の準備	34
使用前の点検について	34・35
作業のしかた	36
運転操作の要領	36～45
堆肥積込・散布の要領	46～58
積載要領	59
点検・整備	60～73
各部の調整	74～89
手入れと格納	90・91
不調時の対応のしかた	92～97
農作業を安全におこなうために	98
一般共通事項	98～100
移動機械共通事項	101・102
サービス資料	103
主要諸元	103・104
外観図	105
配線図	106
主な消耗部品	107・108
索引	109～111

重要・安全ポイントについて

1. 運行前には、
必ず始業点検を行い、特に重要な保安部品（ブレーキ等）
は、確実に整備します。

2. 路肩・軟弱地で使用するときは、
転落・転倒しないように十分注意します。

3. 坂道で使用するときは、
急旋回・Uターンは避けます。

4. 運転・作業をするときは、
安全カバー類が取り付けられていることを確認します。

5. 機械の清掃・点検・調整をするときは、
必ずエンジンを止め、機械の停止を待ちます。

6. 補助者と共同作業を行うときは、
合図をし、安全を確認します。

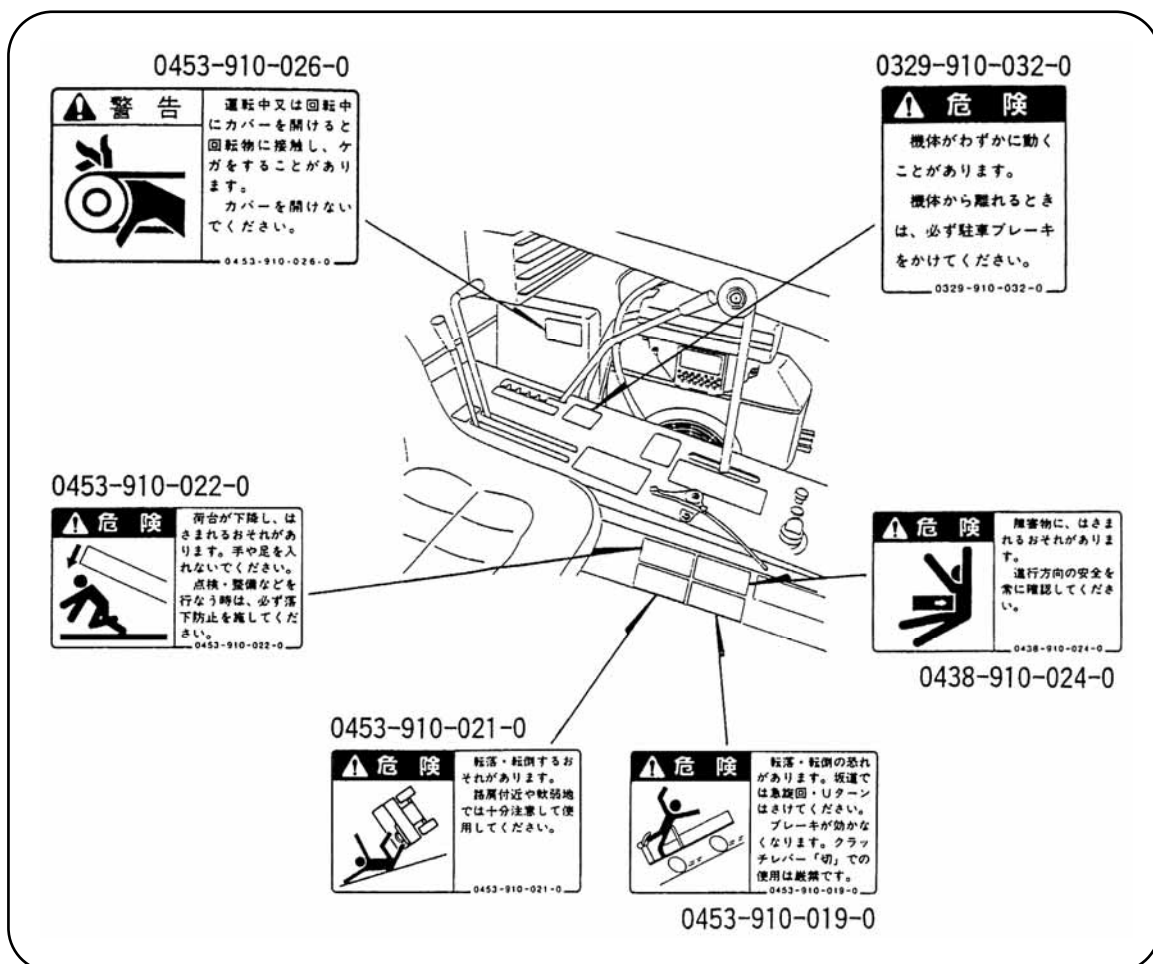
この機械をお使いになるときは復唱してください。

安全に作業していただくため、ぜひ守っていただきたい重要安全ポイントは上記の通りですが、これ以外にも本文の中で安全上是非守っていただきたい事項に **⚠️重要** を付して説明の都度取り上げております。
よくお読みいただくとともに、必ず守っていただくようお願い致します。

安全表示ラベルについて

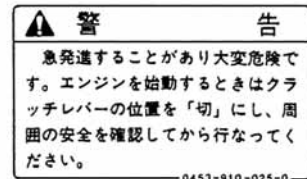
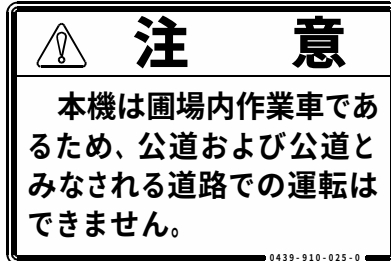
- 本機には、安全に作業していただくため、安全表示ラベルが貼付してあります。
必ずよく読み、これらの注意に従ってください。
- 安全表示ラベルが破損したり、なくなったり、読めなくなった場合は、新しいラベルに貼りかえてください。
- 汚れた場合は、きれいにふき取り、いつでも読めるようにしてください。
- 安全表示ラベルが貼付してある部品を交換する場合は、同時に安全表示ラベルもお買い上げ先へ注文してください。
- マーク（安全表示ラベル等）には、洗車時に直接圧力水をかけないでください。

安全表示ラベル貼付位置

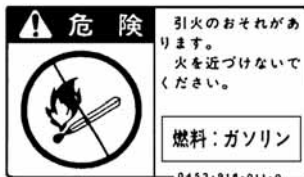


安全表示ラベル貼付位置

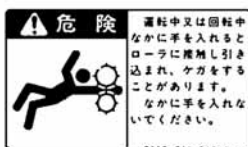
0439-910-025-0



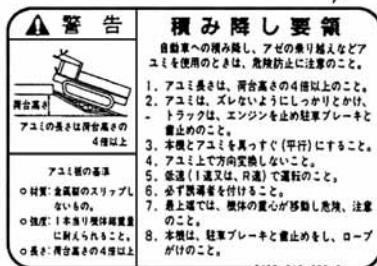
0453-910-025-0



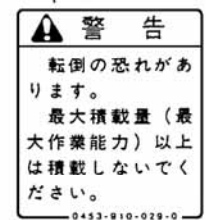
0453-916-011-0



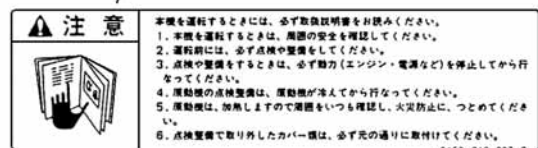
0116-911-012-0



0453-910-028-0



0453-910-029-0

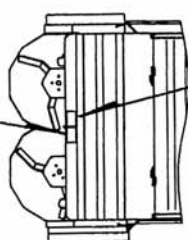


0453-910-027-0

安全表示ラベル貼付位置

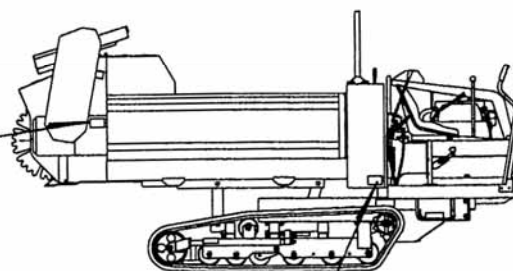
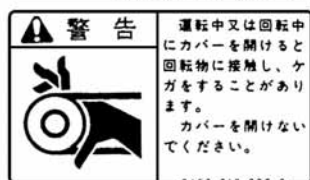


0116-911-011-0



0116-911-015-0

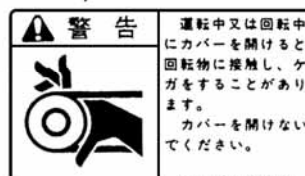
0453-910-026-0



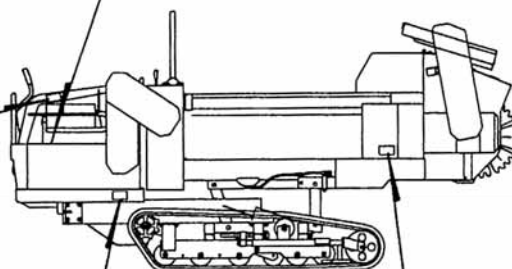
0453-910-026-0



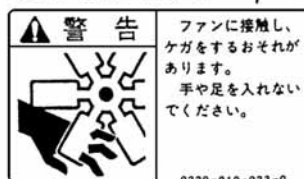
0453-910-023-0



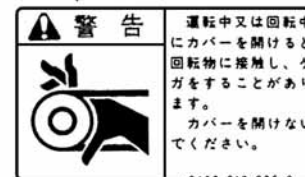
0453-910-024-0



0329-910-033-0



0453-910-026-0



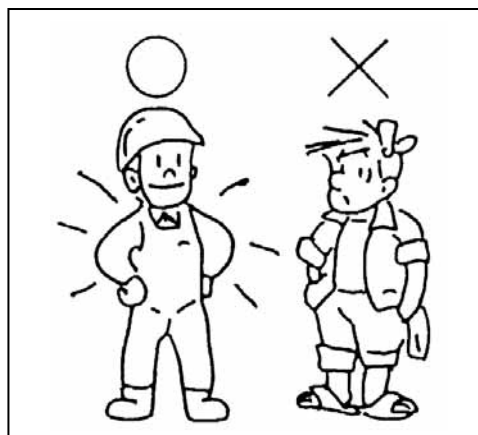
安全のポイント

安全な作業をするために

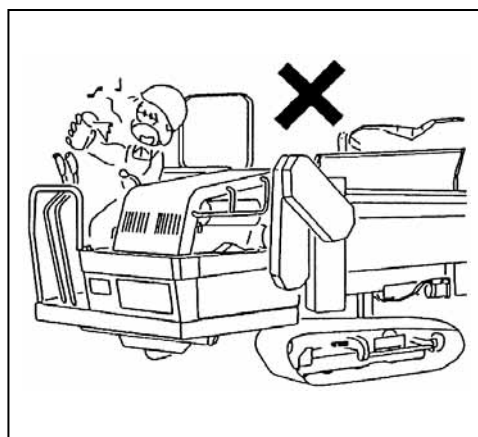
本章では、機械を効率よく安全にお使いいただくために、必ず守っていただきたい事項を説明しております。十分に熟読されて、安全な作業を行なってください。

■運転者の条件

- (1) 服装は作業に適したものを着てください。
服装が悪いと、衣服が回転部に巻き込まれたり、靴がスリップしたりして大変危険です。ヘルメットや適正な保護具も着用してください。



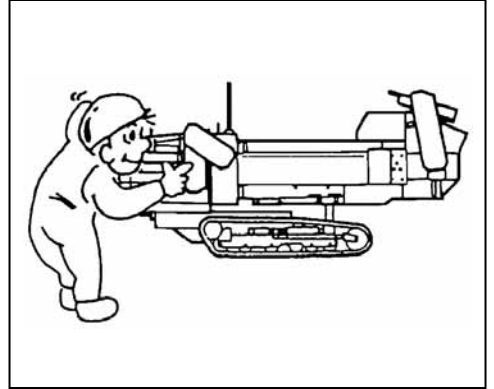
- (2) 飲酒時や過労ぎみの時、または妊娠している人、子供など未熟練者は絶対に作業をしてはいけません。作業を行なうと、思わぬ事故を引き起こします。作業をする時は、必ず心身とも健康な状態で行なってください。



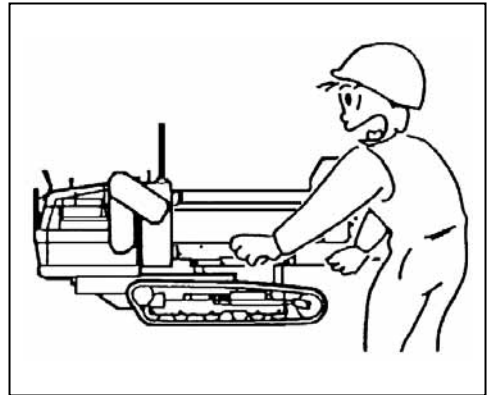
安全のポイント

■作業を開始する前に

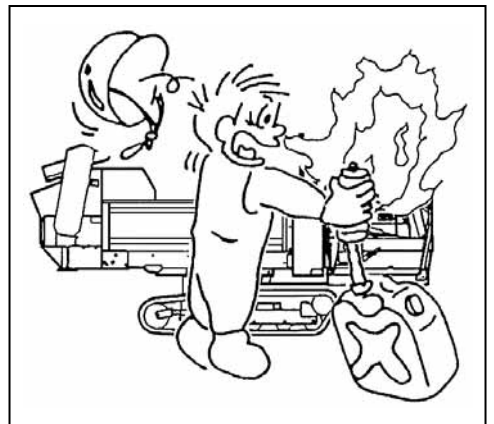
- (1) 作業する前に、本書の「取扱説明書」を参考に必要な点検を必ず行なってください。点検を怠るとブレーキの効が悪かったり、クラッチが切れなかったりして走行中や作業中の思わぬ事故につながります。



- (2) 安全カバー類が外されたままになっていないか確認しましょう。外されたままエンジンをかけたり、運転作業を行なうと危険な部分が露出して大変危険です。



- (3) 燃料の補給や潤滑油の給油・交換をするときは、必ずエンジンが停止した状態で行ない、くわえタバコなどの火気は厳禁です。守らなかった場合、火災の原因になります。

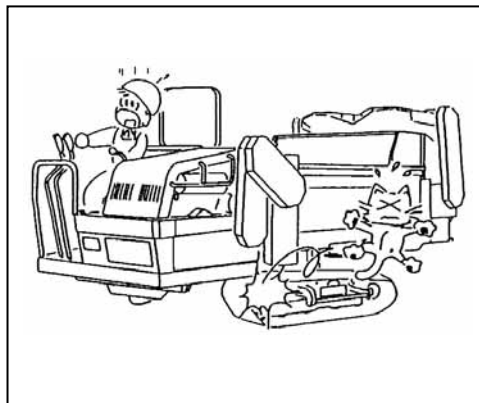


安全のポイント

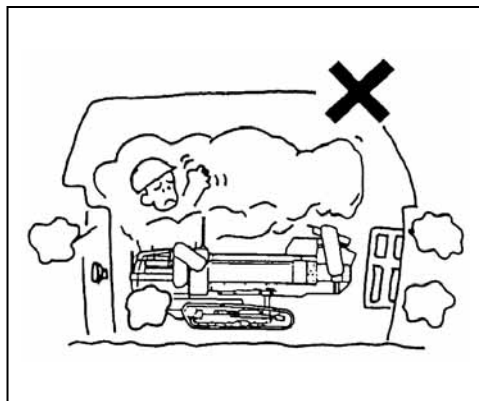
■エンジンの始動と発進は

- (1) エンジン始動時は、走行クラッチレバー及び作業クラッチレバーを「停止」位置にし、走行レバーは「中立」位置にしてください。また発進時は、各レバー位置と周囲の安全を確かめてゆっくりと発進してください。急発進は危険です。

(走行クラッチレバーが「入」位置、及び作業クラッチレバーが「入」位置では、エンジンは、始動しません。)

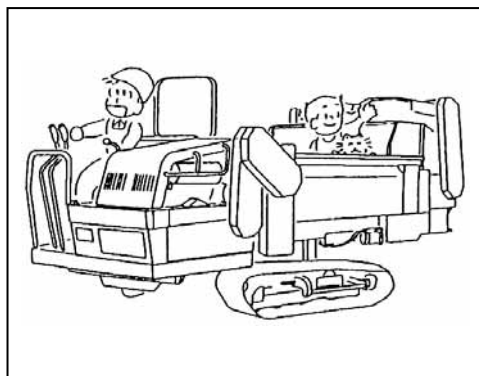


- (2) 室内でエンジンをかけるときは、窓や戸を開けて、換気を十分に行なってください。換気が悪いと、排気ガス中毒を起こし大変危険です。



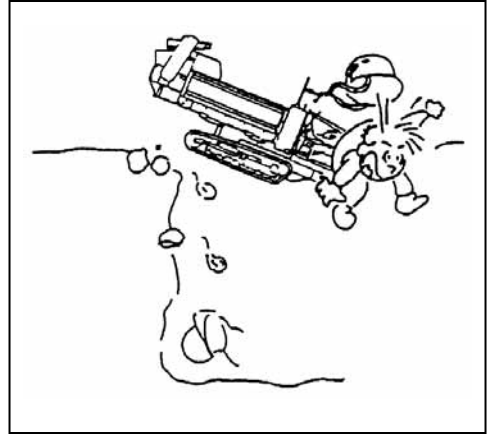
■走行するときは

- (1) いかなる場合も、荷台などに人や動物を乗せないでください。作業の際はもちろん、走行中の急旋回、重心の移動等により大変危険です。

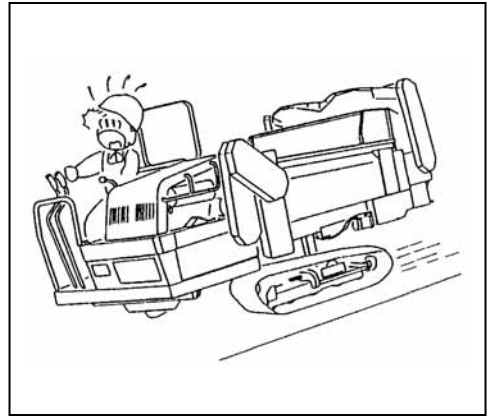


安全のポイント

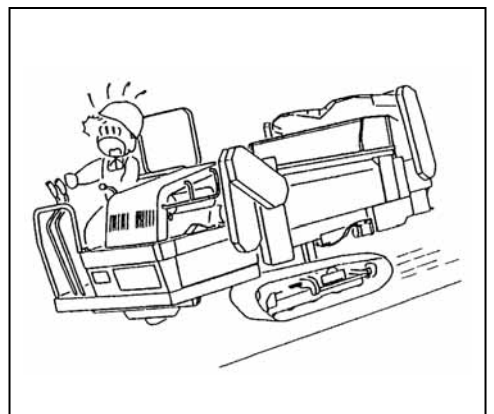
- (2) 凹凸の激しい所・軟弱地盤・側溝のある道や両側が傾斜している道などで走行するときは、速度を十分に落とし安全な速度で運転してください。衝突・転落事故を引き起こす恐れがあり大変危険です。



- (3) 傾斜地は、微速又は低速で、まっすぐに昇り降りしてください。斜面をよこぎったり、旋回をすると転倒する恐れがあります。特に下り坂では、曲がろうとしてサイドクラッチレバーを切った場合、切った側が流され、思う方向と逆に進むことがあります大変危険です。

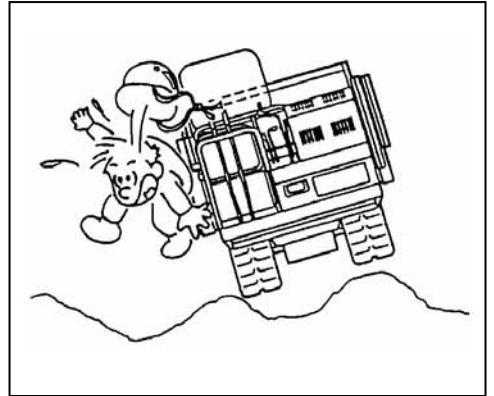


- (4) 坂道では、低速でゆっくりと、また下るときは微速でゆっくりと降りてください。絶対に走行クラッチレバーを「切」位置（ニュートラル状態）で、坂道を降りたりしないでください。本機が加速し、衝突・転倒事故を引き起こす恐れがあり大変危険です。また、ブレーキの多用は、ブレーキを傷めるとともに、スリップやブレーキの効きが悪くなる原因となり大変危険です。緊急のとき以外は使用を避け、走行レバーで速度を調整してください。

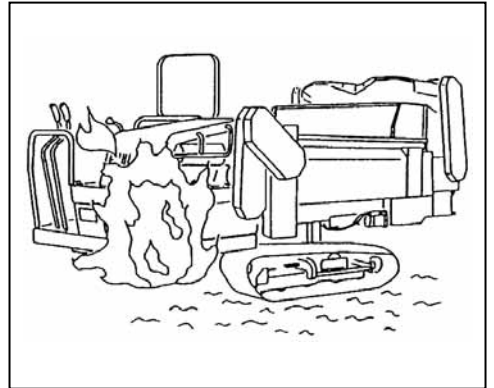


安全のポイント

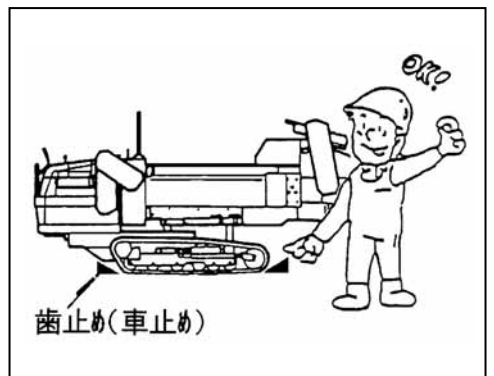
- (5) 凹凸の激しい道路での高速走行はしないでください。路面状態、積載状態に応じた安全な速度で走行してください。これを怠ると、衝突・転倒事故を引き起こす恐れがあります。



- (6) 草やワラ等可燃物の上に止めないでください。排気管の熱や、排気ガスなどにより可燃物に着火し、火災の原因となります。

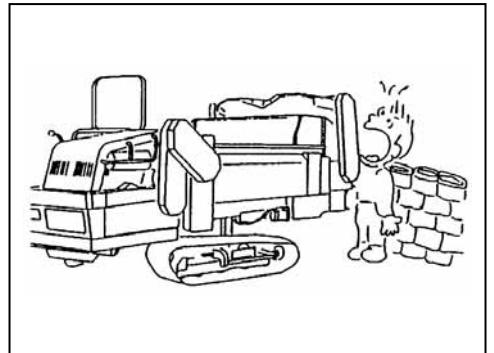


- (7) 停車場所は広く硬い所を選んでください。また、本機から離れるときは、エンジンを停止し、キースイッチを抜き取り、必ず走行レバーを「中立」位置、走行クラッチレバーを「切」位置にして、確実に駐車ブレーキをかけ歯止め（車止め）をしてください。傾斜地での駐停車は、斜面に対し機体をまっすぐに向けて、必ず走行レバーを「中立」位置、走行クラッチレバーを「切」位置にして駐車ブレーキかけ歯止め（車止め）をしてください。走行クラッチレバーを「入」位置にしておくと、機体が自然に動き出すなど大変危険です。



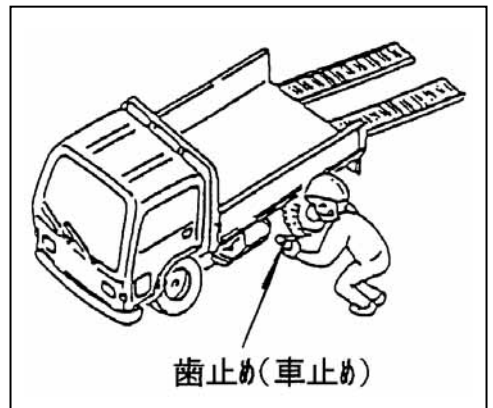
安全のポイント

- (8) わき見運転や無理な姿勢で運転をしてはいけません。進行方向、特に後進時は、周囲の障害物にはさまれる恐れがあります。



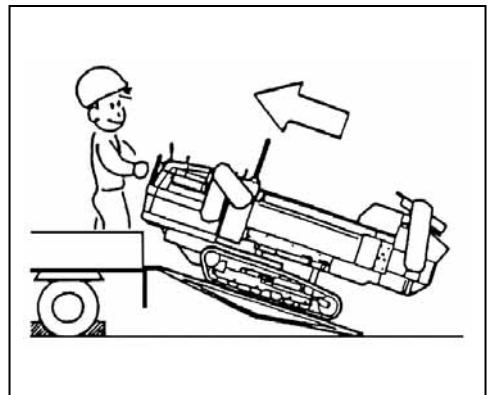
■積込み・積降ろし

- (1) トラックはエンジンを止め、動かないよう駐車ブレーキ・歯止め（車止め）をしてください。これを怠ると積込み・積降ろし時にトラックが動いて転落事故を引き起こす恐れがあります。

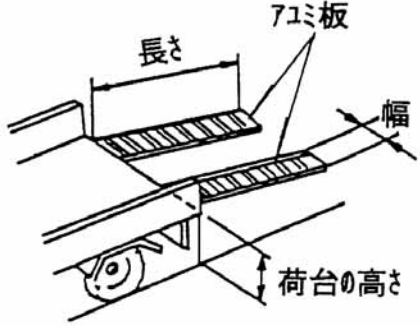


- (2) 積込み・積降ろしは、強度・幅・長さの十分あるスリップしないアユミ板を使用し、直進性を見定め、微速にて行なってください。アユミ板上での方向修正は転落事故の原因となり大変危険です。

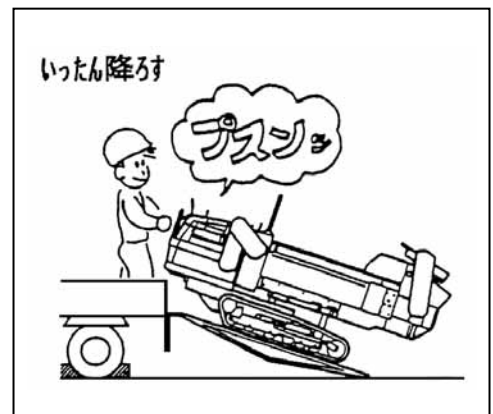
また、途中でエンストしないように、高スロットルにして、走行レバーの調整で、微速にて行なってください。



安全のポイント

< アユミ板の基準 >	
●長さ…車の荷台高さの4倍以上 ●幅 …本機クローラの1.5倍以上 ●強度…車体総重量の1.5倍以上（1本当たり） ●すべらないよう処理されていること。	

- (3) 万一、途中でエンストした場合は、素早く駐車ブレーキを掛け、走行レバーを「中立」位置にして、走行クラッチレバーを「切」位置にしてください。その後、走行レバーを進行方向に倒し、徐々にブレーキをゆるめ、一端地面まで降ろし、エンジン始動方法に従い、改めてエンジンを始動させてから行なってください。



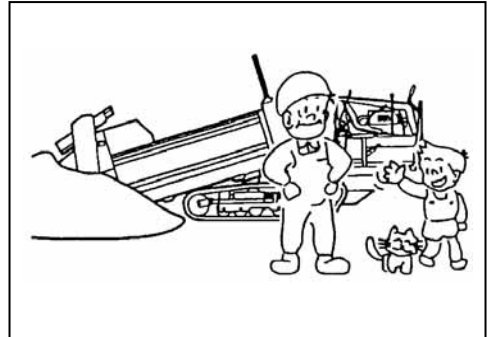
■作業中は

- (1) 積載制限を守ってください。過積載は、操作ミスを引き起こし大変危険です。

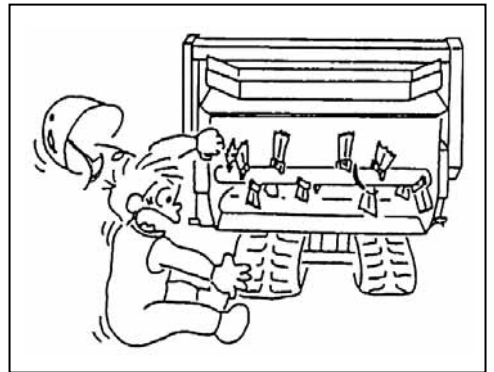


安全のポイント

- (2) 作業を開始するときは必ず周囲の安全を確認し、作業中は作業員以外の人、特に子供を近づけないでください。傷害事故の原因となり大変危険です。

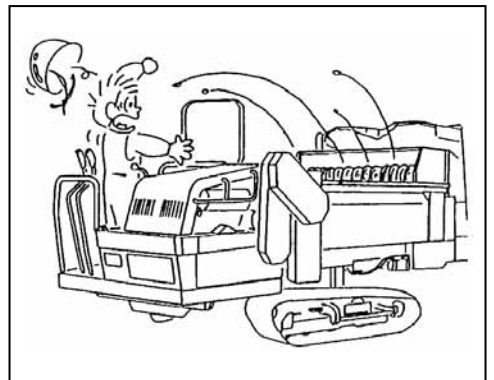


- (3) 積み込み・散布作業中は、ベータ（回転部）をのぞいたり、手や体を入れたりしないでください。飛散物又は、吐出物が当たり、障害事故の原因となり大変危険です。



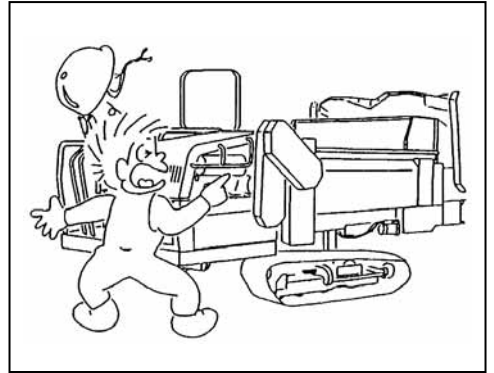
- (4) 積み込み・散布作業中は、ヒサンボウシシートを開けて作業しないでください。飛散物が当たり、障害事故の原因となり大変危険です。

また、ヒサンボウシシートが破損した場合は、すみやかに新品と交換してください。

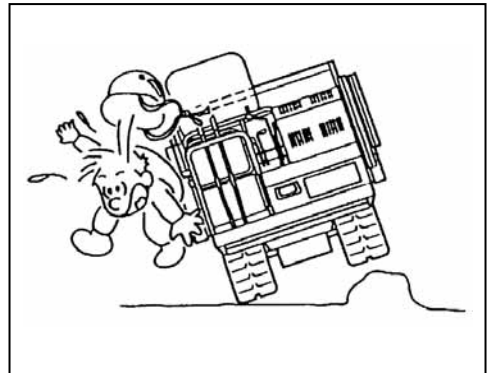


安全のポイント

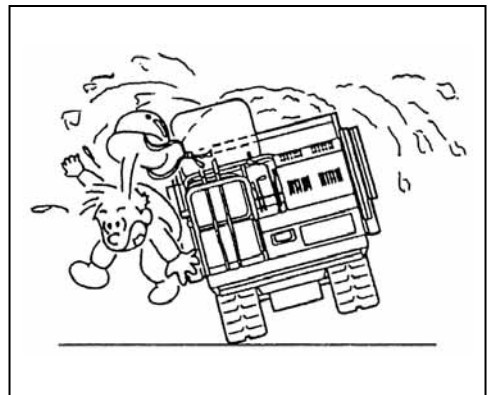
- (5) 運転中は、回転部やエンジン・マフラー等の高温部など危険な箇所には手や体を触れないでください。傷害事故の原因となり大変危険です。



- (6) 溝の横断や畦越えをするときは必ずアユミ板を使用し、微速にて溝・畦と直角にゆっくりと走行してください。これを怠ると、脱輪やスリップ等により転倒する恐れがあり大変危険です。

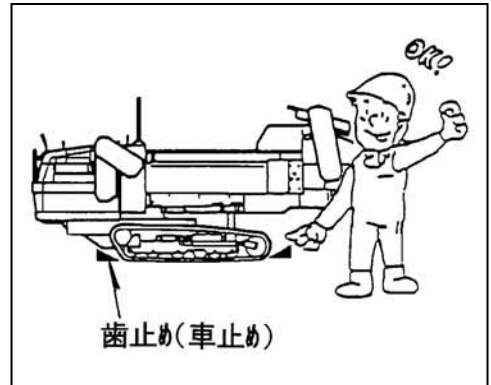


- (7) 荷を積むときは、重心が機体の中央になるよう、また、重心が高くならないようにしましょう。重心が高くなったり、かたよると転倒の原因となり大変危険です。



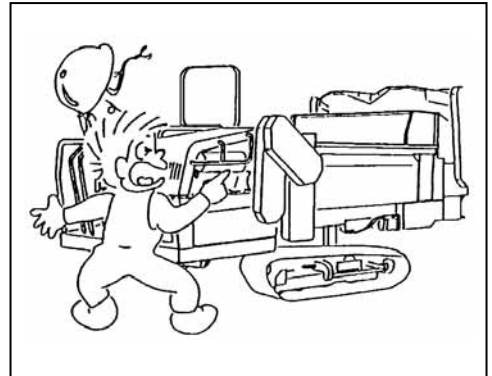
安全のポイント

- (8) 本機から離れる時は、エンジンを停止しキースwitchを抜き取り、必ず走行レバーを「中立」位置、走行クラッチレバーを「切」位置にして、確実に駐車ブレーキをかけ歯止め（車止め）をしてください。不意に動いて重大な事故につながる恐れがあります。



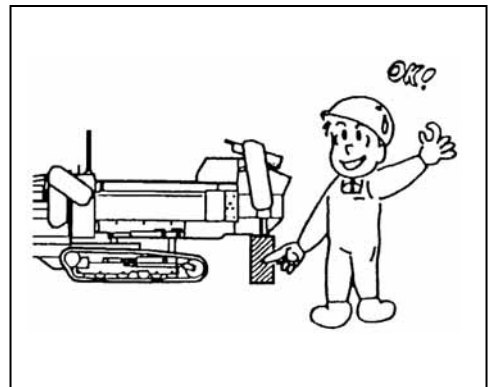
■点検整備は

- (1) エンジンを切ったすぐに、点検整備をしてはいけません。エンジンなどの過熱部分が完全に冷えてから行なってください。怠ると火傷などの原因となります。



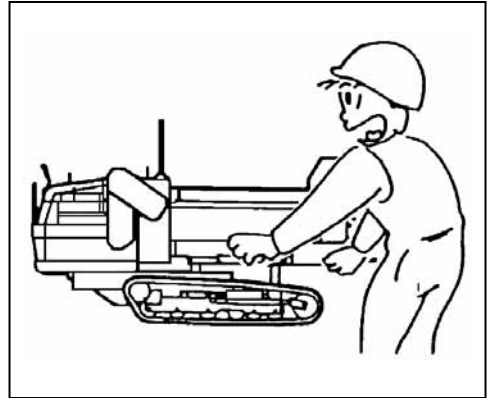
- (2) 機械の掃除・点検整備をするときは、必ずエンジンを停止し、駐車ブレーキをかけて行なってください。思わぬ事故をまねく恐れがあります。

また、荷台の下部を点検整備する場合は十分に強度のある木材等で降下防止策を施してください。怠ると急に荷台が落下し、はさまれるなど大変危険です。

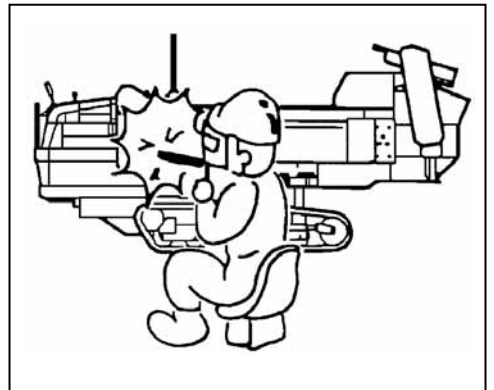


安全のポイント

- (3) 点検整備で取り外した安全カバー類は、必ず元の通りに取り付けてください。回転部や過熱部がむき出しになり、傷害事故の原因となり大変危険です。

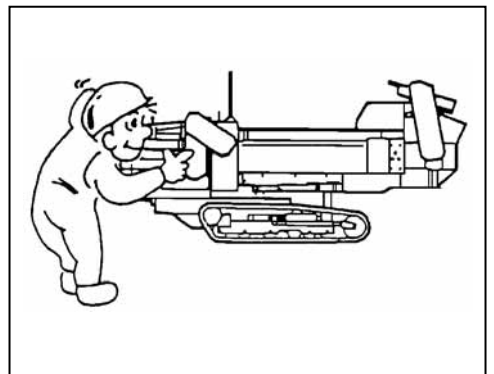


- (4) 機械の改造は絶対にしないでください。機械の故障や事故の原因になり大変危険です。



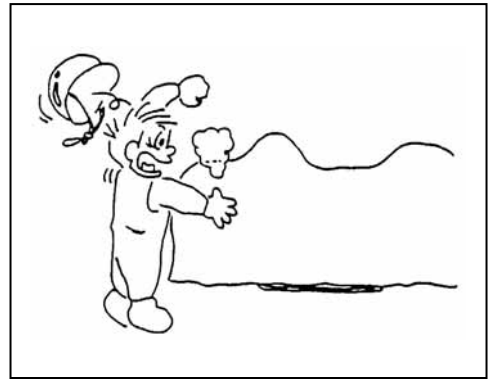
■保管・格納は

- (1) 動力を停止し、機体に付着したドロやゴミ等をきれいに取り除いてください。特にマフラーなどエンジン周辺のゴミは火災の原因となります。必ず取り除いてください。

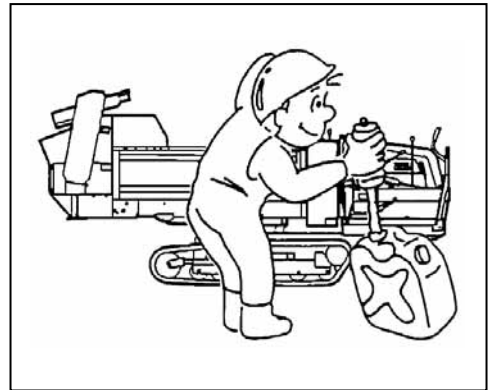


安全のポイント

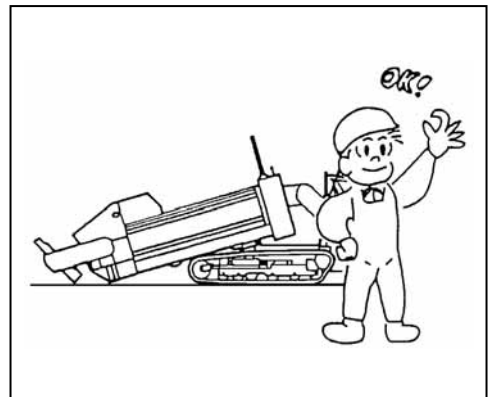
- (2) 子供などが容易にさわれないようにカバーをするか、格納庫に入れて保管してください。カバー類をかける場合は、高温部が完全に冷えてから行なってください。熱いうちにカバー類をかけると火災の原因となります。



- (3) 長期格納するときは、燃料タンクや気化器内の燃料を抜き取りましょう。燃料が変質するばかりでなく、引火などで火災の原因となり大変危険です。

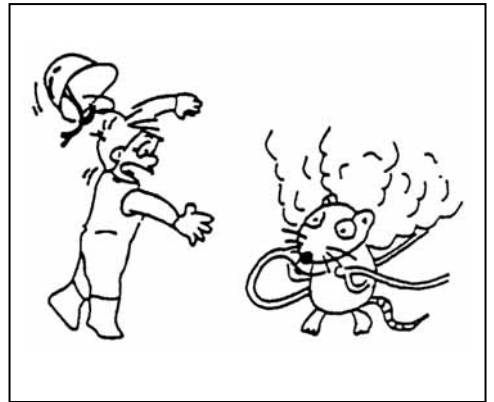


- (4) 格納するときは、荷台、及びスピナを下げて格納しましょう。長期格納していると、荷台が自然に下がり、荷台上の荷物や周囲の物を破損する恐れがあります。



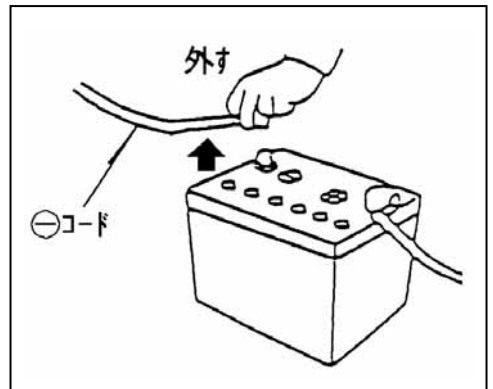
安全のポイント

- (5) 長期格納するときは、バッテリーケーブルを外しておいてください。外しておかないとネズミ等がかじって、ケーブルがショートし、発火して火災の原因となり大変危険です。

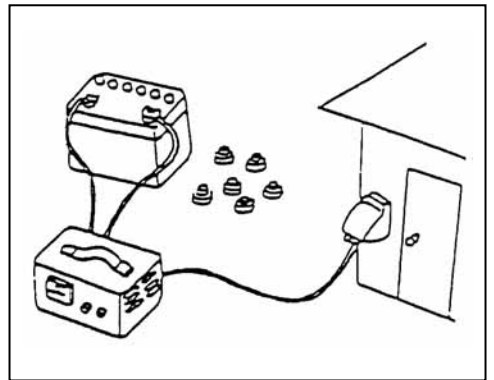


■電装品の取扱い

- (1) 電機配線の点検および配線接続部の点検は必ずエンジンを停止し、キースwitchを切りバッテリーの⊖コードを外して行なってください。これを怠ると火花が飛んだり感電したり思わぬ事故を引き起こす恐れがあります。



- (2) バッテリーを取り扱う時は、ショートやスパークさせたり、タバコ等の火気を近づけないでください。また、充電は風通しのよいところでバッテリーの補水キャップを外して行なってください。これを怠ると引火爆発することがあり大変危険です。



安全のポイント

- (3) バッテリー液（電解液）は希硫酸で劇物です。体や服につけないようにしてください。失明や火傷をすることがあり大変危険です。もしついたときは、多量の水で洗ってください。なお、目に入った時は水洗い後、医師の治療を受けてください。



- (4) バッテリー液が下限以下になったまま使用を続けたり充電を行なうと、容器内の各部位の劣化の進行が促進され、バッテリーの寿命を縮めたり、破裂（爆発）の原因となる恐れがあり大変危険です。



保証とサービス

■新車の保証

この製品には、(株)アテックス保証書が添付されています。詳しくは、保証書をご覧ください。

■サービスネット

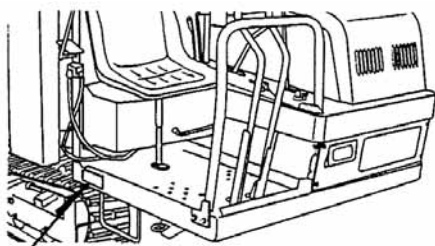
ご使用中の故障やご不審な点、及びサービスに関するご用命は、お買い上げ先へお気軽にご相談ください。

その際、

- (1) 販売型式名と製造番号
- (2) エンジン型式名とエンジン製造番号

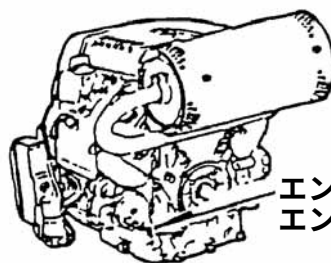
を併せてご連絡ください。

販売型式名と製造番号



販売型式名と製造番号

エンジン型式名とエンジン製造番号



エンジン型式名と
エンジン製造番号

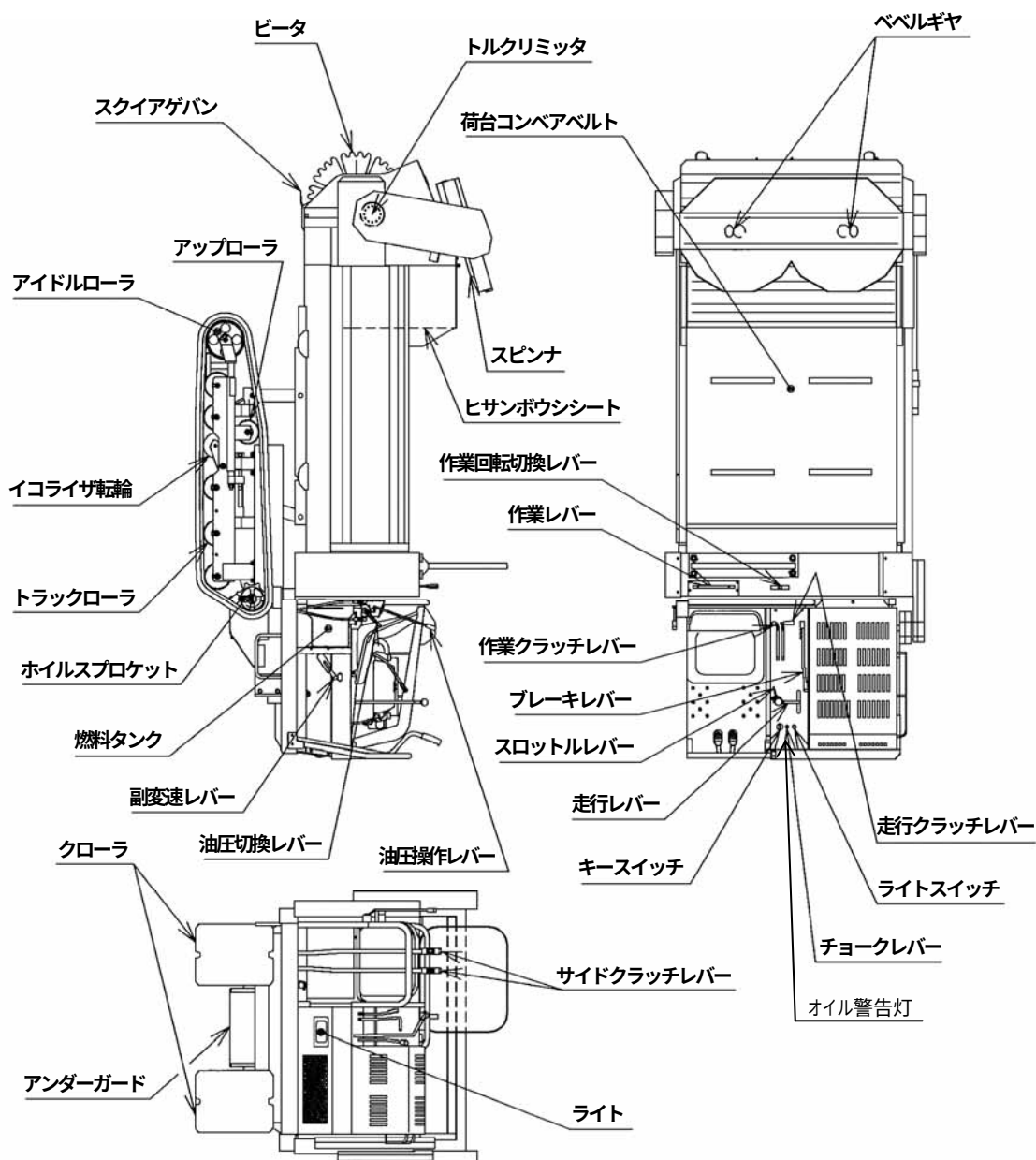
■補修用部品供給年限について

この製品の補修用部品の供給年限（期間）は、製造打ち切り後9年といたします。ただし、供給年限内であっても、特殊部品につきましては、納期などについてご相談させていただく場合もあります。

補修用部品の供給は、原則的には、上記の供給年限で終了いたしますが、供給年限経過後であっても、部品供給のご要請があった場合には、納期および価格についてご相談させていただきます。

各部の名称とはたらき

各部の名称



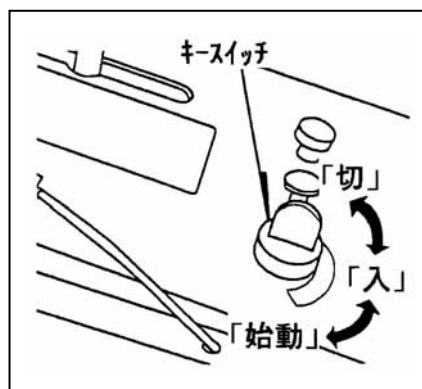
操作レバーおよびスイッチの名称とはたらき

■キースイッチ

エンジンの始動・停止を行なうスイッチです。
「切」 位置 エンジンが停止し、キーが抜き差しできる位置。

「入」 位置 エンジン回転中の位置。

「始動」位置 エンジンを始動させる位置。手を離せば自動的に「入」位置に戻ります。



※エンジンの始動・停止のしかたについては本書
36～39 ページを参照してください。

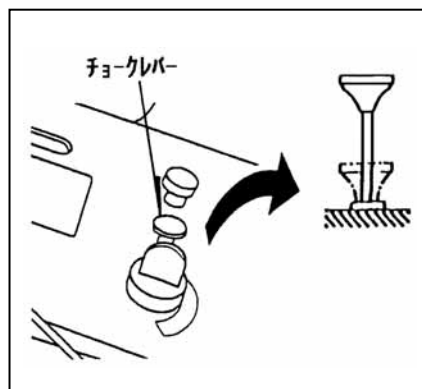
■チョークレバー

低温時等にエンジンの始動を容易にする為に使用します。

通常は、チョークレバーをいっぱいまで押し込んだ状態でエンジンの始動を行ないます。

低温時等のエンジンの始動が困難な場合には、チョークレバーをいっぱいまで引いてエンジンの始動を行ないます。

エンジン始動後は、必ずチョークレバーを元の位置（いっぱいまで押し込んだ状態）まで戻してください。



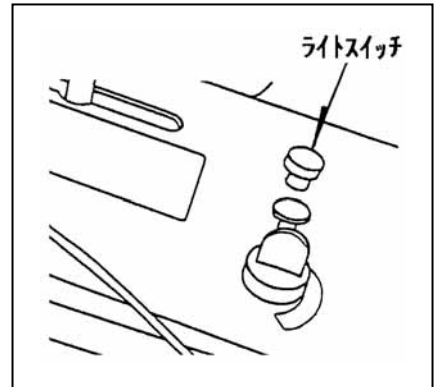
※エンジンの始動・停止のしかたについては本書
36～39 ページを参照してください。

各部の名称とはたらき

■ライトスイッチ

エンジンの始動・停止に関係なく、キースイッチが「入」位置の時に、ヘッドランプの点灯・消灯ができます。

ライトスイッチを引き上げると点灯、押し込むと消灯します。



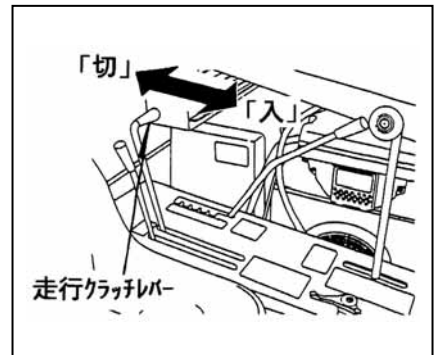
重要 ●エンジンを停止した状態で、長時間ヘッドライトを点灯すると、バッテリーあがりの原因となります。

■走行クラッチレバー

走行クラッチレバーを「入」位置にいれると、エンジンの回転がベルトによりトランスミッションに伝達されます。

(走行クラッチレバーが「入」位置に入っていると、エンジンを始動する事ができません。)

また、作業クラッチレバーが「入」位置に入っている時、走行クラッチレバーを「切」位置に戻すと、同時に作業クラッチレバーも「切」位置に戻ります。

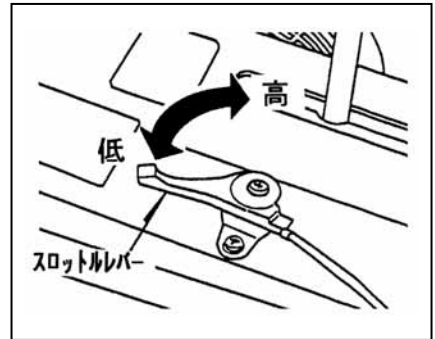


重要 ●走行クラッチレバーを操作するときは、必ず走行レバーを「中立」位置に戻してから行なってください。

各部の名称とはたらき

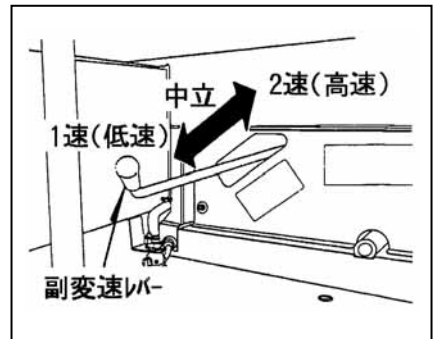
■スロットルレバー

エンジンの回転数を変えるレバーです。エンジン回転が最高の時に最大の馬力（パワー）を発生しますので、走行・作業時にはエンジン回転を最高に上げて使用してください。



■副変速レバー

副変速には1速（低速）、2速（高速）の2段があります。積込・散布等作業時には1速を使用し、車体の移動には適宜2速を使用します。



重要

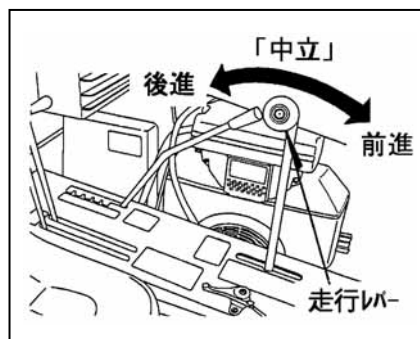
- 副変速レバーの無理な操作は、トランスミッション内部破損の原因となります。絶対にしないでください。
- 走行中の副変速レバー操作は絶対にしないでください。ギヤが破損し、決定的なダメージを受けてしまいます。
- 副変速レバー操作をする時は、走行レバーを「中立」位置にし、車体が完全に停止してから行なってください。
- 副変速レバーがスムーズに切換できない場合は、走行クラッチレバーの「入」・「切」操作を数回繰り返してから、再度副変速レバーを操作してください。

各部の名称とはたらき

■走行レバー

HSTにより前進、後進それぞれで、副変速1速時に0～4 km/h, 2速時には0～7 km/hの無段変速ができます。走行レバーを「中立」位置より前方に倒せば前進、後方に倒せば後進になります。

また、機体速度は走行レバーの倒れ角によって微速～高速まで操作できます。



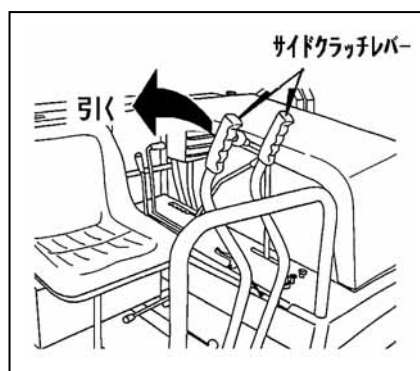
- 重要**
- 走行レバーを操作する場合は、必ず走行クラッチレバーを「切」位置に行なってください。また、走行レバーはゆっくりと操作してください。急発進やエンストの原因となります。
 - 路面状態・積載量等の条件にあった速度で走行してください。
 - 積載量により走行速度は変化します。(過積載では遅くなります。)

■サイドクラッチレバー

旋回側のサイドクラッチレバーを手前に引くと旋回します。

旋回は十分に速度を落として行なってください。また積荷が重くなると、旋回時の負荷や操作荷重が大きくなりますので注意してください。

また緊急時には、両方のサイドクラッチレバーを同時に引くとブレーキがかかり、機体が停止します。



- 重要**
- 本機のサイドクラッチ部は、ブレーキを併用しています。旋回時にサイドクラッチレバーの引き加減で旋回半径が変わりますが、サイドクラッチレバーを引ききらずにブレーキを滑らすように使用すると、ブレーキシューの寿命が極端に短くなります。

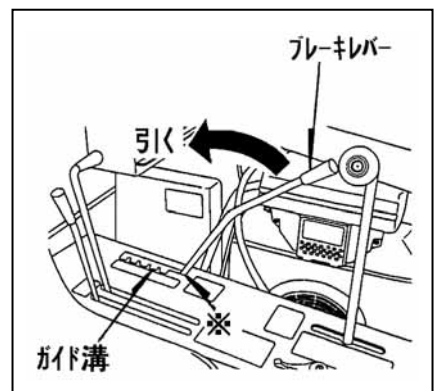
各部の名称とはたらき

■ブレーキレバー

⚠危険 ●駐車時・停車時には必ず駐車ブレーキを確実にかけ、歯止め（車止め）をしてください。これを怠ると車体が自然に動きだしたりして大変危険です。

ブレーキレバーを手前に引くとブレーキがかかります。

また、ブレーキが効いた所でガイド溝にかけると、駐車ブレーキになります。



重要 ●駐車ブレーキをかけたまま走行すると、ブレーキを傷めてしまいます。また、その時にサイドクラッチレバーを操作すると、片側旋回したまま戻らなくなる恐れがあります。走行中は、駐車ブレーキを確実に切って（※印位置まで戻して）おいてください。

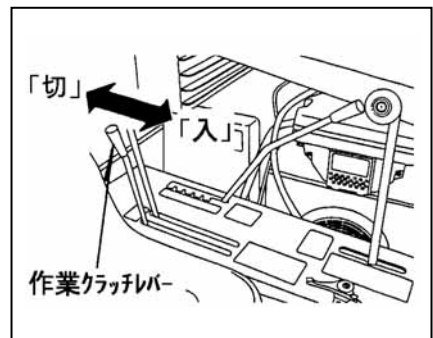
各部の名称とはたらき

■作業クラッチレバー

- ⚠危険**
- 作業クラッチレバーを操作すると、他のレバーの位置関係により、ビータ、およびスピナ等回転部が高速で回転します。周囲の安全を確認し、作業中は作業員以外の人、特に子供を近づけないでください。
 - 運転中はビータ、およびスピナ等回転部をのぞいたり、手や体を入れたりしないでください。
 - 圃場以外では、作業クラッチレバーを「切」位置にして走行してください。

作業クラッチレバーを「入」位置に入れると、エンジンの回転がベルトを介して荷台部に伝達されます。

この時、作業回転切換レバー、および作業レバーの位置関係によりビータ、およびスピナ、コンベアベルトを作動させることができます。



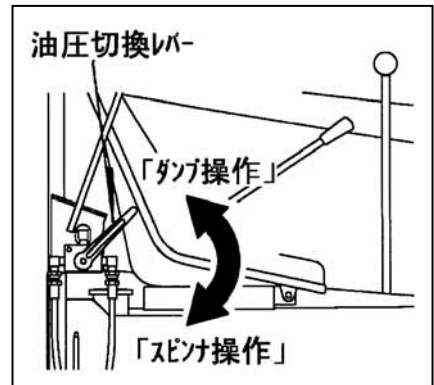
各部の名称とはたらき

■油圧切換レバー

⚠注意 ●油圧切換レバーは油圧操作レバーが「中立」位置以外では操作しないでください。切換部破損の原因となります。

荷台のダンプ操作、およびスピナ部の上下操作の切換を行うレバーです。

油圧切換レバーを上げると「ダンプ操作」、下げると「スピナ操作」が可能になります。



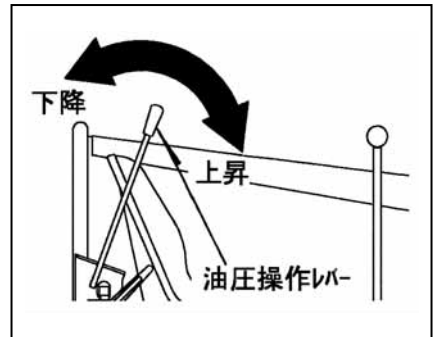
■油圧操作レバー

- ⚠危険** ●荷台が下降し、はさまれる恐れがあります。手や足を入れないでください。
- 点検・整備などを行なうときは、必ず落下防止を施してください。
 - 長時間放置すると、自然に荷台が下がり危険です。本機格納時やトラックなどによる輸送時は、あらかじめ荷台を下げた状態で格納や輸送を行なってください。
 - 長時間走行すると振動などにより、自然に荷台が少しずつ下がってくる恐れがあります。荷台に荷物を積載している際は特に注意し、下降した場合は荷台を水平に戻してください。

▲注意 ●ダンプ操作を行なう場合は、上昇・下降のいずれの場合も、必ずエンジンをかけた状態で行なってください。エンジンをかけないで荷台を下降させると、シリンダー内が真空となり、スムーズにダンプ作業ができなくなります。

エンジンをかけた状態で、走行クラッチレバーが「入」位置、油圧切換レバーが「ダンプ操作」位置にある時、油圧操作レバーを押す（荷台に向かって）と荷台が下降、引くと荷台が上昇します。

また、油圧切換レバーが「スピナ操作」位置にある時、油圧操作レバーを押す（荷台に向かって）とスピナが下降、引くとスピナが上昇します。



重要 ●荷台下降状態から、油圧操作レバーで荷台を上昇させても、リリーフ弁が作動（「ビー」という音がでます。）して、荷台が上昇しない場合は、積み過ぎですから積荷を減らしてください。また、20秒以上連続でリリーフ弁を作動させないでください。リリーフ弁が作動したら速やかに油圧操作レバーを「中立」位置に戻してください。油圧ポンプの破損につながります。

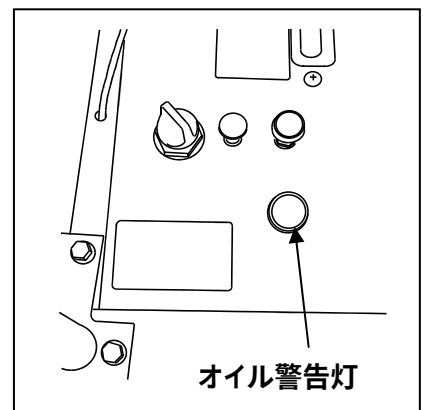
- 周囲の安全を確認して操作してください。
- 走行中の操作は、行なわないでください。
- 足場の悪い所や、傾斜地での操作は避けてください。

■オイル警告灯

エンジン始動後、エンジンオイルの量が減少すると警告灯が点灯し、エンジンオイル不足によるエンジンの焼付きを防止できます。

警告灯が点灯したときは、すみやかにエンジンを停止してエンジンオイルを補給してください。

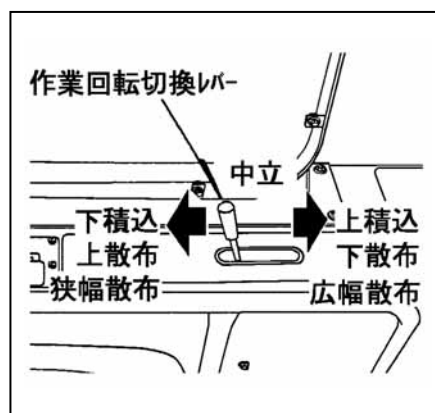
- エンジン停止時は、エンジンスイッチ「入」の位置でも警告灯が点灯します。点灯しない場合は、電装品の故障です。点検修理してください。



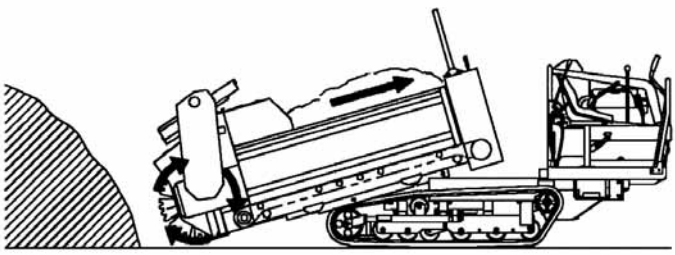
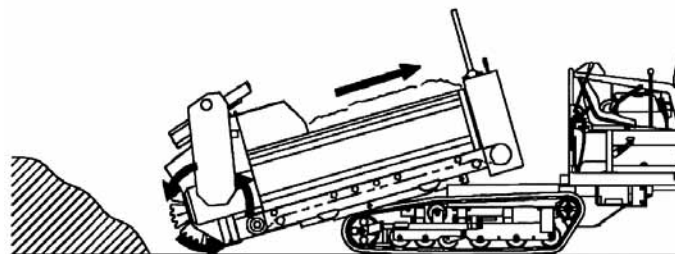
各部の名称とはたらき

■作業回転切換レバー

ビータおよびスピナの回転方向の切換を行なうレバーです。作業回転切換レバーを機体左側（エンジン側）に入れると、ビータが上積込、および下散布、スピナが広幅散布方向に回転します。また、作業回転切換レバーを機体右側（運転席側）に入れると、ビータが下積込、および上散布、スピナが狭幅散布方向に回転します。



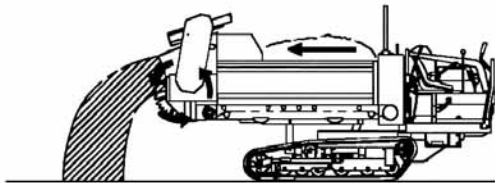
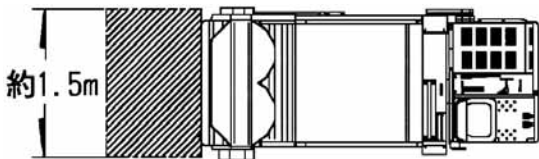
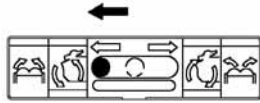
※荷台コンベアの作動方向、搬送速度の切換は、本書 33 ページ「作業レバー」の項目を参照してください。

上 積 込	堆肥の山が高い時 
下 積 込	堆肥の山が低い時 

各部の名称とはたらき

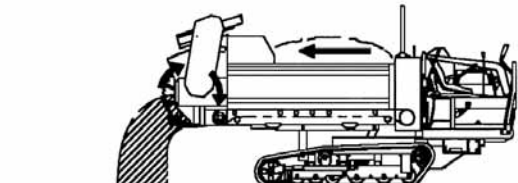
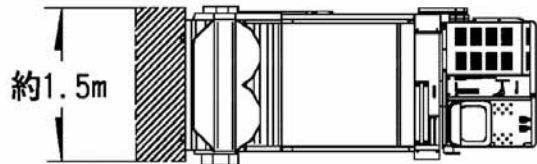
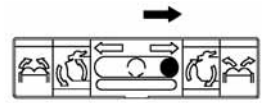
上 散 布

散布幅は約 1.5m です。但し、積込状態や堆肥の種類等により多少異なります。



下 散 布

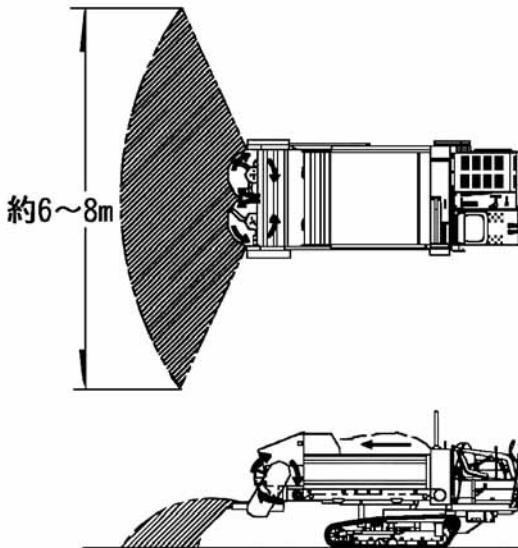
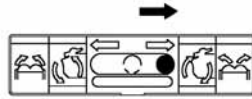
散布幅は約 1.5m です。但し、積込状態や堆肥の種類等により多少異なります。



各部の名称とはたらき

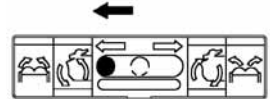
上 散 布

散布幅は約 6～8m
です。但し、積込状
態や堆肥の種類等
により多少異な
ります

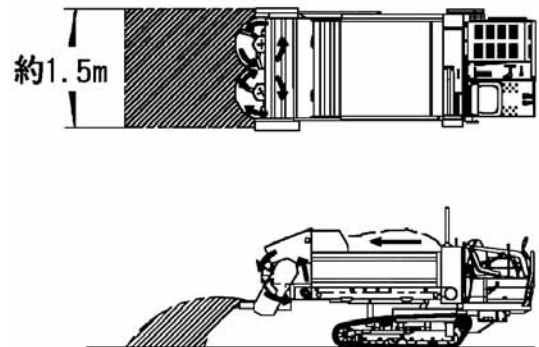


下 散 布

散布幅は約 1.5m で
す。但し、積込状
態や堆肥の種類等
により多少異な
ります



※散布幅は通常の上・下散布と同じです
がより均一に散布できます。



重要

- 作業回転切換レバーの無理な操作は反転ギヤボックス内部破損の原因となります。絶対にしないでください。
- 作業回転切換レバーの操作をする時は、作業クラッチレバーを「切」位置にし、ビータの回転が完全に停止してから行なってください。
- 作業回転切換レバーがスムーズに切換できない場合は、作業クラッチレバーの「入」・「切」操作を数回繰り返してから再度、作業回転切換レバーを操作してください。
- 堆肥の状態、使用条件に合わせて使い分けてください。

各部の名称とはたらき

■作業レバー

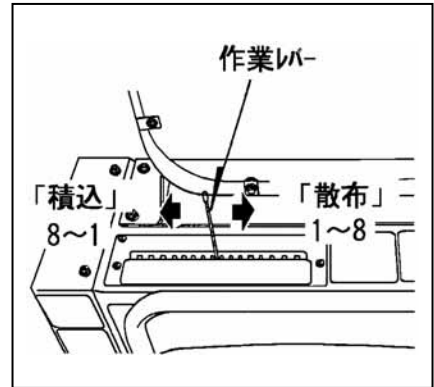
荷台コンベアの搬送方向の切換、および搬送速度の変更を行うレバーです。

作業レバーを「積込」側に倒すと荷台コンベアは前方へ動き、「散布」側に倒すと後方へ動きます。

作業レバーの倒れ角が大きい程（1～8の数字が大きい程）荷台コンベアの搬送速度が速くなり、倒れ角が小さい程遅くなります。

積込作業では、含水堆肥使用時には荷台コンベア速度を遅く、乾燥堆肥使用時には速く、を目安にして作業を行ってください。

散布作業では少量散布（薄まき）の場合には荷台コンベア速度を遅く、多量散布（厚まき）の場合では速度を速く、を目安にして作業を行ってください。



重要

●散布量は、機体の走行速度によっても変化しますので、作業レバーと走行速度を合わせて調整してください。

作業の準備

使用前の点検について

■始業点検

故障を未然に防ぐには、機械の状態をよく知っておくことが大切です。始業点検は毎日欠かさず行なってください。

点検は次の順序で実施してください。

(1) 前日、異常のあった箇所

(2) 車体を確認して

●エンジンオイルの量、および汚れ	70 ページ
●燃料フィルタの水、沈殿物の点検	70 ページ
●ギヤボックスオイルの量、および汚れ	63・64 ページ
●走行ベルトの張り具合、損傷	74・76 ページ
●クローラの張り具合、損傷	89 ページ
●エアクリーナの清掃	エンジン取扱説明書
●燃料は十分か、燃料キャップの締め付け	70 ページ
●油圧ポンプのオイル量、および汚れ	69 ページ
●油圧系統の油漏れ	
●車体各部の損傷、およびボルト・ナットの緩み	
●駐車ブレーキの作動	26・79 ページ

(3) エンジンを始動して

- スロットルレバーの作動
- 排気ガスの色、異常音

作業の準備

(4) 徐行しながら

- サイドクラッチレバーの重さ、および停止 25・76～78 ページ
- 走行クラッチレバーの作動 23・74 ページ
- 走行レバーの作動 25・75 ページ
- 走行部の異常音

(5) 作業クラッチレバーを操作して

- ビータ（回転部）の作動、および停止 27・30～32 ページ
- スピンナの作動、および停止 27・32 ページ
- 伝動ベルトの張り 79・80 ページ
- 伝動チェンの張り 81 ページ
- 荷台コンベアベルトの損傷、張り 82～83 ページ

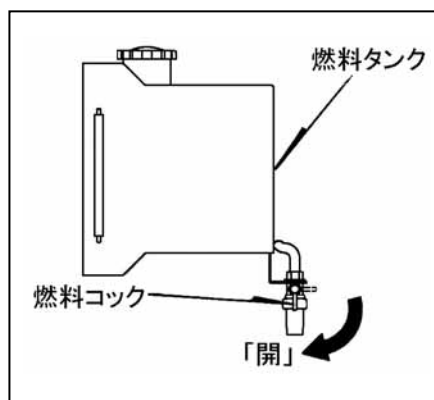
作業のしかた

運転操作の要領

■エンジンの始動

警告 ●急発進することがあり大変危険です。エンジンを始動するときは、走行レバーの位置を「中立」位置にし、走行クラッチレバーを「切」位置にして、周囲の安全を確認してから行なってください。

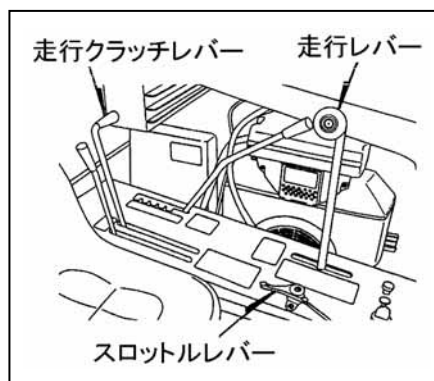
(1) 燃料の量を確認し、燃料コックを開けます。



(2) 走行レバーを「中立」位置にします。

(3) 走行クラッチレバーを「切」位置にします。

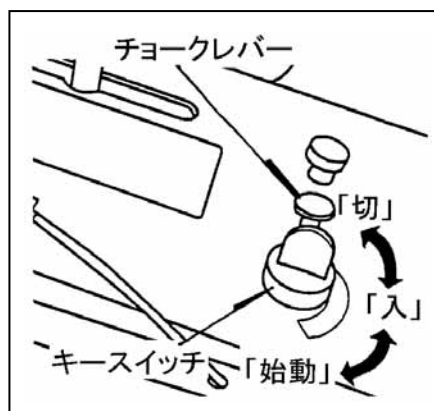
(4) スロットルレバーを中回転以上に上げます。



作業のしかた

(5) チョーク操作を行ないます。

- 冷機時はいっぱい操作（引いて全閉）します。
- 暖機時は半分程度操作します。
（または操作なし）
※エンジン始動後、チョークレバーは元の位置に戻してください。



(6) エンジンを始動させます。

- キースイッチにキーを差し込み、キーを「始動」位置に回し、エンジンが始動したら、ただちにキーから手を放します。

⚠️ 注意 ●暖機運転中は必ず走行クラッチレバーを「停止」位置、走行レバーを「中立」位置にしてください。これを怠ると、自然に動きだし大変危険です。

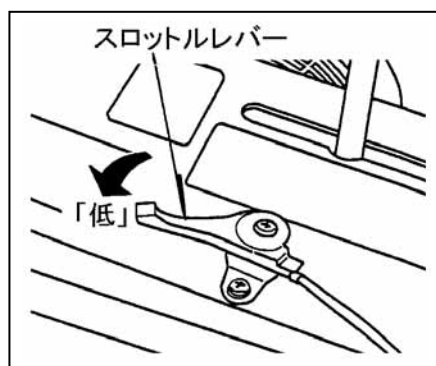
重要

- エンジンの暖機運転をしないで走行・作業をしますと、エンジンの寿命が短くなります。1～2分程度の暖機運転をしてください。
- 走行クレッチレバーが「切」位置以外では、エンジンは始動できません。
- セルモータを10秒間回しても始動しないときは、30秒程休ませてから再操作してください。連続使用するとセルモータ破損の原因となります。
- エンジン運転中、キーを「始動」位置にすると、セルモータが破損します。絶対にキーを回さないでください。

■エンジンの停止

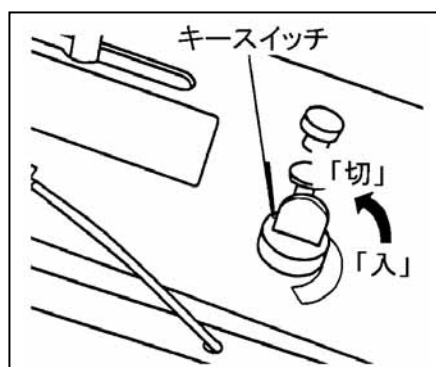
⚠警告 ●接触すると火傷することがあります。エンジン停止後、冷えるまではさわらないでください。

- (1) スロットルレバーを戻して、しばらく低速運転をしてください。



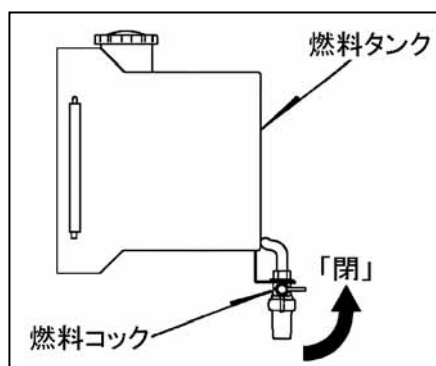
- (2) エンジンを停止します。

- キースイッチを「切」位置に回し、エンジンを停止します。エンジン停止後は、必ずキーを抜いてください。



- (3) 燃料コックを閉じてください。

- (4) 万一、故障しエンジンが停止しないときは、燃料タンク側面にある燃料コックを閉じて、燃料がなくなるまで放置してください。



作業のしかた

重要

- エンジンを高回転のまま停止しないでください。
- 運転後はアイドリング回転で1～2分間程、無負荷運転を行ってからエンジンを停止してください。特に長時間運転後は、アイドリング回転で2～3分間程、無負荷運転を行ってからエンジンを停止してください。

■発進のしかた



危険

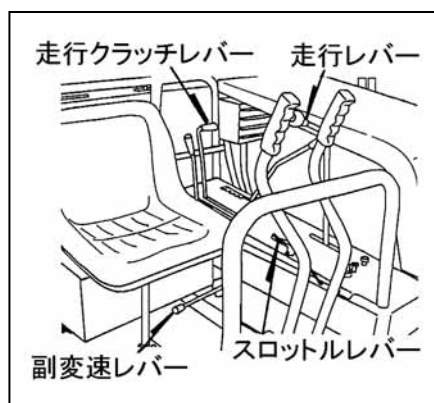
- 転落・転倒する恐れがあります。路肩付近や軟弱地では十分注意して使用してください。
- 障害物にはさまれる恐れがあります。進行方向の安全を常に確認してください。



警告

- 運転中または回転中に、回転部（ベルト・プーリ）に触れるとケガをします。触れないでください。

- (1) 副変速レバーを「1速」もしくは「2速」位置にいます。
- (2) 走行レバーが「中立」位置にあることを確認します。
- (3) スロットルレバーを高回転にします。
- (4) 走行クラッチレバーを「入」位置にします。
- (5) 走行レバーをゆっくりと倒すと発進します。



●前進

走行レバーを「前進」方向にゆっくりと倒してください。

●後進

走行レバーを「後進」方向にゆっくりと倒してください。

作業のしかた

重要

- 走行レバーを倒す角度によって走行速度が変わります。少し倒せばゆっくりと走行し、多く倒せば速く走行します。
- 走行速度調整をスロットルレバーで行なわないでください。HSTの破損につながります。

■ 旋回のしかた

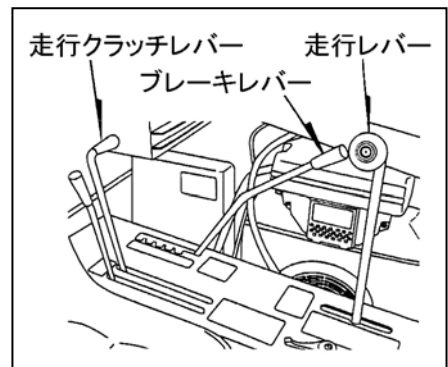
旋回のしかたについては、25、42～45ページをご参照ください。

■ 停車・駐車

確実に停車するために、必ず走行レバーを「中立」位置にした後、走行クラッチレバーを「切」位置にしてください。

必要がある場合は、ブレーキレバーにてブレーキおよび駐車ブレーキを確実にかけてください。（26ページ参照）

駐車する場合には、ブレーキレバーにて駐車ブレーキを確実にかけてください。



重要

- 停車する場合、走行クラッチレバーを確実に「切」位置にしてください。
- 駐車および運転者が機体から離れる場合には、必ずブレーキレバーにて駐車ブレーキをかけてください。
- 下り坂で停車する場合は、必ず走行レバーを「中立」位置にして、スロットルレバーを戻し、走行クラッチレバーを「切」位置にし、素早くブレーキレバーにて駐車ブレーキを確実にかけてください。また、機体から離れる場合には、歯止め（車止め）をしてください。
- 緊急時以外は、急ブレーキをかけたり、サイドクラッチレバー操作による急停止（25ページ参照）をしないでください。機体やギヤボックスに負担がかかり、機体の寿命に影響するばかりか、急な下り坂では転倒の恐れがあります。

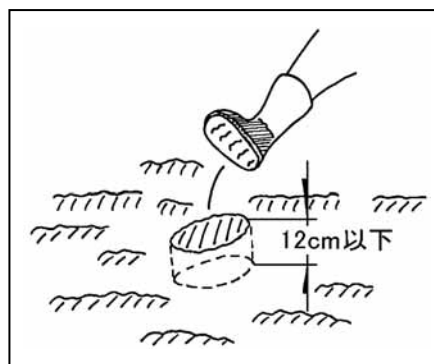
■緊急停止後の再発進

緊急時、走行レバーが「中立」位置以外で、走行クラッチレバーを「切」にして停止した場合、走行レバーを「中立」位置に戻してから再発進してください。
(36・37ページ参照)

警告 ●エンジンが停止している場合は、走行クラッチレバーを「切」位置にした後、エンジンを始動してください。
(36・37ページ参照)

■圃場の条件

本機を湿田等の軟弱地で使用する場合には、足を踏み入れた時、足の沈み込みが12cm以下（本機を圃場へ入れた時、沈み込みがトラックローラの中心以下）の場所で使用してください。



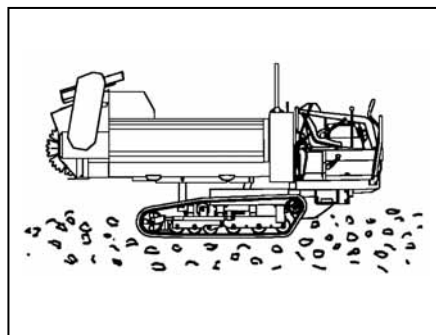
重要

- 足の沈み込みが12cm以上（本機の沈み込みがトラックローラの中心以上）のぬかるみのひどい場所では使用しないでください。本機が底づかえし、走行および旋回が出来なくなる恐れがあります。
- 湿田等の軟弱地で使用した後、アンダーガード内に泥やワラ等の異物が入り込んでいる場合には、必ず水洗い等にて、アンダーガード内およびギヤボックス下部に付着した異物を取り除いてください。また、操作ロッドや回転部に注油しサビ付を防いでください。これを怠ると、泥やワラ等が乾いて固まり、ギヤボックスが正常に作動しなくなり、旋回が出来なくなる恐れがあります。

■ゴムクローラへの注意

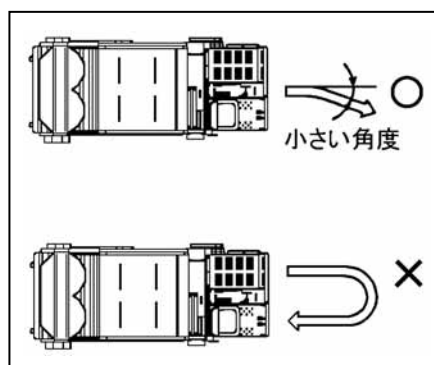
重要

- 鉄道の線路敷のような、小石がたくさんある場所では、その場旋回のような小回りターンをすると、スプロケットとクローラの間に石が入り、クローラ等が破損する恐れがあります。



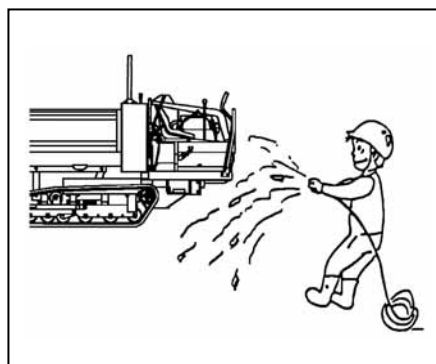
重要

- 砂利道のような、小石がたくさんある場所では、急ターンや半径の小さい蛇行運転を避け、直進や小さい角度の方向転換の運転をするよう注意してください。



重要

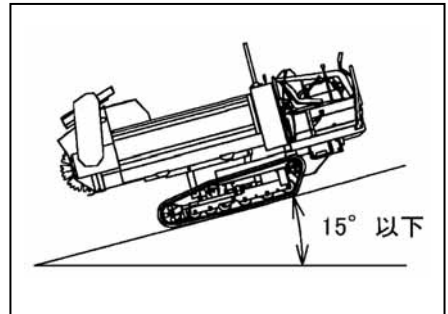
- 湿田等の軟弱地で走行した後、スプロケットの中に泥やワラ等の異物が残っている場合には、水洗い等で取り除いてください。
- 泥等が乾いて固まった場合には、走行中の土や泥がスプロケットから抜けなくなり、クローラの破損の恐れがあります。
- 使用後は、機械をきれいに清掃してください。



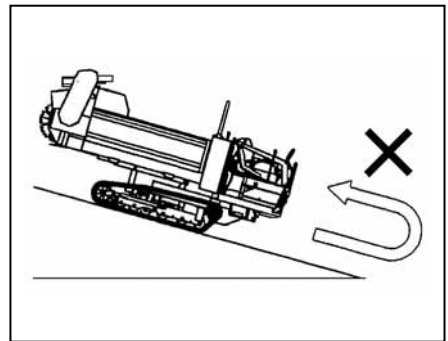
作業のしかた

■坂道での運転

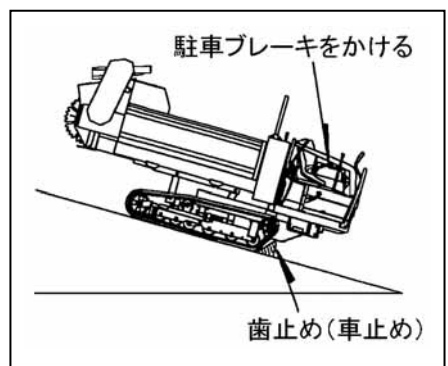
- (1) 本機は 15° 以下の坂道で使用してください。



- (2) 坂道では、必ず微速もしくは低速走行し、Uターンは避けてください。
また、下り坂では、走行レバーで速度調整を行ない、ブレーキの使用は避けてください。



- (3) 坂道で駐車する場合は、走行レバーを「中立」位置に戻し、走行クラッチレバーを「切」位置に入れ、駐車ブレーキを掛けて必ず歯止め（車止め）をしてください。



重要

- 転倒の恐れがありますので、特に坂道では急な旋回をしないでください。
- 下り坂で停止する場合は、走行レバーを緩やかに「中立」位置にもどし、機体を停止させてから走行クラッチレバーを「切」位置にし、素早くブレーキレバーにて駐車ブレーキを確実にかけてください。
- 坂道で負荷が大きくなり、エンジン回転が低くなった場合、走行レバーを「中立」側に戻し、走行スピードを遅くしてエンジン回転を上げてください。
- 坂道の状況に応じた安全なスピードで走行してください。スピードを出しすぎると、思わぬ傷害事故を引き起こす恐れがあります。

⚠ 危険

- 坂道走行中にエンジンが停止した場合には、ブレーキレバーを素早く引いて駐車ブレーキをかけてください。
- 坂道でエンジン停止中に駐車ブレーキを解除すると、機体が自然に動きだし大変危険です。

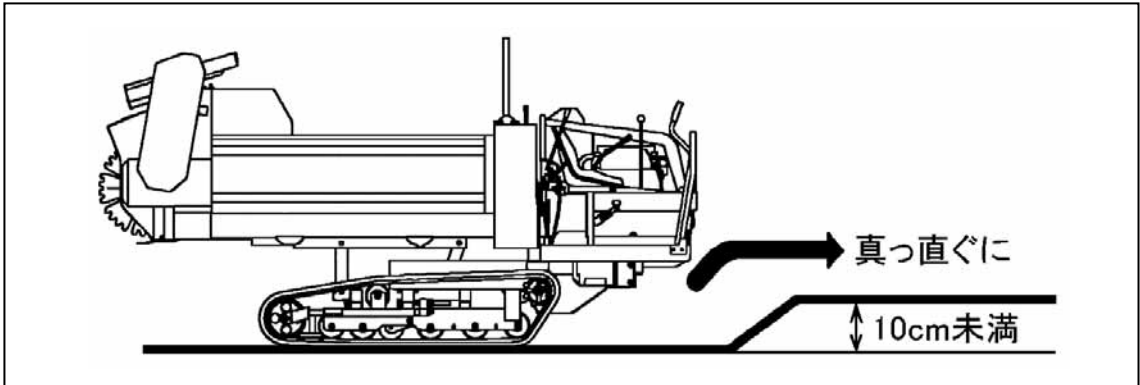
⚠ 注意

- 下り坂での旋回は、平地での旋回時よりも旋回半径が大きくなりますので十分注意してください。

作業のしかた

■その他走行時の注意

凹凸はできるだけ避けて、機体にショックがかからないようにしてください。
もし凹凸越えをする場合は、必ず低速にし、真っ直ぐに乗り越えてください。



⚠️ 注意 ● 畦越えや、圃場への出入り等傾斜のきつい所（ 20° 以上）や、段差の高い所（ 10 cm 以上）を走行する時は、必ずアユミ板を使用してください。

堆肥積込・散布の要領

■堆肥の積込のしかた

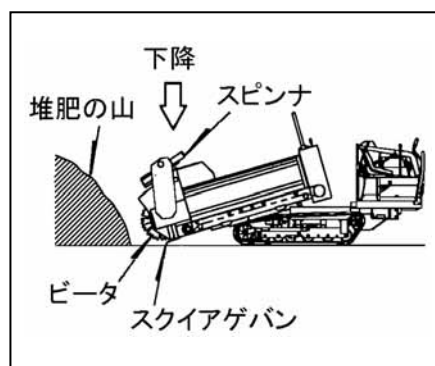
⚠危険 ●運転中または回転中に、ビータおよびスピナの中に手を入れると回転物に接触し、ケガをすることがあります。ビータのなかに手を入れないでください。

⚠警告 ●運転中または回転中に、カバーを開けると回転物に接触し、ケガをすることがあります。カバーを開けないでください。
●飛散物または吐出物が当り、ケガをすることがあります。運転中または回転中に、ビータおよびスピナの中をのぞいたり、吐出方向に近寄ったりしないでください。

⚠注意 ●作業を開始するときは、必ず周囲の安全を確認し、作業中は作業
者以外の人、特に子供を近づけないでください。

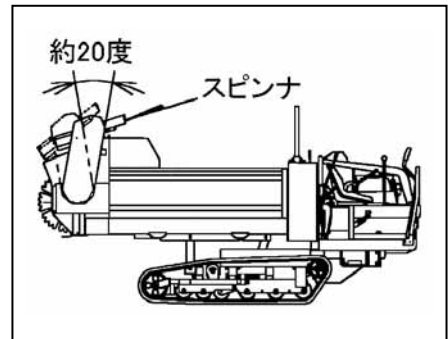
- (1) 堆肥の山の前で停止し、油圧切換レバーを「ダンプ操作」側にし油圧操作レバーを押して（荷台にむかって）、ビータ部のスクイアゲバン先端が地面に接触する程度まで荷台をダンプ下降させます。

※この時、スピナは一杯まで上昇させておいてください。

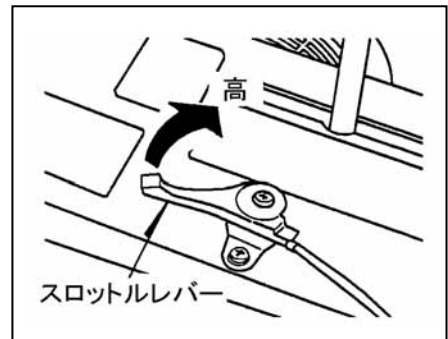


作業のしかた

但し、スピナを一杯まで上昇させた後、すぐに約20度ほど下降させ、再度一杯まで上昇させてください。この操作を省くと、ビータを回転させたと同時に、一瞬スピナも回転し、スピナに付着していた物が作業側側に飛散する恐れがあります。

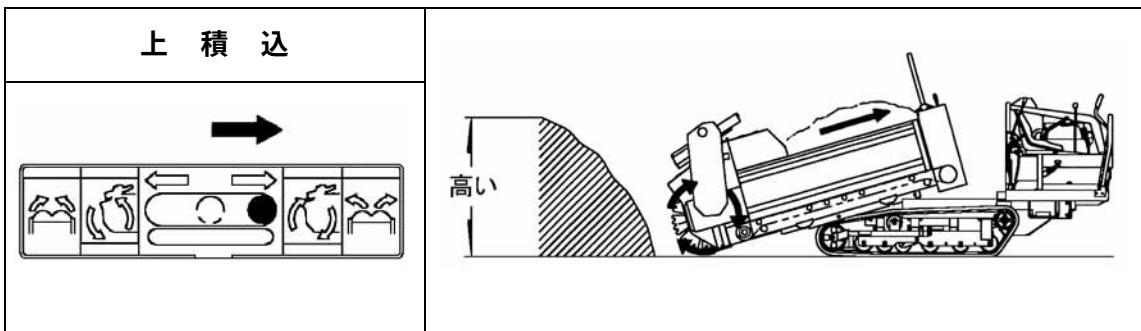


(2) スロットルレバーを高回転にします。



(3) 作業回転切換レバーを堆肥の状況に合わせて、「上積込」位置もしくは「下積込」位置に入れます。

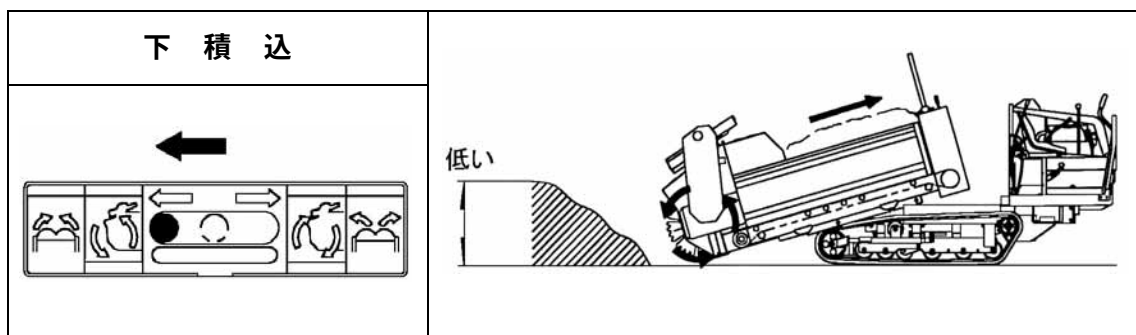
●堆肥の山が高い場合



作業のしかた

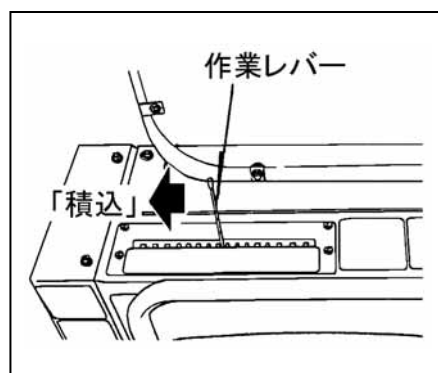
●堆肥の山が低い場合（約 70 cm 以下）

●整地作業



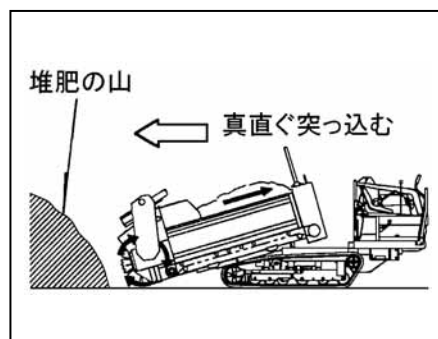
(4) 作業レバーを「積込」側へ倒し、荷台コンベアを前方へ作動させます。

※荷台コンベアの搬送速度は、本書 33 ページを参照してください。



(5) 作業クラッチレバーを「入」位置に入れてビータを回転させながら、堆肥の条件に合わせ走行レバーで走行速度を調整しながら、堆肥の山に真っ直ぐに突っ込んで堆肥を積込んでください。

要領としては、速度を微速にしてビータの爪でかき込んだ分だけ後進して、積込作業をしてください。（無理に突っ込んでも堆肥は多く積めません。）

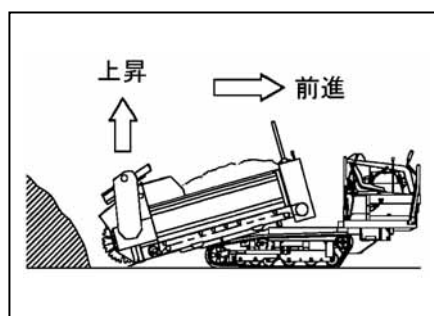


重要

●荷台を少しづつ上げながら（油圧レバーを操作）、堆肥の山をかき取るように作業すると多く積めます。

作業のしかた

- (6) 荷台に堆肥を積載したら、走行レバーを操作して前進してください。
- (7) 油圧操作レバーを引いて（前進方向へ）荷台を水平位置までダンプ上昇させてください。
- (8) 作業クラッチレバーを「切」位置にして、ビータの回転を停止してください。



重要

- 積載作業中、無理に堆肥の山に突っ込むと、エンストや故障の原因となります。堆肥の条件に合わせて走行速度を調整してください。
- 積載作業中にエンストした場合は、一度作業クラッチレバーを「切」位置にして走行レバーを「中立」位置・走行クラッチレバーを「切」位置に戻し、エンジンを始動方法に従って始動させ、荷台を水平位置まで上げ、一度機体を前進させ堆肥の山から出してから、積込作業を再開してください。
- 荷台コンベアベルトは、使用していると小石のかみこみ等により、多少の傷や小さな溝ができます。性能上問題はありませんが、小石の多い場所での使用は極力さけてください。めくれ上り部はカッター等で切り取ってください。荷台コンベアベルトが横方向に切れている場合は、キズが進行しますので早めに取り換えてください。

作業のしかた

■堆肥の散布のしかた

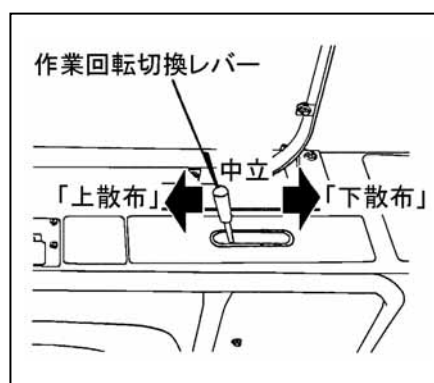
⚠危険 ●運転中または回転中、ビータおよびスピナの中に手を入れると回転物に接触し、ケガをすることがあります。ビータおよびスピナの中に手を入れないでください。

⚠警告 ●運転中または回転中に、カバーを開けると回転物に接触し、ケガをすることがあります。カバーを開けないでください。
●飛散物または吐出物が当り、ケガをすることがあります。運転中または回転中に、ビータのなかをのぞいたり、吐出方向に近寄ったりしないでください。

⚠注意 ●作業を開始するときは、必ず周囲の安全を確認し、作業中は作業者以外の人、特に子供を近づけないでください。

1. ビータでの散布

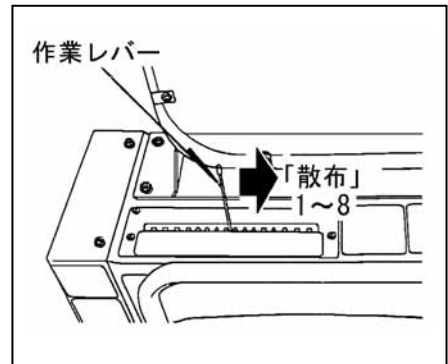
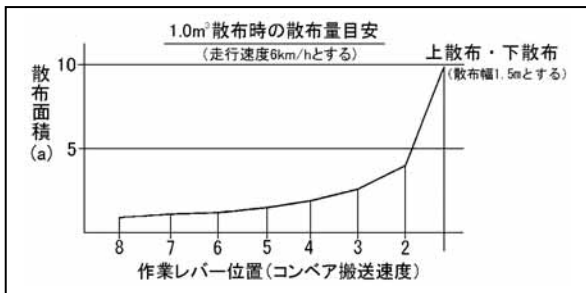
(1) 作業回転切換レバーを「上積込」位置もしくは「下積込」位置に入れます。



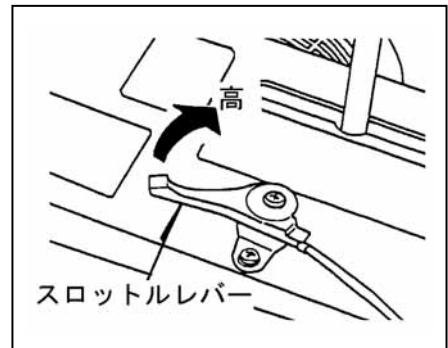
作業のしかた

- (2) 作業レバーを「散布」側 1～8 のいずれかに入れます。

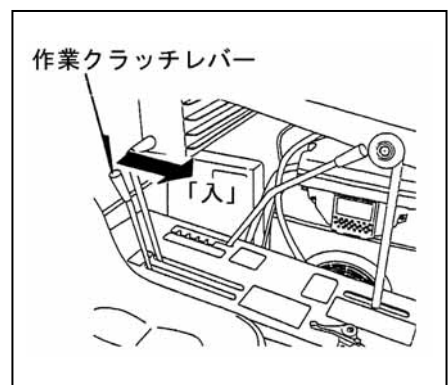
散布量の目安は、下記の表を参考にしてください。



- (3) スロットルレバーを高回転にします。

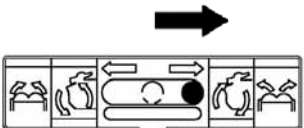
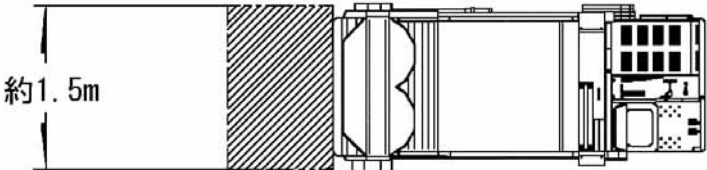
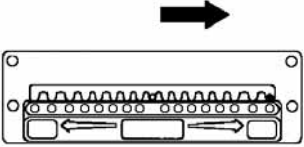
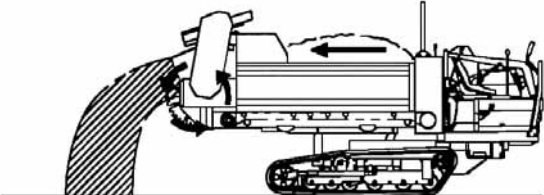


- (4) 作業クラッチレバーを「入」位置に入れます。

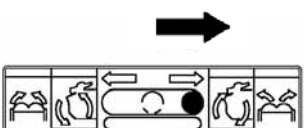
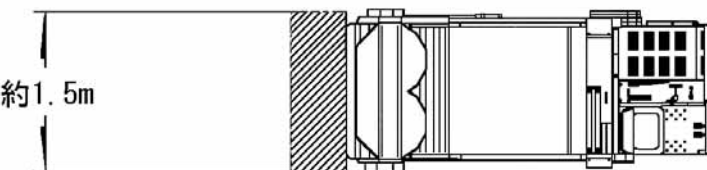
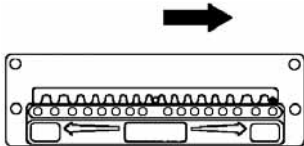
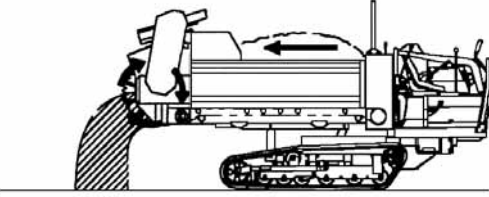


作業のしかた

●堆肥を遠くへ飛ばしたい場合

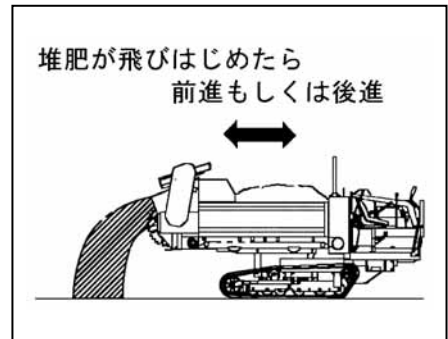
上 散 布		 約1.5m
「散布」側1～8		

●堆肥を下へ落としたい場合

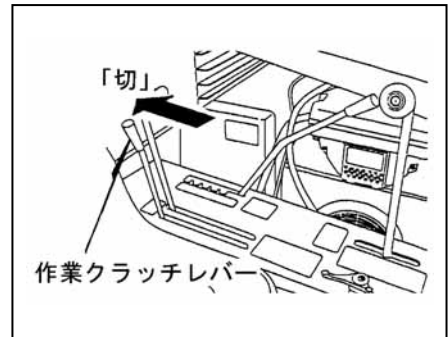
下 散 布		 約1.5m
「散布」側1～8		

作業のしかた

- (5) ビータが回転を始め、堆肥が機体後方へ飛びはじめたら走行レバーを操作して前進もしくは後進し、散布作業を行ってください。

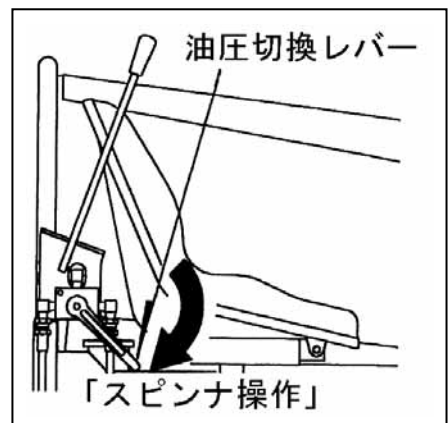


- (6) 堆肥の散布が終了したら、作業クラッチレバーを「切」位置に戻してください。



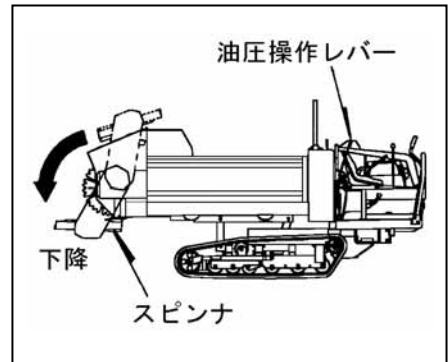
2. スピナでの散布

- (1) 油圧切換レバーを「スピナ操作」側に下げます。

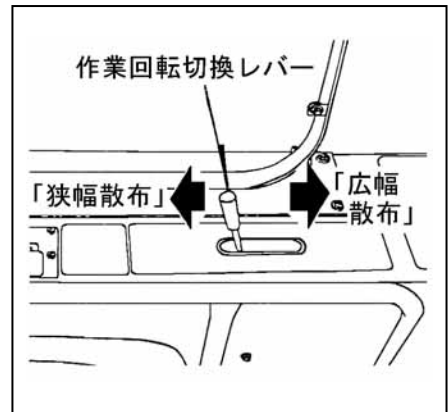


作業のしかた

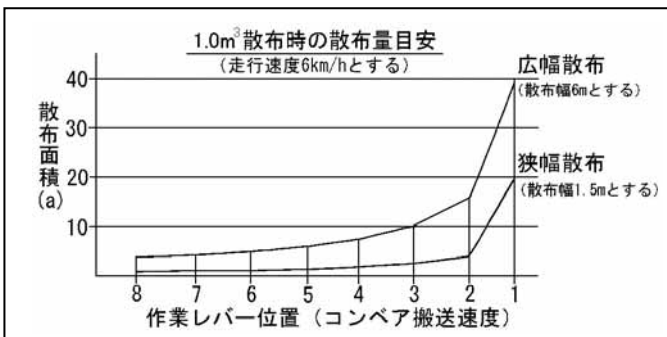
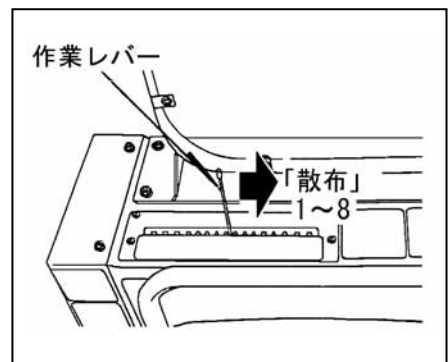
- (2) 油圧操作レバーを操作して（荷台側へ押す）
スピナをいっぱいまで下降させます。



- (3) 作業回転切換レバーを「広幅散布」位置、
もしくは「狭幅散布」位置に入れます。

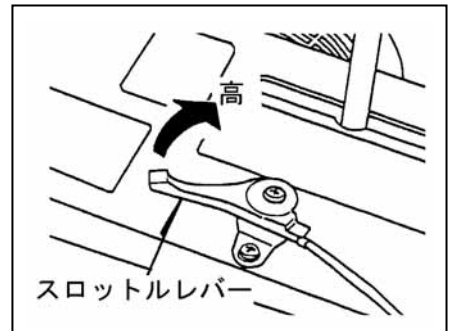


- (4) 作業レバーを「散布」側 1～8 のいずれかに
入れます。
散布量の目安は、下記の表を参考にしてく
ださい。

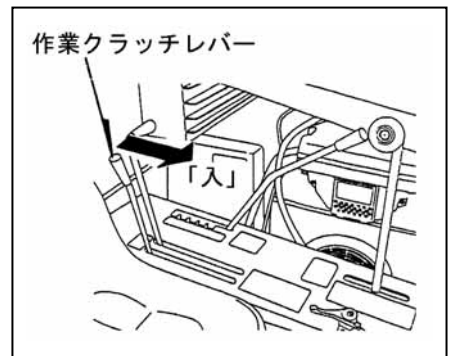


作業のしかた

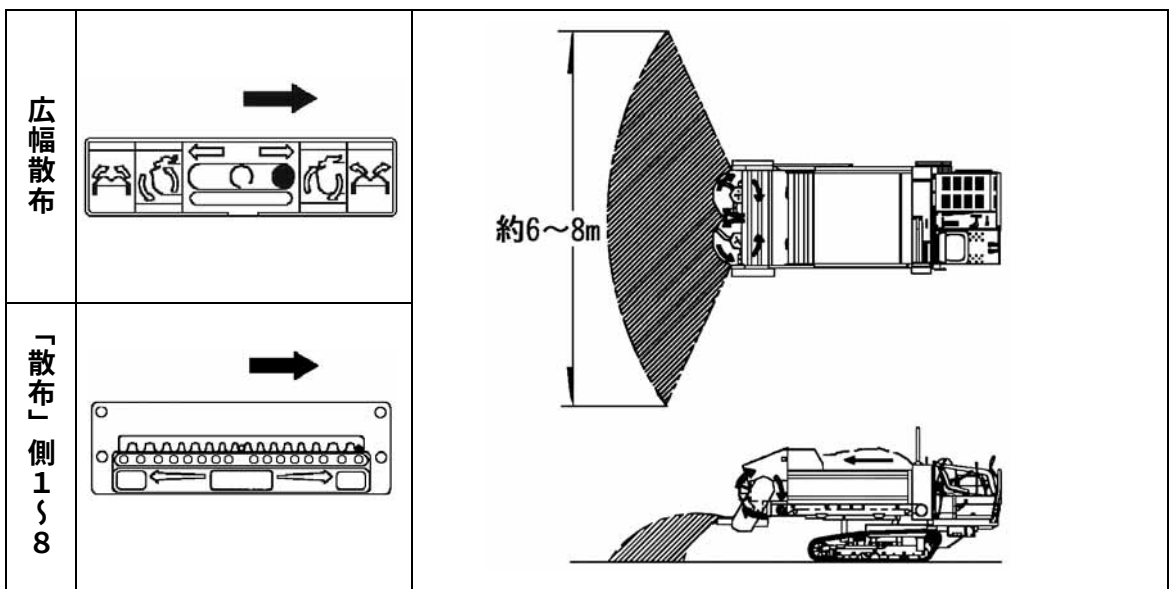
(5) スロットルレバーを高回転にします。



(6) 作業クラッチレバーを「入」位置に入れます。



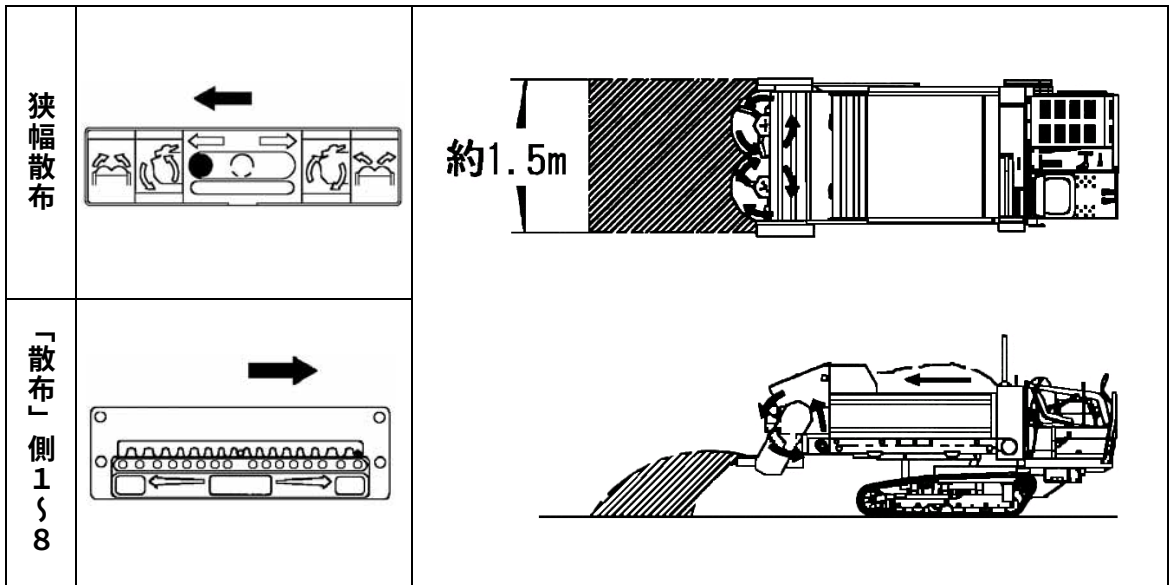
●堆肥を広幅散布したい場合



※堆肥の種類および積込状態により、散布幅は若干異なります。

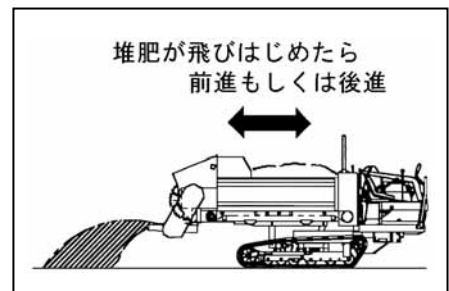
作業のしかた

●堆肥を狭幅散布したい場合

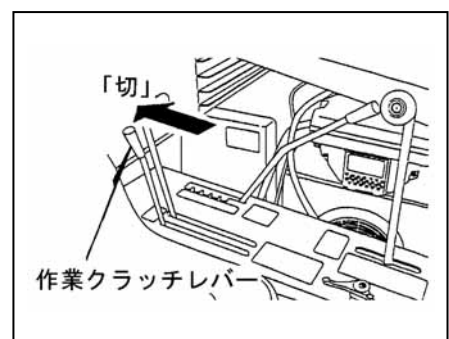


※ビータでの散布の場合と比べ均一に散布できます。

- (7) ビータおよびスピナが回転を始め堆肥が前方へ飛びはじめたら、走行レバーを操作して前進もしくは後進し、散布作業を行なってください。

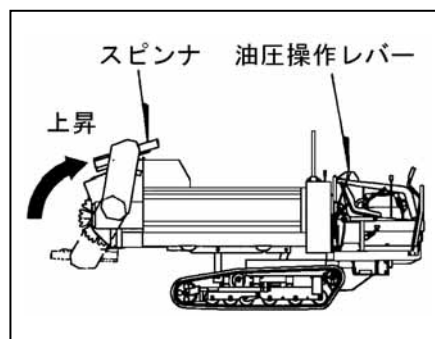


- (8) 堆肥の散布が終了したら、作業クラッチレバーを「切」位置に戻してください。



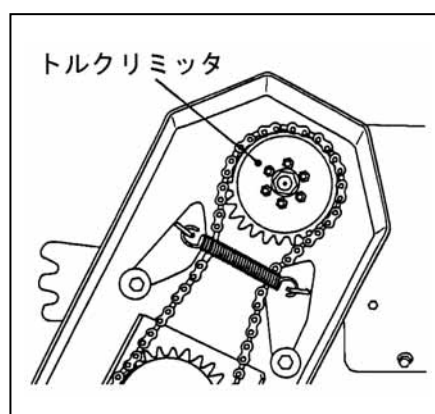
作業のしかた

- (9) 油圧操作レバーを操作して（前進方向へ引く）スピナをいっぱいまで上昇させます。この時、スピナをいっぱいまで上昇させた後、すぐに約20度ほど下降させ、再度いっぱいまで上昇させてください。この操作を省くとピータを回転させたと同時に一瞬スピナも回転し、スピナに付着した物が作業側に飛散する恐れがあります。



●トルクリミッタについて

本機には、スピナ部保護のため、トルクリミッタ（シャープピン式）を装着してあります。スピナ部が過負荷になった時（石噛み等によりロックした時）トルクリミッタ内部のシャープピンが折れることでスピナ部を保護します。トルクリミッタが一度作動すると、スピナ部への伝動が遮断され、再度作業を行なうためにはシャープピンの交換が必要です。



重要

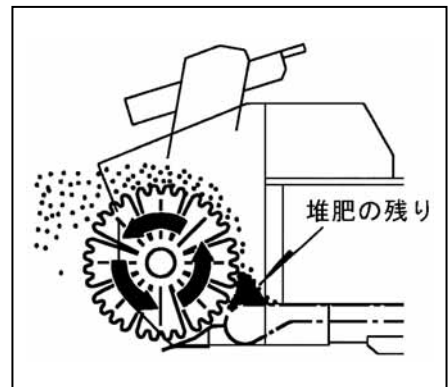
- 散布量の調整は、作業レバーの1～8の調整と機体の走行速度によって決まります。均一に散布するためにも走行速度を一定に保ってください。
- スピナは散布開始直前に下降させ、移動中は必ずいっぱいまで上昇させておいてください。移動中に下降させているとスピナ上に堆肥がくずれ落ち、スピナ回転開始時に負荷がかかり、スピナ駆動チェーンの破損およびトルクリミッタの早期磨耗につながります。

重要

- スピナ散布時にトルクリミッタが作動した場合は、素早く作業クラッチレバーを「切」位置に戻し、ビータおよびスピナの回転を完全に停止させ、走行レバーを「中立」位置・走行クラッチレバーを「切」位置に戻しエンジンを停止させ、スピナ上の異物を取り除いてから、シャープピン交換要領（P87）に従い予備のシャープピンと交換してください。

その後、エンジンを始動方法に従って始動させ、散布作業を再開してください。（トルクリミッタが一度作動すると、スピナへの動力は遮断されます。）

- 「上散布」および「狭幅散布」作業を行うと、ビータの手前で荷台コンベア上に多少堆肥が残ります。すべて散布するときは、一度作業クラッチレバーを「切」位置に戻して、ビータの回転を完全に停止させてから、「下散布」もしくは「広幅散布」を行なってください。



- 荷台コンベアベルトは、使用していると小石のかみこみ等により、多少のキズや小さな溝ができます。性能上問題はありませんが、小石の多い場所での使用は極力避けてください。めくれ上り部はカッター等で切り取ってください。荷台コンベアベルトが横方向に切れている場合は、キズが進行しますので、早めに取り換えてください。

積載要領

■最大作業能力

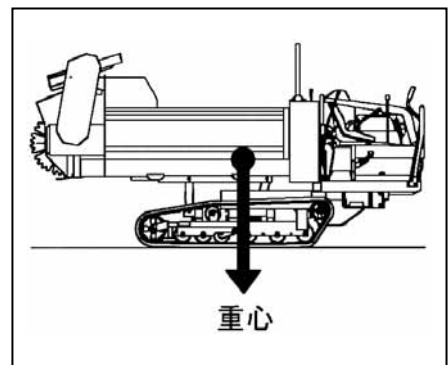
⚠警告 ●転倒の恐れがあります。最大作業能力以上は積載しないでください。

作業能力は下記の通りです。

勾 配	作業能力 (kg)
平 坦 地	1 0 0 0
1 5 ° 以下の下り坂	7 0 0
1 5 ° 以下の登り坂	7 0 0

■バランス

安全に効率よく作業するため、バランスよく積載してください。積荷の重心が荷台中心部よりややエンジン側にあるときが最も安定します。



重要

- やむをえず、積荷が高くなる場合は荷くずれしないように、ゆっくりと低速で運搬してください。
- 荷物を積んで走行するときは、積載量に応じてサイドクラッチレバーの操作荷重が変わります。十分注意して運搬してください。

点検・整備

増し締め…作業前には、各部のボルト・ナット等のゆるみがないか確認し、ゆるみ箇所は締めなおしてください。

(特にエンジン、ビータ、スピナまわりは注意してください。)



警告

●給油および点検をするときは安全を確認して行なってください。

①車体を平坦な広い場所に置く。

②エンジンを止める。

③駐車ブレーキをかける。

④荷台の下部の点検・整備の際は、十分強度のある木材などで落下防止をする。

※安全を確認せずに点検整備をすると、思わぬ障害事故を引き起こすことがあります。

〈定期点検整備箇所一覧表〉

本機を安全に使用するために、また事故を未然に防ぐために必ず点検・整備を行なってください。

○点検・調整 ◎補給 ●交換

点 検 箇 所		項 目	点 検 時 期 (目安)					参照 ページ
			始業 前	50h 毎	100h 毎	200h 毎	300h 毎	
本 体 ・ 走 行 部	ギヤボックス	油 量		◎		●		63・64
	ブレーキシュー	磨 耗		○			●	78
	Vベルト	伸び・亀裂	○					74・76 79・80
	荷台コンバアバルト	伸び・亀裂	○					82～84
	各部ワイヤ	伸 び	○					—
	クローラ	伸び・亀裂	○					89
	転輪（各ローラ）	グリース			◎			63
	各支点部	マシン油	○					—
	操作系ロッド支点部	マシン油	○					—

作業のしかた

〈定期点検整備箇所一覧表〉

○点検・調整 ◎補給 ●交換

点 検 箇 所		項 目	点 検 時 期 (目安)					参照 ページ
			始業 前	50h 毎	100h 毎	200h 毎	300h 毎	
本体・走行部	各部チェン	伸 び	○					—
	チェンテンション	磨 耗	○					—
	ビータ	緩み・変形	○					—
	スピンナ	緩み・変形	○	◎				—
	ベベルギヤ	グリース	○					—
油圧部	H S T オイル	油量・油質	○		◎		●	65～68
	油圧ポンプ	油量・油質			◎	●		69
	油圧ホース	亀 裂	○					—
	油圧シリンダ	油 漏 れ	○					—
	摺動部	グリース	○					—
エンジン部	バッテリー	液 量	○					—
	エンジンオイル	油量・汚れ	○		●			70
	エアクリーナ	汚 れ		○		●		—
	点火プラグ	汚れ・摩耗			○			—
	フューエルストレーナ	水だまり 目詰まり			○			—
エンジン部関係詳細については、「エンジン取扱説明書」を御参照ください。								

重要

- 転輪のグリスアップは、湿田等で使用した後には必ず給脂してください。
- 年に一回はお求めのお買いあげ先にて点検整備を受けてください。
- H S T オイル交換は技術的に難しいので、お買いあげ先にて交換してください。

作業のしかた

■給油

〈給油箇所一覧表〉

給油箇所		油の種類	給油量	参照ページ
走行部	ギヤボックス	ギヤオイル 80W-90	4. 8 ℓ	63・64
	トラックローラ	グリース エトライト № 1	適量	63
	アイドルローラ			
	アップローラ			
	イコライザ支点			
荷台・作業部	減速ギヤボックス	ギヤオイル 80W-90	1. 6 ℓ	63・64
	反転ギヤボックス	ギヤオイル 80W-90	1. 4 ℓ	63・64
	各部チェン	マシン油またはギヤオイル	適量	—
	スピナ駆動用 ベベルギヤ	グリース エトライト № 1	適量	—
エンジン・その他	注油指示部	マシン油またはギヤオイル	適量	—
	エンジンオイル	ガソリンエンジンオイル S D 級以上 10W-30	1. 9 ℓ	70
	ガソリン	自動車用無鉛 レギュラーガソリン	1 7 ℓ	—
油圧部	走行H S T	ディーゼルエンジンオイル C D 級 (エネオス:ディーゼル DH-1/CF10W-30)	5 ℓ	65・66
	荷台H S T		オイルタンク 上限まで	67・68
	油圧ポンプ	タービン油 スーパーハイランド 56	3. 2 ℓ	69
	各支点・摺動部	マシン油または グリース エクセライト № 2	適量	—

重要

- 機体にとって潤滑油は、人の血液にも相当する大切なものです。給油をおろそかにすると、機械が円滑に作動しないばかりか、故障の原因となり、機械の寿命を短くします。常に点検し、早めに補給または交換をしてください。
- 給油作業は、ゴミ・水等が入らないように十分に注意して行なってください。

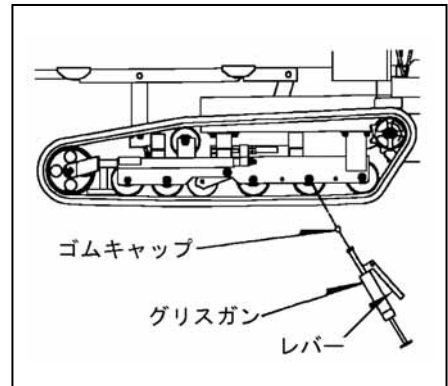
1. 転輪の注油箇所

●トラックローラ、アイドルローラ、アップローラ、イコライザ支点

各グリスニップルのゴムキャップを外して、市販のグリスガンで、グリスを注入してください。注入が終了したら、元のようにゴムキャップを取り付けてください。

重要

- 各転輪には、出荷時にグリスを十分に注入しています。グリスを入れ過ぎると転輪が回転しなくなる恐れがあります。グリスは入れ過ぎないでください。
- グリス注入量の目安は、手動式グリスガンで、1～2回レバー操作し注入します。レバーが重くなるか、転輪内部からグリスがあふれ出たら、直ぐに注入を停止してください。エアー式グリスガンでは入れ過ぎにより、転輪が回転しなくなる恐れがありますので使用しないでください。

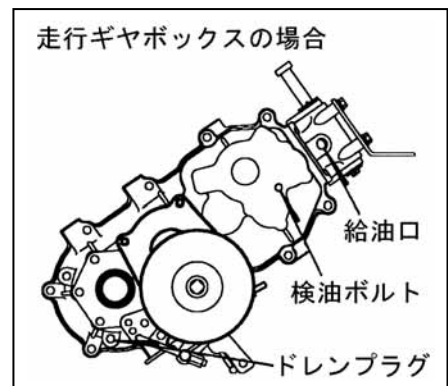


2. 各ギヤボックスオイルの給油・交換

●給油

機体を水平にして給油します。

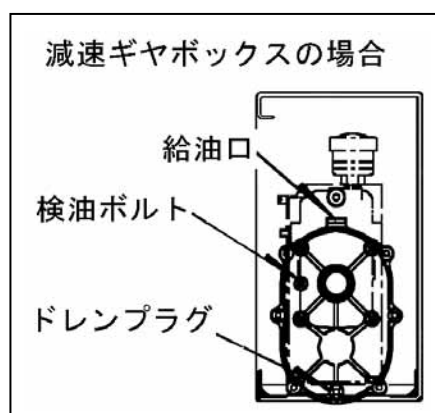
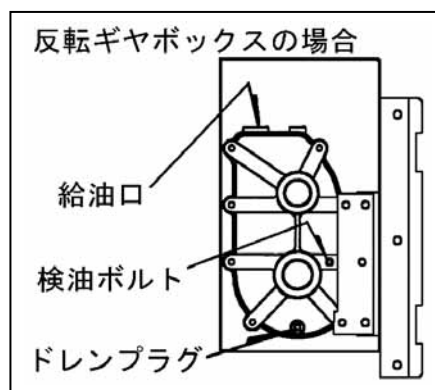
ギヤボックス部のカバーを外し、給油口のキャップを外し、検油穴からオイルが流れ出すまで給油してください。給油が終了したら、検油ボルトを元のように締め込み、給油口のキャップおよびカバーを取り付けてください。



作業のしかた

●交換

- (1) 機体を水平にして作業を始めます。
- (2) ギヤボックス部のカバーを外します。
- (3) 給油口のキャップとギヤボックス下部のドレンプラグを外し、オイルを廃油受皿に排出します。
- (4) オイルをすべて出しきったら、オイル排出口およびドレンプラグの油分を完全に拭き取り、ドレンプラグにシールテープを巻き、元のようにしっかりと締め込みます。
- (5) 検油ボルトを外し、検油穴からオイルが流れ出すまで給油します。
- (6) 給油が終了したら、検油ボルトを元のように締め込み、給油口のキャップ及びカバーを取り付けてください。



重要

- 廃油は廃油受皿等に取り、垂れ流したりしないでください。公害のもととなります。
- 廃油受皿に排出したオイル内に鉄粉等が混入している場合は、ギヤの磨耗などギヤボックス破損の前兆であり、ギヤボックスの分解チェックを要します。お買いあげ先にご相談ください。
- ギヤボックスのオイルは、路面状態など走行条件により給油口からにじみ出たり、キャップのエア抜き穴から出る場合がありますので、頻繁に点検し、補給してください。

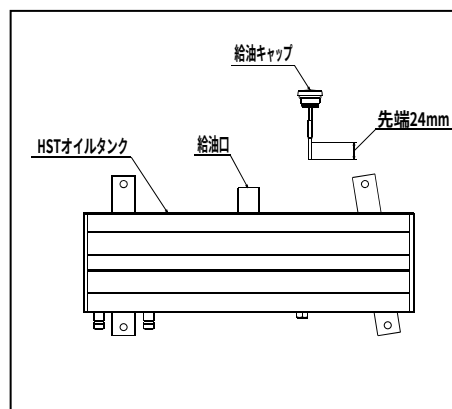
3. 走行HSTオイルの給油・交換

●給油

機体を水平にして油量の点検をします。

エンジンカバーを開き、HSTタンク給油口のキャップを外し、先端をウエス等できれいに拭き、改めて締め込んでから再び外し、ゲージ先端24mm付近までオイルが入っているか点検します。

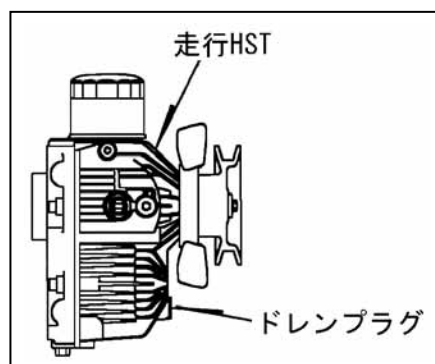
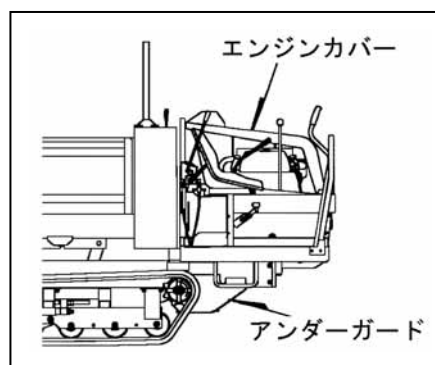
オイル量が少なくなっている場合は、給油口より給油してください。



●交換

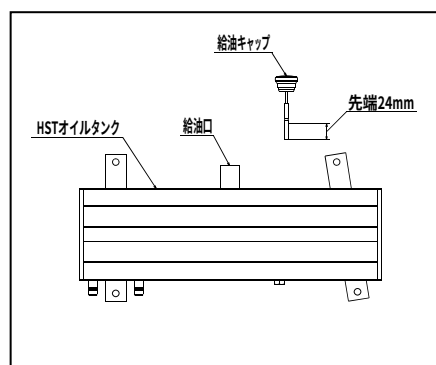
- (1) 機体を水平にして作業を始めます。
- (2) エンジンカバーを開き、アンダーガードを外します。
- (3) HSTタンク給油口のキャップを外し、HSTのドレンプラグをゆるめ、オイルを廃油受皿に排出しますが、この時、常にHSTおよびHSTタンク内にオイルがたまるようにオイルを補給しながら、オイルを排出してください。

※HSTのドレンプラグをゆるめるには、3／8インチの六角レンチが必要です。



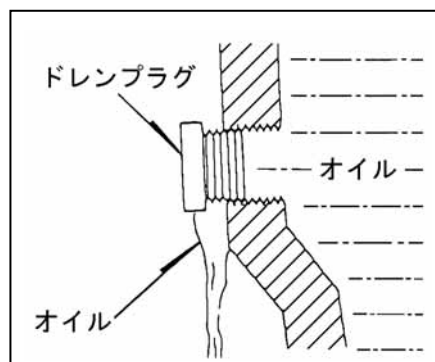
作業のしかた

- (4) 排出しているオイルの色が汚れた色からきれいな色に変われば、HSTのドレンプラグを元のようにしっかりと締め込みます。
- (5) 給油キャップのオイルゲージの先端から24mm付近まで給油してください。
- (6) 給油が終了したら、給油キャップを閉め、エンジンカバーを閉じ、アンダーガードを取り付けてください。



重要

- オイル交換中にHST内に空気が入るとHSTが動かなくなったり、暴走の恐れや故障の原因となります。ドレンプラグから空気が入らないように、ほんの少し隙間を開け、少しずつ汚れたオイルを排出しますが、技術的に難しいため、お買いあげ先にて交換してください。
- 廃油は廃油受皿に取り、たれ流したりしないでください。公害のもととなります。

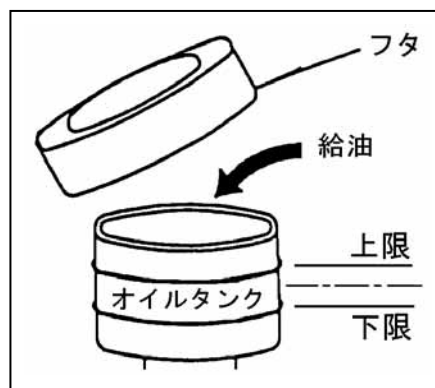


4. 荷台HSTオイルの給油・交換

●給油

カバーを外し、HSTのオイルタンクのフタを開け、「UPPER SUPERIEUR」(上限)位置まで給油してください。

給油が終了したら、オイルタンクのフタを元のように閉め、カバーを取り付けてください。

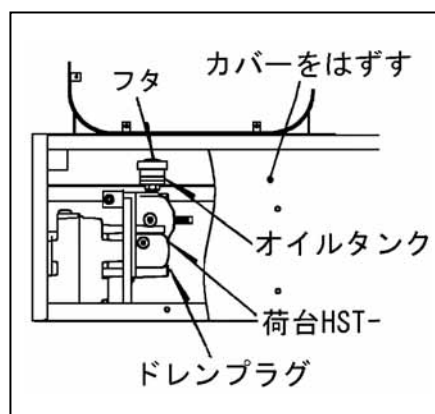


●交換

(1) カバーを開きます。

(2) HSTのオイルタンクのフタを開け、HSTのドレンプラグをゆるめ、オイルを廃油受皿に排出しますが、この時、常にHST内にオイルがたまるようにオイルを補給しながらオイルを排出してください。

※HSTのドレンプラグをゆるめるには、3/8インチの六角レンチが必要です。

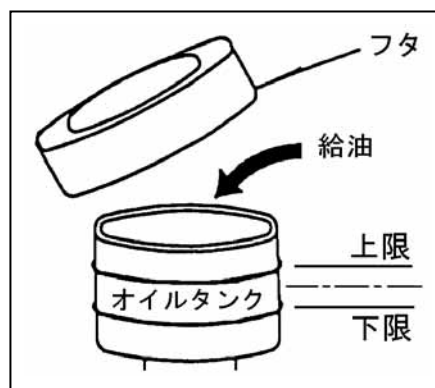


(3) 排出されているオイルの色が汚れた色からきれいな色に変われば、HSTのドレンプラグを元のようにしっかりと締め込みます。

作業のしかた

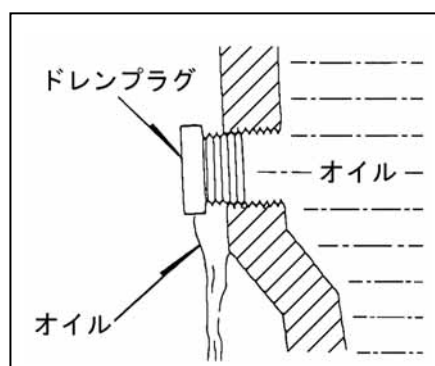
(4) HSTのオイルタンクの「UPPER SUPERIEUR」(上限)位置まで給油してください。

(5) 給油が終了したら、オイルタンクのフタを元のように閉め、カバーを取り付けてください。



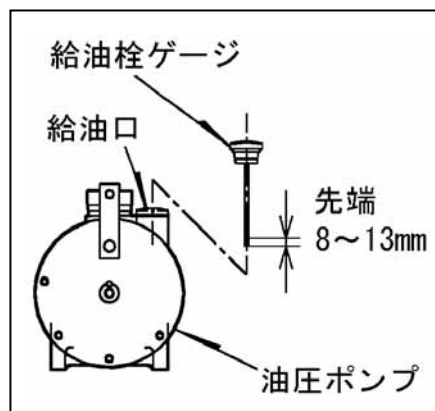
重要

- オイル交換中にHST内に空気が入るとHSTが動かなくなったり、暴走の恐れや故障の原因となります。ドレンプラグから空気が入らないように、ほんの少し隙間を開け、少しずつ汚れたオイルを排出しますが、技術的に難しいため、お買いあげ先にて交換してください。
- 廃油は廃油受皿に取り、たれ流したりしないでください。公害のもととなります。



5. 油圧ポンプオイルの給油

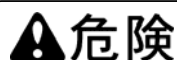
- (1) 機体を水平にし、荷台およびスピナをいっぱいまで上げた状態で、油量の点検をします。
- (2) エンジンカバーを開け、油圧ポンプの給油栓ゲージを外し、先端をウエス等できれいに拭き、改めて締め込んでから再び外し、ゲージ先端8～13mmの位置までオイルが入っているか点検します。
- (3) オイル量が少なくなっている場合は、給油口より給油してください。
- (4) 給油が終了したら、給油栓ゲージを元のよう
に締め込み、エンジンカバーを閉めてくだ
さい。



重要

- 荷台およびスピナをダンプ上昇、もしくは下降させた状態では、シリンダおよび油圧ポンプ内の油量が異なります。油量は必ず荷台およびスピナをいっぱいまでダンプ上昇させた状態で点検してください。
- 油量が多いとブリーザキャップのエア抜き穴よりオイルが吹き出る場合があります。
- オイルの早期減少は異常ですから、お買いあげ先で点検整備を受けてください。

■点検と清掃



危険

●火気厳禁

給油時は、エンジンを必ず停止してください。

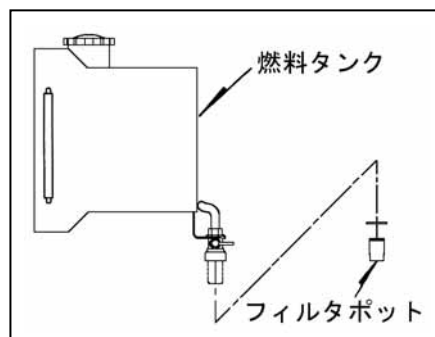
- 燃料を補給するときは、くわえタバコなどの火気は厳禁です。
引火爆発・火災の原因になります。

(1) 燃料……自動車用無鉛レギュラーガソリン

- 燃料タンク内に水・ゴミ等が入らぬように注意してください。
- 燃料キャップが締まっているか確認してください。

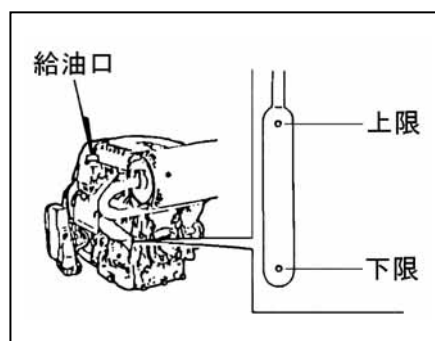
(2) フィルタポットの清掃と交換

- 燃料中に含まれる水・ゴミ等がフィルタポット内に沈殿していないか点検します。
- 水・ゴミ等がたまっている場合は、フィルタポットを外し内部をガソリンで洗浄してください。



(3) エンジンオイル

- 機体を水平にして、オイルゲージを抜き先端をきれいに拭いて、改めて差し込んでから再び抜き「上限と下限の間」にオイルがあるか調べます。
- 「下限」以下の場合は、給油口より「上限」まで補給してください。



重要

- エンジンオイルは「上限」以上に入れないでください。

※オイルおよびオイルフィルタ・エアクリーナの清掃等エンジンの保守点検につきましては、別冊で添付しております「エンジン取扱説明書」をお読みください。

電気系統の点検と清掃

■電気配線の点検と清掃



注意

- 配線の端子や接続部のゆるみおよび配線の損傷は、電気部品の性能を損なうだけでなく、ショート（短絡）・漏電の原因となり、火災事故になる恐れがあり大変危険です。傷んだ配線は、早めに交換・修理をしてください。
- バッテリー、電気配線およびマフラやエンジン周辺部の可燃物・ゴミなどは取り除いてください。これを怠ると火災の原因となります。
- 安心して運転できるよう、1年に1回はお買いあげ先での定期点検を受けてください。

下記の項目につき、定期的に点検してください。

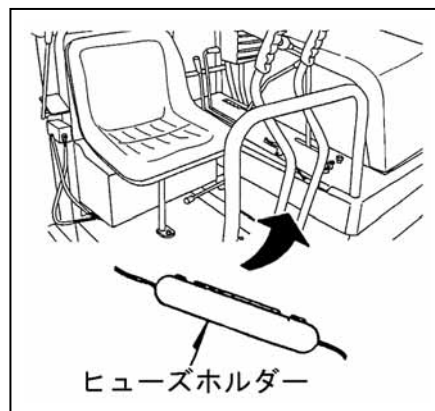
- (1) 配線の損傷がないこと。配線被覆が破れているときは、絶縁テープを巻き、補修してください。
- (2) 配線のクランプのゆるみがないこと。配線がクランプより外れているときは、所定のクランプに配線をセットしてください。
- (3) ターミナル、カプラの接続部のゆるみがないこと。
- (4) 各スイッチが確実に作動すること。

重要

- バッテリー、エンジンのまわりの電気配線、電装部品等に圧力水をかけないでください。電気部品の故障の原因となります。

■ヒューズの取扱い

ヒューズは、ヒューズホルダの中に入っています。ヒューズが切れた場合は、必ず同じ容量のヒューズと交換してください。大容量のヒューズをつけると焼損の原因となります。



重要

- ヒューズが切れた場合は、切れた原因を調べ修理後、同容量のヒューズと交換してください。絶対に針金等で代用しないでください。

■バッテリーの点検と取扱い

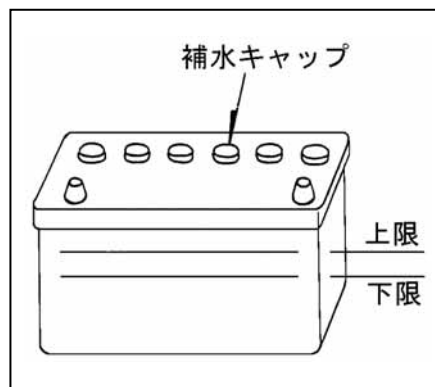
警告

- ショートやスパークさせたり、タバコ等の火気を近づけないでください。また、充電は風通しのよい所で行なってください。これを怠ると引火爆発することがあり大変危険です。
- バッテリーの液量がバッテリーの側面に表示されている下限（LOW LEVEL）以下になったまま使用を続けたり充電を行なうと、容器内各部位の劣化の進行が促進され、バッテリーの寿命を縮めたり、破裂（爆発）の原因となる恐れがあります。
- バッテリー液（電解液）は希硫酸で劇物です。バッテリー液を体や服につけないようにしてください。失明ややけどをすることがあり大変危険です。もし、目・皮膚・服についたときは、ただちに大量の水で洗ってください。なお、目に入ったときは、水洗い後医師の治療を受けてください。
- ブースターケーブル使用時には、危険のないように取扱ってください。

作業のしかた

(1) バッテリーの液量点検

- バッテリー液がバッテリーケース液面レベルの上限線から下限線の間にあるか、バッテリーが水平になる姿勢で確認してください。
- 不足している場合はキャップを外し、上限まで蒸留水を補充してください。



(2) バッテリーの取扱い

- 気温が低下すると、バッテリーの性能も低下します。冬季は特にバッテリーの管理に注意してください。
- バッテリーは使用しなくても自己放電しますから補充電を行ってください。
夏季…………… 1 カ月毎 冬季…………… 2 カ月毎
- 本機を長期格納する時は、バッテリーを取り外し、日光の当たらない乾燥した場所に保管してください。どうしても本機に取り付けたまま保管しなければならないときは、必ずアース側（⊖側）を外してください。
- 新品のバッテリーと交換する場合は、必ず指定した型式のバッテリーを使用してください。

指定バッテリー型式…………… 4 6 B 2 4 R (C a - M F)

重要

- バッテリーは必ず車体から取り外して充電してください。電装品の損傷の他に配線等を傷めることがあります。
- バッテリーの急速充電はバッテリーの寿命を短くしますから、できるだけ避けてください。
- 充電はバッテリーの⊕を充電器の⊕に、⊖を充電器の⊖にそれぞれ接続して、普通の充電方法で行ってください。
- バッテリーを外し再度取り付けるときは、バッテリーの⊕・⊖のコードを元通りに配線し、まわりに接触しないように締め付けてください。
- バッテリーコード（端子）を取り外すときは、⊖コードを先に外します。バッテリーコードを取り付けるときは、⊕コードを先に取り付けます。これを怠るとショートして火花が飛んだりして危険です。

各部の調整

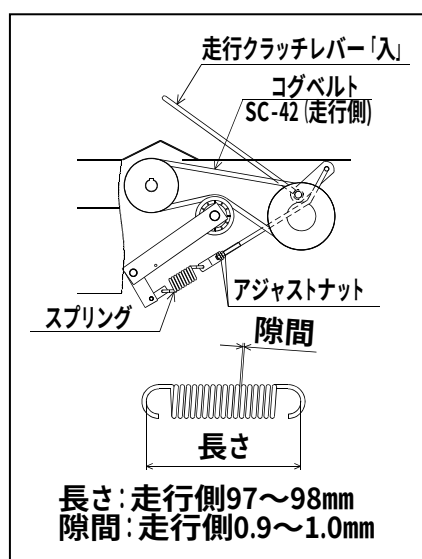
警告 ●各部の点検、調整を行なう場合は、必ずエンジンを停止させ、平坦地で作業をしてください。

■走行クラッチレバーの調整

走行クラッチレバーを「入」位置にしても、ベルトがスリップして動力の伝達が不十分な時は、下記の要領にて調整してください。

走行クラッチレバーを「入」位置にした状態で、スプリングの伸びが右図のようになるようにアジャストナットにて調整してください。

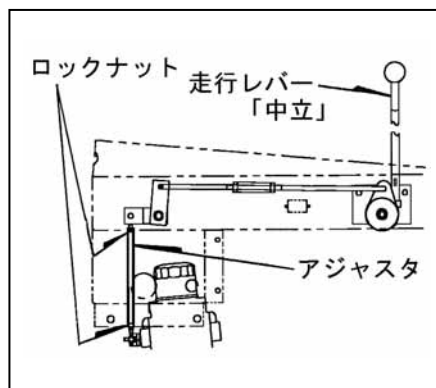
調整後は、確実にアジャストナットを締め込んでください。



重要 ●走行クラッチレバーの調整が不十分な場合には、走行クラッチレバーを「入」位置にしてもベルトがスリップして、動力の伝達が悪くなり走行できなくなったり、坂道で暴走する恐れがあります。作業前には必ずベルトをチェックしてください。

■走行レバーの「中立」位置の調整

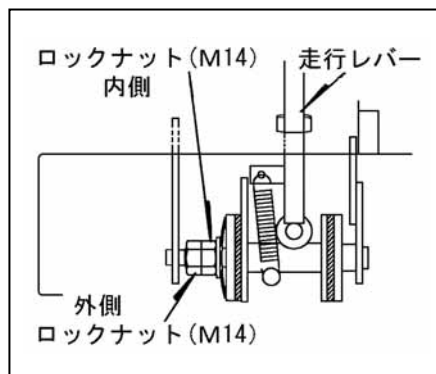
- (1) 平坦地で走行クラッチレバーを「入」位置に入れた状態で、走行レバーを「中立」位置にした時に機体が停止しない場合は、アジャスタのロックナットをゆるめ、ロッドの長さを調整してください。
- (2) 調整後機体を前進・後進させ、再び走行レバーを「中立」位置に戻した時、機体が停止していることを確認してください。
- (3) 調整がずれないように、アジャスタのロックナットを確実に締め込んでください。



重要 ●調整後でも、停止の方法・場所によっては、機体が微妙に動くこともあります。

■走行レバーの動き調整

- (1) 走行中に走行レバーが「中立」位置方向に戻ろうとする場合は、走行レバーの支点部のロックナット (M14) の締め込み具合で調整してください。
- (2) 外側のロックナット (M14) をゆるめ、内側のロックナット (M14) を締め込みます。目安としては、最高速にて前進させ、旋回した時に、走行レバーが自然に「中立」位置方向に戻らない程度に締め込みます。
- (3) 調整がずれないように、外側のロックナット (M14) を確実に締め込んでください。



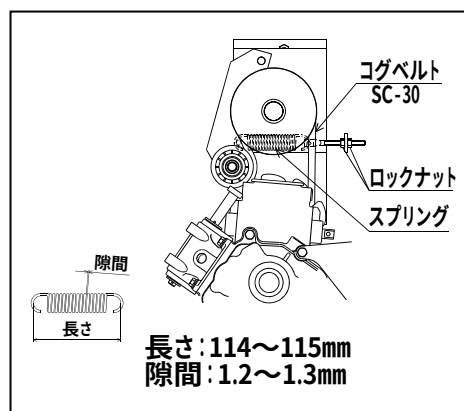
作業のしかた

■走行H S T駆動ベルトの張り調整

走行時に走行H S T駆動ベルトがスリップして動力の伝達が不十分な時は、下記の要領にて調整してください。

ロックナットをゆるめて、スプリングの伸びが右図のようになるように調整してください。

調整後は、確実にロックナットを締め込んでください。

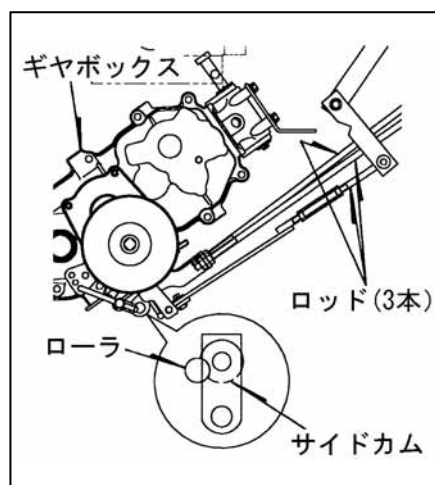


■サイドクラッチレバーおよびブレーキレバーの調整

サイドクラッチレバーの遊び（ガタ）や作動量が大きくなり、サイドクラッチレバーを引いても旋回しにくくなった場合、またブレーキレバーの作動量が大きくなり、ブレーキおよび駐車ブレーキの効きが弱くなった場合には、下記の要領・手順にて調整してください。

1. 確認

- (1) ギヤボックス内のギヤをうまく噛み合った状態にするため、サイドクラッチレバーを操作しないで、2～3mほど前・後進してから停止してください。
- (2) ギヤボックス操作部を点検するため、アンダーガードを外し、レバーからギヤボックスにつながっているロッド3本を外してください。

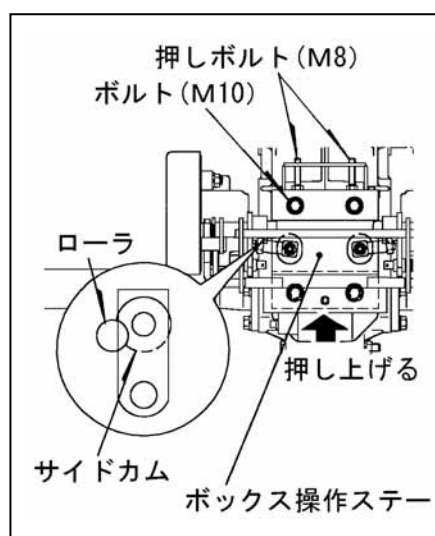


作業のしかた

- (3) サイドカムが作動していない状態（サイドクラッチレバーを操作していない状態）で、左右のサイドカムとローラとの間に隙間がないか確認してください。（サイドカムを手で持って、前後に動かしガタがないか確認。）
- (4) サイドカムとローラの間に隙間（ガタ）がなければ、「3. サイドクラッチブレーキの調整」へ、隙間（ガタ）があった場合は、「2. ギヤボックス操作部の調整」へ移行してください。

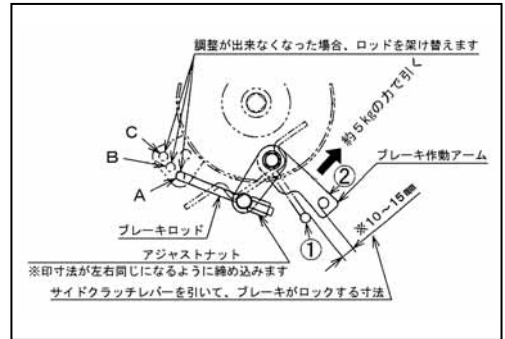
2. ギヤボックス操作部の調整

- (1) ボックス操作ステーを固定している4本のボルト（M10）を、ボックス操作ステーが少し動く程度にゆるめます。
- (2) ボックス操作ステー固定用の2本の押しボルト（M8）をゆるめて（ねじ込んで）おきます。
- (3) サイドカムとローラの隙間が0になるように、ボックス操作ステーを押し上げていきます。（プラスチックハンマー等でボックス操作ステー下部を軽くたたきながら押し上げると作業がし易いです。）
- (4) ボックス操作ステー固定用の2本の押しボルト（M8）を、ボックス操作ステーに軽く押し当て固定します。
- (5) ボックス操作ステーを固定している4本のボルト（M10）を確実に締め付けてください。
[締付トルク：51.0～65.7N・m(520～670kgf・cm) 厳守のこと。]



3. サイドクラッチブレーキの調整

- (1) ブレーキ作動アームを約 5 kg の力で引いた時、図中①と②のピンの間隔が左右とも 10 ～ 15 mm になるようにブレーキロッドのアジャストナットを締め込んで調整してください。
- (2) 「1. 確認」の項目 (2) で外したサイドクラッチレバーおよびブレーキレバーからギヤボックスにつながっているロッド 3 本とアンダーガードを元のように取り付けてください。

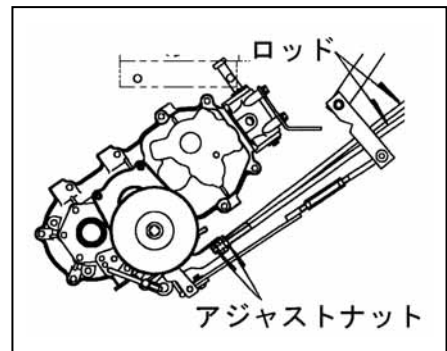


重要

- アジャストナットをいっぱいまで締め込んでも調整が出来なくなった場合は、ブレーキロッドの取付位置を A から B へ、もしくは B から C へと、順に変更してください。アジャストナットの調整がさらに出来るようになります。
- ブレーキロッドを C 位置に取り付けても、アジャストナットの調整が出来なくなった場合は、ブレーキシューの交換が必要です。

4. サイドクラッチレバーの遊び（ガタ）の調整

- (1) 左右のサイドクラッチレバーを軽く動かし、先端部の遊び（ガタ）が 20 mm 以上ある場合は、アジャストナットにてサイドクラッチレバーの遊び（ガタ）がなくなる程度にロッドの張り調整をしてください。
- (2) 調整後は、確実にアジャストナットを締め込んでください。

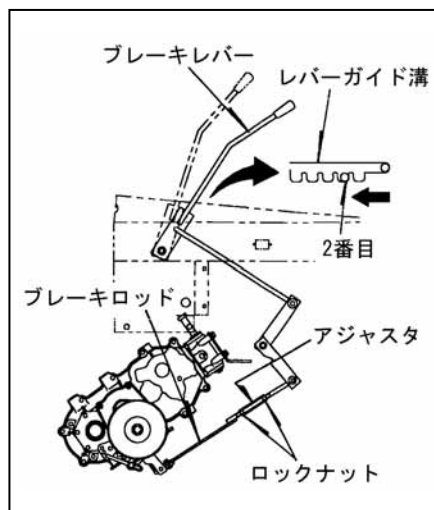


重要

- アジャストナットにて必要以上にロッドを張りすぎて、サイドクラッチレバーを操作していない状態で、サイドカムが作動してしまわないように注意してください。

5. ブレーキレバーの調整

- (1) 駐車ブレーキをかけていない状態でブレーキロッドの遊び（ガタ）がなくなる程度にアジャスタにて調整してください。
（きちんと調整されていれば、レバーガイド溝の2番目の位置で駐車ブレーキが効くようになります。）
- (2) 調整後は、確実にアジャスタのロックナットを締め込んでください。

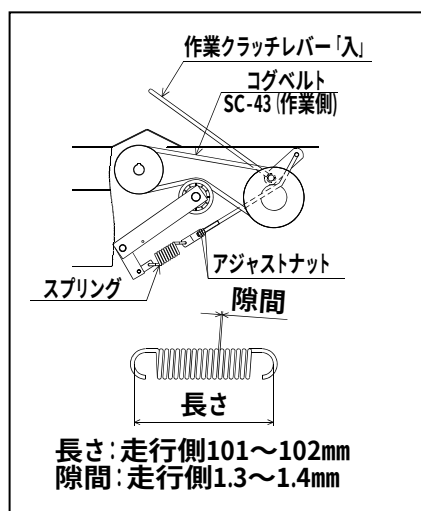


■作業クラッチレバーの調整

作業クラッチレバーを「入」位置にしても、ベルトがスリップして動力の伝達が不十分な時は、下記の要領にて調整してください。

作業クラッチレバーを「入」位置にした状態で、スプリングの伸びが右図のようになるように、アジャストナットにて調整してください。

調整後は、確実にアジャストナットを締め込んでください。

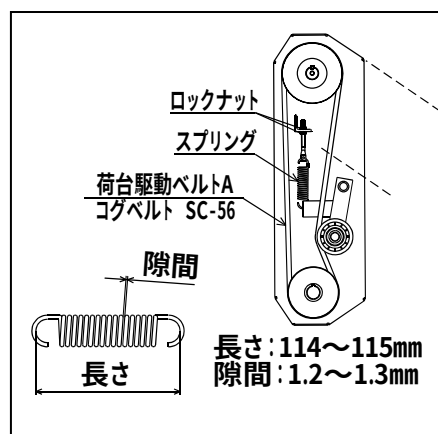


■荷台駆動ベルト A の張り調整

積込・散布作業時に荷台駆動ベルト A がスリップして動力の伝達が不十分な時は、下記の要領にて調整してください。

ロックナットをゆるめて、スプリングの伸びが右図のようになるように調整してください。

調整後は、確実にロックナットを締め込んでください。

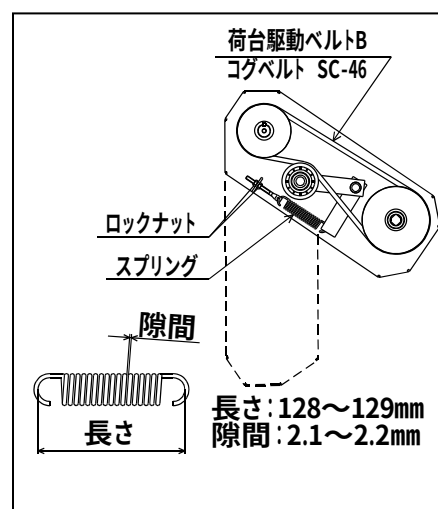


■荷台駆動ベルト B の張り調整

積込・散布作業時に荷台駆動ベルト B がスリップして動力の伝達が不十分な時は、下記の要領にて調整してください。

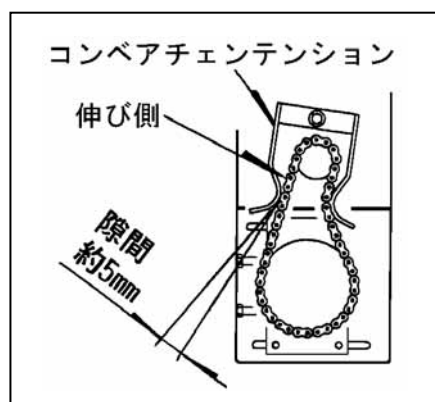
ロックナットをゆるめて、スプリングの伸びが右図のようになるように調整してください。

調整後は、確実にロックナットを締め込んでください。



■荷台コンベアベルト駆動チェンの張り調整

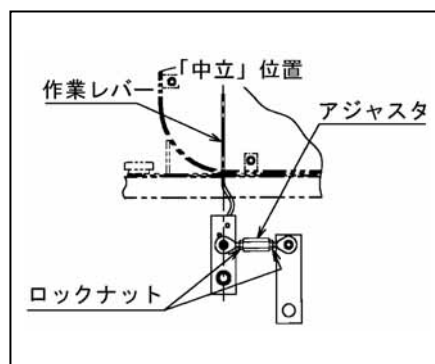
- (1) カバーを外します。
- (2) コンベアチェンテンションをチェンの両側からはさみ込むように曲げてください。その時、コンベアチェンテンションと伸び側のチェンとの隙間を約 5 mm 程度とってください。
- (3) 元のように、カバーを取り付けてください。



■荷台コンベアベルトの停止位置調整

積込・散布作業時に荷台コンベアベルトが動かない、もしくは逆方向に動いてしまうような場合には、下記の要領にて調整してください。

エンジンを最高回転にし、作業回転切換レバー「中立」位置、作業レバー「中立」位置、走行クラッチレバー「入」位置、作業クラッチレバー「入」位置とした時、荷台コンベアベルトの動きが確実に停止する、もしくは若干前方へ動く（1分間で 300mm 以下）のようにアジャスタにて調整してください。



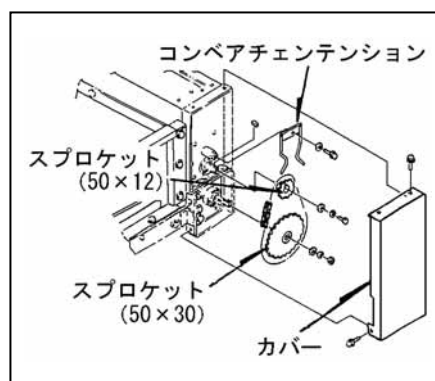
- アジャスタを締める→コンベアベルト前方へ動く
- アジャスタをゆるめる→コンベアベルト後方へ動く

調整後は調整がずれないように、確実にアジャスタのロックナットを締め込んでください。

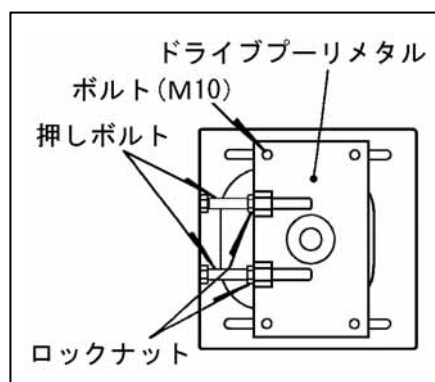
■荷台コンベアベルトの停止位置調整

●右側

- (1) カバーを外します。
- (2) スプロケット (50×12)、スプロケット (50×30)、コンベアチェーンテンションを外します。



- (3) ドライブプーリメタルの押しボルトのロックナットをゆるめます。
- (4) ドライブプーリメタルを固定している4本のボルト (M10) をドライブプーリメタルが動く程度にゆるめます。
- (5) 上下の押しボルトを均等に、2 mm ピッチづつ荷台コンベアベルトがスリップしない程度まで張り直してください。

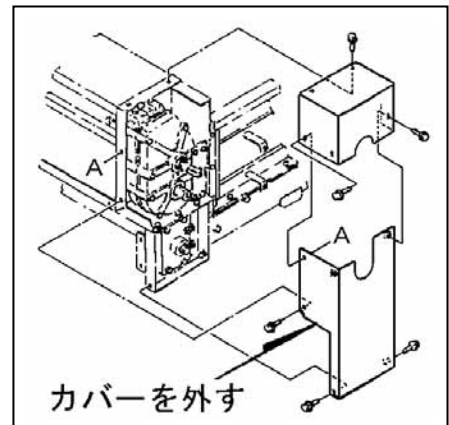


- (6) 押しボルトのロックナットを確実に締め付けドライブプーリメタルを固定している4本のボルト (M10) を確実に締め付けます。
- (7) 元のようにスプロケット (50×12)、スプロケット (50×30)、コンベアチェーンテンションカバーを取り付けてください。

作業のしかた

●左側

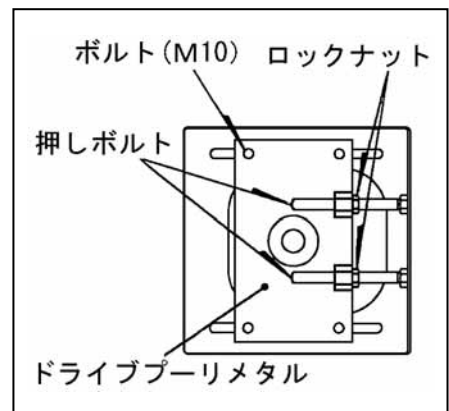
- (1) カバーを外します。



- (2) ドライブプーリメタルの押しボルトのロックナットゆるめます。

- (3) ドライブプーリメタルを固定している4本のボルト (M10) をドライブプーリメタルが動く程度にゆるめます。

- (4) 上下の押しボルトを均等に、2 mm ピッチづつ荷台コンベアベルトがスリップしない程度まで張り直してください。



- (5) 押しボルトのロックナットを確実に締め付け、ドライブプーリメタルを固定している4本のボルト (M10) を確実に締め付けます。

- (6) 元のように、カバーを取り付けてください。

⚠注意 ●荷台コンベアボルトの張り調整は、左右均等に張ってください。
荷台コンベアボルトの蛇行や損傷の原因となります。

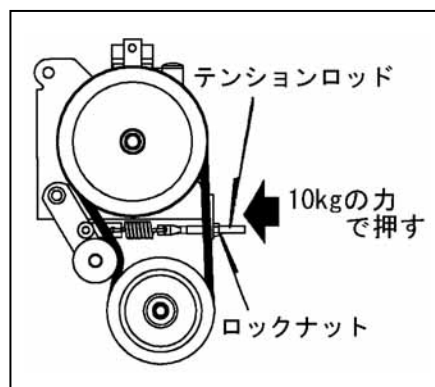
- 重要** ●荷台コンベアベルトは、使用していると小石等のかみ込みにより、多少の傷や小さな溝ができます。性能上問題はありませんが、小石等の多い場所での使用は極力避けてください。めくれ上り部はカッター等で切り取ってください。コンベアが横方向に切れている場合は、キズが進行しますので早めに取り換えてください。
- 荷台コンベアベルトは、使用しないで長期間張った状態にしておくと、表面がヒビ割れる場合があります。長期間格納する際は、荷台コンベアベルトを緩めた状態で保管してください。

■油圧ポンプ駆動ベルトの張り調整

作業時に油圧ポンプ駆動ベルトがスリップして動力の伝達が不十分な時は、下記の要領にて調整してください。

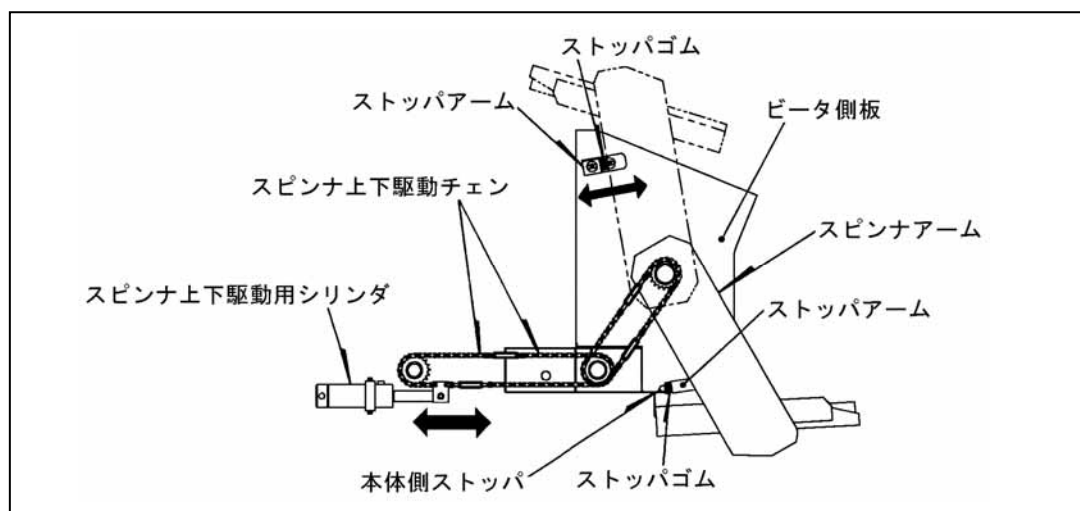
テンションロッドにて、ベルトの中央部を約10kgの力で押した時、たわみが約10mm程度になるように調整してください。

調整後は、確実にロックナットを締め込んでください。



■スピナ上下駆動チェンの調整

スピナ上下駆動チェンにたるみが発生すると、スピナ部がしっかりと固定されずガタつき、走行振動等によりチェンに過張力がかかり折損する恐れがあります。チェンにたるみが発生している場合は、下記の要領にて調整してください。



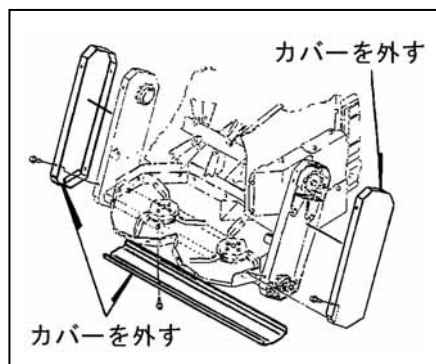
- (1) カバーを外します。
- (2) スピナ上下駆動用シリンダをいっぱいまで縮めた状態（スピナをいっぱいまで下降させた状態）にします。
- (3) 左右のスピナアームに付いているストッパアームの位置を、本体側のストッパにストッパゴムが軽く当たる程度に調整します。
- (4) アジャスタにて、スピナ上下駆動チェンにたるみが1 mm 程度になるように調整します。調整後は、ロックナットを確実に締め込んでください。
- (5) スピナ上下駆動用シリンダをいっぱいまで伸ばした状態（スピナをいっぱいまで上昇させた状態）にします。
- (6) 左右のビータ側板に付いているストッパアームの位置を、スピナアームにストッパゴムが軽く当たる程度に調整します。
- (7) チェンに注油し、錆が発生しないようにしてください。
- (8) 元のようにカバーを取り付けてください。

作業のしかた

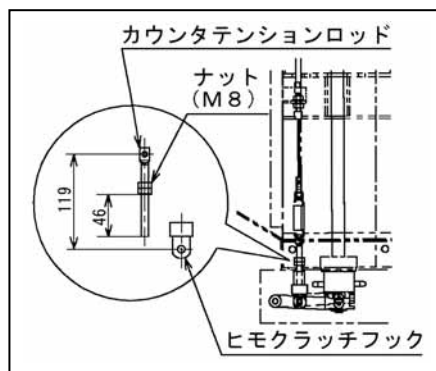
■スピナクラッチの調整

スピナでの散布時、スピナクラッチが歯飛びしてうまく散布できない、またはピータでの散布時に、スピナをいっぱいまで上昇させているのに、スピナがつきまわりしてしまう場合は、下記の要領にて調整してください。

- (1) スピナ部のカバーを外します。



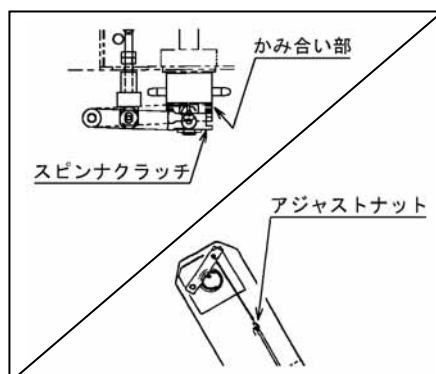
- (2) カウンタテンションロッドの先端から46 mmの位置にナット (M8) 2個をロックして、ヒモクラッチフックとカウンタテンションロッドの穴の中心間距離を119 mmに合わせます。



- (3) スピナアームをいっぱいまで下げた状態でスピナクラッチが確実に噛み合うよう、またスピナアームを10°～15°上昇させた時に、スピナクラッチのかみ合いが外れるように、アジャストナットにて調整してください。

調整後は、確実にアジャストナットを締め込んでください。

- (4) 元のようにカバーを取り付けてください。

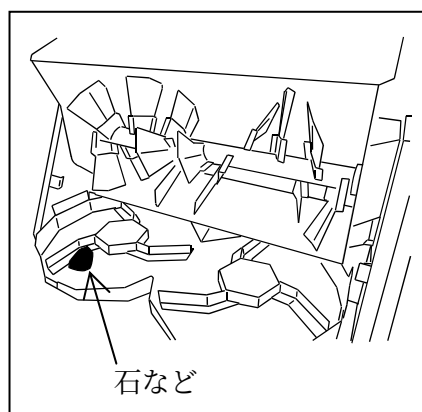


作業のしかた

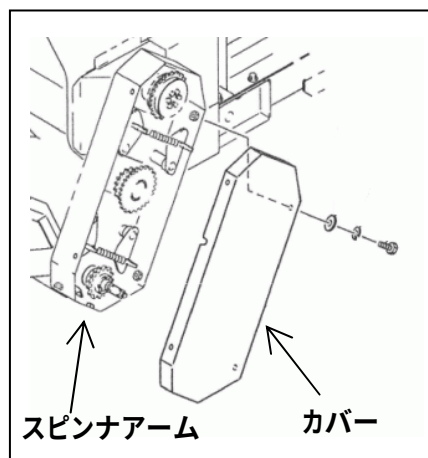
■トルクリミッタ シャーピンの交換

スピナ散布時に、堆肥の中に石など異物が混入しスピナがロックしたり、大量の堆肥により過負荷状態になった時に、トルクリミッタが作動しシャーピンが破断することでその他の駆動部を保護します。トルクリミッタが作動した際は下記の手順でシャーピンを交換してください。

- (1) エンジンを停止し、ビータ等の作業部を完全に停止させます。
- (2) トルクリミッタ作動の原因（異物や大量の堆肥）を取り除いてください。

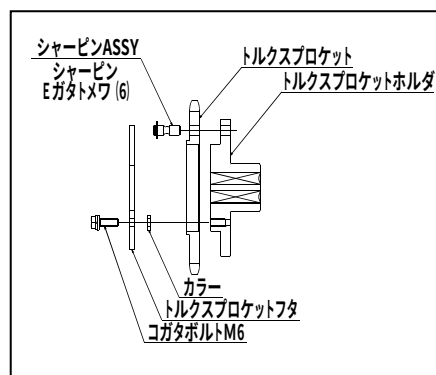


- (3) スピナアームのカバーを外します。

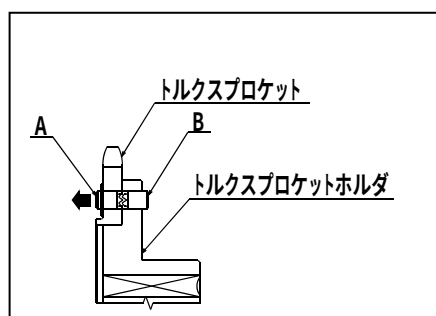


作業のしかた

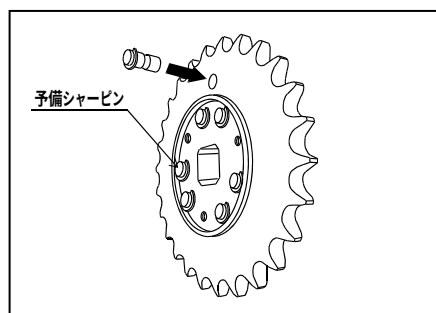
- (4) コガタボルトM6を3本外し、トルクスプロケットフタを外します。



- (5) 破断したシャーピンAを取り除きます。ピータを手動で回転させ、トルクスプロケットの穴とトルクスプロケットホルダの穴の位相を合わせます。

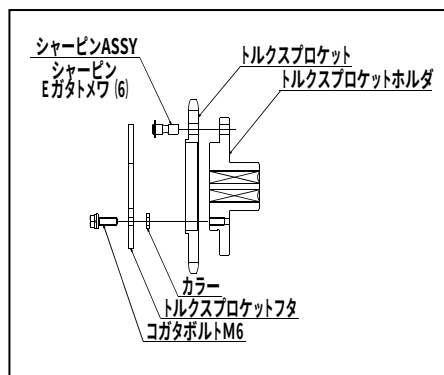


- (6) 予備のシャーピンを差し込み、トルクスプロケットホルダに残った破断したシャーピンBを押し出します。



- (7) トルクスプロケットフタを取り付けます。その際にカラーを組み忘れないよう注意します。

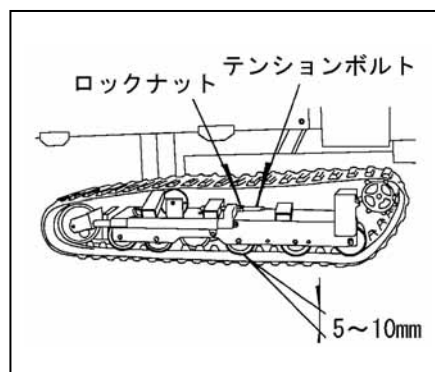
- (8) スピナーアームのカバーを取り付けます。



■クローラの張り調整

クローラが初期伸びや磨耗のためにゆるんだ場合には、クローラの張り調整を行なってください。

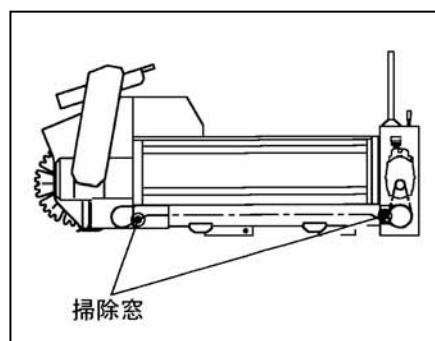
クローラを地面から離れた（車体を持ち上げた）状態で、クローラと中央の転輪との距離が5～10mmになるようにテンションボルトにて調整してください。調整後は、確実にロックナットを締め込んでください。



■荷台コンベアベルトの清掃

●荷台コンベアベルト内面にゴミ、堆肥がたまった場合は、次の要領で取り除いてください。

- (1) カバーを外します。
- (2) 前後2箇所の掃除窓からエアブローまたは高圧水、および掻き出し棒でゴミを取り除いてください。
- (3) 元のように、カバーを取り付けてください。

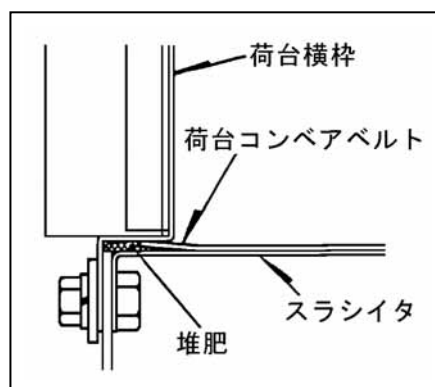


■荷台コンベアベルトの両サイドの清掃

●荷台コンベアベルトの両サイド（スラシイタとの間）に堆肥がたまった場合は、荷台横枠を外して取り除いてください。

重要

●鶏糞堆肥等、軽くて粒の小さい堆肥は荷台コンベアベルトの両サイドに入り易いため、使用後は早めに掃除してください。



手入れと格納



警告

●作業が終了して、シートカバー等を機械にかけるときは、過熱部分が完全に冷えてから行なってください。熱いうちにカバー類をかけると、火災の原因になり大変危険です。

■日常の格納

日常の格納および短期間の格納は、次の要領で行なってください。

- (1) 車体はきれいに清掃しておきましょう。
- (2) 燃料タンク内防錆のため、燃料は満タンにしておいてください。
- (3) 荷台は必ず降ろしてください。
- (4) 格納はできる限り屋内にしてください。
- (5) 走行クラッチレバーおよび作業クラッチレバーは、「切」位置にしてください。
- (6) 駐車ブレーキを必ずかけてください。
- (7) 厳寒時はバッテリーをはずし、暖かい室内などに保管すると始動時に効果があります。

重要

- 洗車の際は、エンジン・樹脂部品・電装品、およびマーク貼付部などには高圧水をかけないでください。高圧水をかけると、故障の原因となったり、マークのはがれ、部品の変形を起こしたりします。
- 漏電の原因になるため、キースイッチのキーは抜き、キャップをしてください。

■長期格納

長い間使用しない場合は、きれいに清掃し、次の要領で格納してください。

- (1) 車体はきれいに清掃しておきましょう。
- (2) 不具合箇所は整備してください。
- (3) エンジンオイルを新しいオイルと交換し、5分程エンジンをアイドリング回転にて運転し、各部にオイルをゆきわたらせます。
- (4) 各部の給油を必ず行なってください。

手入れと格納

- (5) 荷台およびスピナを必ず降ろしておいてください。
- (6) 各部のボルト・ナットのゆるみを点検し、ゆるんでいれば締めてください。
- (7) 格納場所は、周囲に紙など燃えやすいものがない、雨のかからない乾燥した場所を選んでください。
- (8) 走行クラッチレバーおよび作業クラッチレバーを「切」位置にし、駐車ブレーキはかけないで歯止めをしておいてください。
- (9) エンジン部は、燃料タンク・気化器内のガソリンを完全に抜いて格納してください。
※「エンジン取扱説明書」参照
- (10) バッテリーは、はずして充電を行い、液面を正しく調整して日光の当たらない乾燥した場所に保管してください。どうしても取付けたまま保管しなければならないときは、必ずアース側（⊖側）をはずしておいてください。

重要

- バッテリーをはずさないときは、最低限バッテリーの⊖端子をはずしてください。ねずみが配線をかじり、ショートして火災が発生することがあります。
- キースイッチのキーは必ず抜いておいてください。

■長期格納後の使用

長期格納後の再使用は、特に次の内容に注意してください。

- 始業点検を確実にこなしてください。
- エンジンの寿命・性能を保つため、エンジン始動後はアイドリング回転で5分程、運転してください。

不調時の対応のしかた

■エンジン部

故 障 状 況	原 因	処 置	参照ページ
キースイッチを回してもセルモータが回らない	●バッテリーが弱い	●バッテリーの充電 または交換	72・73
	●配線の断線または接続不良	●配線の修理または交換	※
	●ヒューズ切れ	●ヒューズの交換	72
	●キースイッチの故障	●キースイッチの交換	※
	●セルモータの故障	●修理または交換	※
	●リミットスイッチの作動不良または故障	●リミットスイッチの調整または交換	※
	●走行クラッチレバーが入っている	●走行クラッチレバーを「切」位置にする	23
	●作業クラッチレバーが入っている	●作業クラッチレバーを「切」位置にする	27
セルモータの回転があがらない	●バッテリーが弱い	●バッテリーの充電 または交換	72・73
	●配線の断線または接続不良	●配線の修理または交換	※
セルモータは回るがエンジンがかからない	●チョークレバーを操作していない	●チョークレバーを引く	22 36・37
	●燃料が供給されない	●燃料コックを開ける	36・37
	●燃料フィルタのつまり	●燃料フィルタの清掃 または交換	70
	●点火プラグの不良	●点火プラグの清掃 または交換	エンジン 取説
	●気化器のつまり	●気化器の清掃 または交換	※
	●エンジン本体の不具合	●エンジンの修理	※
エンジン回転が不規則である	●燃料フィルタのつまり	●燃料フィルタの清掃 または交換	70
	●ホース系の燃料もれ またはエア混入	●クランプ締付け またはホース交換	※
	●点火プラグの不良	●点火プラグの清掃 または交換	エンジン 取説

不調時の対応のしかた

故 障 状 況	原 因	処 置	参照ページ
エンジン回転が不規則である	●気化器のつまり	●サービス工場で清掃 または交換	※
エンジンを低速にすると停止する	●点火プラグの不良	●修理または交換	エンジン取説
	●気化器のつまり および調整不良	●気化器の清掃 または交換	※
	●スロットル調整不良	●スロットルの調整	※
運転中に突然エンジンが停止した	●燃料不足	●燃料補給	36・70
	●エンジンオイル不足	●エンジンオイルの補給	70・エンジン取説
	●オイル不足または潤滑不良 によるエンジン焼付	●エンジンの修理 または交換	※
	●プラグキャップの緩み	●プラグキャップを正しく取 付ける	エンジン取説
マフラから異常な煙がでる	●エアクリーナのつまり	●エレメントの清掃、 または交換	エンジン取説
	●エンジンオイル量が多い	●点検し、適正量にする	エンジン取説
	●燃料供給量不良	●気化器の調整	※
	●燃料がよくない	●正規の燃料に入れ換える	—
エンジン出力不足	●積載量が多すぎる	●積載量を減らす	59
	●気化器の調整不良	●気化器の調整	※
	●点火プラグ不良	●点火プラグの清掃 または交換	エンジン取説
	●エンジンオイル量の不適	●エンジンオイル量を点検し 適正量にする	70・エンジン取説
	●エアクリーナのつまり	●エレメントの清掃 または交換	エンジン取説
	●エンジンオイルが汚れている	●エンジンオイルの交換	エンジン取説
	●タンクキャップの空気穴のつまり	●空気穴の清掃	—
	●エンジン本体の不具合	●エンジンの修理 または交換	※

不調時の対応のしかた

故 障 状 況	原 因	処 置	参照ページ
エンジン出力不足	●エンジンの過熱	●小休止	—
		●吸気部の清掃	エンジン取説

■走行部

故 障 状 況	原 因	処 置	参照ページ
走行クラッチレバーを「入」位置にすると機体が少し動く	●走行レバーの「中立」位置調整不良	●走行レバーの「中立」位置調整	75
走行レバーを「走行」位置にしても走らない	●走行ベルトのスリップ	●走行クラッチレバーの調整	74
		●走行ベルトの交換	※
	●走行HST駆動ベルトのスリップ	●走行HST駆動ベルトの張り調整	76
		●走行HST駆動ベルトの交換	※
	●サイドクラッチの抜け	●サイドクラッチレバーの調整	76～79
	●副変速レバーが「N」位置	●副変速レバーを「1」位置、もしくは「2」位置に入れる	24
走行クラッチレバーを「切」位置にしても止まらない	●走行ベルトのつき回り	●走行クラッチレバーの調整	74
		●ベルトストッパの調整	※
走行レバーを作動させると「ギヤー」または「ビー」という音が発生する（但し故障ではありません）	●走行HSTへの過負荷（長時間続けるとHSTの寿命に影響することがあります）	●「ギヤー」・「ビー」音が連続して発生しないように注意して運転する ① エンジンの回転数を上げる ② 走行レバーの急な倒しをさける	—
	●過積載	●積荷を減らす	59

不調時の対応のしかた

■作業部

故 障 状 況	原 因	処 置	参照ページ
作業クラッチレバーを操作してもビータが回転しない	●作業クラッチベルトまたは荷台駆動ベルト A・B のスリップ	●作業クラッチレバーの調整または荷台駆動ベルト A・B の張り調整	79・80
		●作業クラッチベルトの交換または荷台駆動ベルト A・B の交換	※
	●作業回転切換レバーが「中立」位置	●作業回転切換レバーを「上積込」位置または「下積込」位置に入れる	30～32
作業クラッチレバーを「切」位置にしてもビータが回転しつづける	●作業クラッチベルトのつき回り	●作業クラッチレバーの調整	79
		●作業クラッチレバーの交換	※
積込・散布作業時に荷台コンベアベルトが動かない	●荷台コンベアベルトのスリップ	●荷台コンベアベルトの張り調整	82・83
	●作業レバーが「停止」位置	●作業レバーを「積込」側もしくは「散布」側の 1 ～ 8 のどれかに入れる	33
作業レバーを「停止」位置にしても荷台コンベアベルトの動きが止まらない	●荷台コンベアベルトの停止位置の調整不良	●荷台コンベアベルトの停止位置の調整	81
作業クラッチレバーを「入」位置にしてもスピナが回転しない	●作業クラッチベルトまたは荷台駆動ベルト A・B のスリップ	●作業クラッチレバーの調整または荷台駆動ベルト A・B の張り調整	79・80
		●作業クラッチベルトの交換または荷台駆動ベルト A・B の交換	※
	●スピナがいっぱいまで下降していない	●スピナをいっぱいまで下降させる	28・29
	●スピナクラッチの調整不良	●スピナクラッチの調整	86
	●トルクリミッタが作動している	●シャープピンの交換	87～92

不調時の対応のしかた

故 障 状 況	原 因	処 置	参照ページ
作業クラッチレバーを「入」位置にしてもスピナが回転しない	●作業回転切換レバーが「中立」位置	●作業回転切換レバーを「上積込」位置または「下積込」位置に入れる	30～32
作業クラッチレバーを「切」位置にしてもスピナが回転しつづける	●作業クラッチベルトのつき回り	●作業クラッチレバーの調整	79
		●作業クラッチベルトの交換	※
スピナがいっぱいまで上昇しているのに作業クラッチレバーを「入」位置にするとスピナが回転する	●スピナクラッチの調整不良	●スピナクラッチの調整	86

■油圧関係

故 障 状 況	原 因	処 置	参照ページ
油圧レバーを操作しても荷台が下降および上昇しない	●油圧ポンプ駆動ベルトのスリップ	●油圧ポンプ駆動ベルトの張り調整	84
		●油圧ポンプ駆動ベルトの交換	※
	●油圧ポンプオイルの不足	●油圧ポンプオイルの給油	69
	●油圧切換レバーがきちんと「ダンプ操作」側へ入っていない	●油圧切換レバーをきちんと「ダンプ操作」側へ入れる	28
油圧操作レバーを操作してもスピナが下降および上昇しない	●油圧ポンプ駆動ベルトのスリップ	●油圧ポンプ駆動ベルトの張り調整	84
		●油圧ポンプ駆動ベルトの交換	※
	●油圧ポンプオイルの不足	●油圧ポンプオイルの給油	69
	●油圧切換レバーがきちんと「スピナ操作」側に入っていない	●油圧切換レバーをきちんと「スピナ操作」側へ入れる	28

不調時の対応のしかた

故 障 状 況	原 因	処 置	参照ページ
能力がでない	●油圧ポンプオイルの減少・質の低下	●油圧ポンプオイルの給油	69
		●油圧ポンプオイルの交換	※
	●シリンダ内にエア混入	●エア抜き	※
油漏れがする	●配管結合部のゆるみ	●増し締め	—
	●シールの劣化・磨耗	●シールの交換	※
	●油圧ホースの亀裂	●油圧ホースの交換	※

■電装関係

故 障 状 況	原 因	処 置	参照ページ
バッテリーが充電されない	●配線の断線または接続不良	●配線の修理または交換	※
	●ヒューズ切れ	●ヒューズの交換	72
	●レギュレータ不良	●レギュレータの交換	※
	●エンジン発電不良	●エンジンの修理	※
バッテリーが充電されない	●バッテリーの機能不良	●端子の緩み・腐食・電解液の不足などを修正 またはバッテリーの交換	—

重要

●参照ページの欄に※マークがある項目については、お買いあげ先へご相談ください。

農作業を安全におこなうために

農林水産省より、安全に農作業に従事できるように、農業機械を使用するときの注意事項が「農作業安全基準」として定められています。ここに、本機を使用される方のために、特に重要な項目を「農作業安全基準」より抜粋しております。熟読の上、事故のない楽しい農作業のためにお役立てください。

一般共通事項

(1) 適用範囲

一般共通事項は、農業機械を使用して行なう作業に従事する者が農作業の安全を確保するため注意すべき事項を示すものである。

(2) 就業条件

①安全作業の心得

農業機械を使用して行なう作業（以下、「機械作業」という）に従事する者は機械の操作の熟練に努め、自己の安全を図ると共に、補助作業者及び他人に危害を及ぼさないように、機械を正しく運転することに努めること。

②就業者の条件

次に該当する者は、危険を伴う機械作業に従事しないこと。

- 精神病者
- 酒気をおびた者
- 若年者
- 未熟練者
- 過労・病気・薬物の影響その他の理由により正常な運転操作ができない者

激しい作業が続く場合には、特に健康に留意し、適当な休憩と睡眠をとること。
妊娠中の者は、振動を伴う機械作業に従事しないこと。

③特殊温湿度環境下の安全

暑熱、寒冷及び高湿の環境における作業に際しては、安全を確保するため作業時間及び方法等を十分に検討すること。

(3) 子供に対する安全配慮

機械には、子供を同乗させないこと。また、機械には子供を近寄らせないように注意すること。

(4) 安全のための機械管理

① 日常の点検整備

農業機械は、使用の前後に日常の点検整備を行ない、常に機械を安全な状態に保つこと。

② 防護装置の点検

- 機械作業に従事する者は、機械の操縦装置、制動装置、防護装置等危険防止のために必要な装置を点検整備して常に正常な機能が発揮できるようにしておくこと。
- 機械に取り付けられた防護装置等を機械の点検整備または修理等のために取り外した場合は、必ず復元しておくこと。

③ 掲げ装置の落下の防止

作業機を上げた位置で点検調整等を行なう場合には、ロック装置のあるものについて、必ずこれを使用し、かつ、ロック装置の有無にかかわらず作業機について落下防止の措置を講じること。

④ 整備工具の管理

点検整備に必要な工具類を適正に管理し、正しく利用すること。

(5) 火災・爆発の防止

① 引火・爆発物の取り扱い

引火または、爆発の恐れのある物質の貯蔵・補給等にあたってはその取り扱いを適正にすること。特に火気を厳禁すること。

② 火災予防の措置

火災の恐れがある作業場所には、消火器を備え、喫煙場所を決める等火災予防の措置を講じること。

(6) 服装および保護具の使用

次の農作業に際しては、適正な服装および保護具を用い、危険のないよう作業に従事すること。

① 頭の傷害防止の措置

機械からの墜落及び、落下物の恐れの大きい場合、交通頻繁な道路での運行の場合等では、頭部保護のために適正な保護具を用いること。

② 巻き込まれによる傷害防止の措置

原動機若しくは動力伝動装置のある作業機または駆動する作業機を使用する場合には、衣服の一部、頭髮、手拭き等が巻き込まれないように適正な帽子および、作業衣等を使用すること。

③足の傷害及びスリップ防止の措置

機械作業において、作業機等の落下、土礫の飛散、踏付け、踏抜き及びスリップ等の恐れのある場合は、これらの事故を防止するために適正な履物を用いること。

④粉じん及び有害ガスに対する措置

多量の粉じん及び有害ガスが発生する作業にあつては、粉じん及び有害ガスによる危害防止のための適正な保護具を使用すること。

⑤農薬に対する措置

防除作業においては、呼吸器、眼、皮膚等からの農薬による障害防止のために適正な保護具（保護衣を含む）を使用すること。

⑥激しい騒音に対する措置

激しい騒音の伴う作業にあつては、耳を保護するための適正な保護具を使用すること。

⑦保護具の取り扱い

安全保護具を常に正常な機能を有するように点検し、正しく使用すること。

移動機械共通事項

(1) 適用範囲

移動機械共通事項は、地上を移動しながら作業するトラクターその他の移動機械を使用して行なう作業に従事する者が注意すべき事項を示すものである。

(2) 作業前の注意事項

①機械の点検整備

- 機械の点検整備を十分行ない、その使用にあたっては、常に安全を確保すること。
- 機械の点検整備、手入れ及び作業機の装着等は、交通の危険がなく平坦である等、安全な場所であつ安全な方法で確実に行なうこと。特に、屋内で内燃機関を運転しながら点検整備等を行なう場合は、換気に注意すること。

②防護装置の保全

- 機械に取り付けられた防護装置は、常に有効に作用する状態に保っておくこと。
- 機械の点検整備等のために防護装置を取り外した場合は、必ず復元し、その機能を十分に発揮できるようにしておくこと。

③悪条件下における作業

土地条件、気象条件等により機械作業に対する条件がよくない場合の作業については、実施の判断、作業方法及び装備の選択等に注意すること。

(3) 作業中の注意事項

①乗車等の禁止

- 機械作業中は、作業関係者以外の者を機械に近寄らせないこと。

②前方及び後方の安全確認

- 運転中または作業中は、常に機械の周囲に注意し、安全を確認すること。特に、発進時に注意すること。

③転倒落下の防止

- 圃場への出入り、溝また畦畔の横断、軟弱地の通過等に際しては、機械の転落を防ぐために、特に注意すること。
- 機械の積み降ろしに際しては、機械の転倒及び落下を防ぐための適切な措置を講じ、十分注意して行なうこと。

④ 傷害の防止

- 動力伝動装置・回転部等の危険な部分には、作業中接触しないように注意すること。
- 刃または鋭利な突起を有する機械で作業を行なう場合は、傷害防止のために特に注意すること。

⑤ 道路走行の安全

- 道路走行にあたっては、関係法規を守り、安全に運転すること。
- 道路走行にあたっては、他の自動車走行の妨げとならないように留意すること。
- 刃物または鋭利な突起物を有する機械を道路走行させる場合は、おおいをつけるかまたはこれを取り外す為、特に障害防止のため注意すること。
- 悪条件の道路での高速運転の禁止
凹凸のはげしい道路、曲折のはげしい道路等においては、高速で運転しないこと。
- 坂道における安全確保
夜間作業においては、とくに安全に注意し、的確な照明を行なうこと。
降坂時は、必ずエンジンプレーキを用いること。また、操向クラッチを使用しないこと。登坂時における発進では、前輪の浮上りに注意すること。

⑥ 夜間における安全

- 夜間作業においては、とくに安全に注意し、的確な照明を行なうこと。
- 夜間給油を行う場合は、裸火等を使用せず、安全な照明のもとで安全かつ確実に給油すること。

⑦ 作業中の点検調整等における安全措置

- 機械の点検調整は、必ず原動機を止め、安全な状態で行なうこと。
- 休けい等で機械を離れる場合は、機械を安定した場所におき、作業機を下し、かつ、安全な停止状態を保つように注意すること。やむを得ず傾斜地に機械を置く場合は、さらに車止めを施して、自然発車等の危険が生じないように注意すること。

(4) 終業後の注意事項

① 終業後の点検整備

- 作業終業後は、必ず次の作業のため機械の点検整備を行なうこと。

② 作業機のとりはずし

- 作業機のとりはずしは平坦な場所等の安全な場所で、かつ、安全な方法で確実に行なうこと。とくに夜間の作業機のとりはずしは、安全で適切な照明を用い安全に留意して行なうこと。

③ 機械の安全管理

- 作業終了後は、作業機をはずし、または降ろし、機械を安定した場所に置き、かつ、安全な停止状態を保つように注意すること。
また、危険と思われる機械は、格納庫に保管するかおおいをかけるなどして安全な状態におくこと。

サービス資料

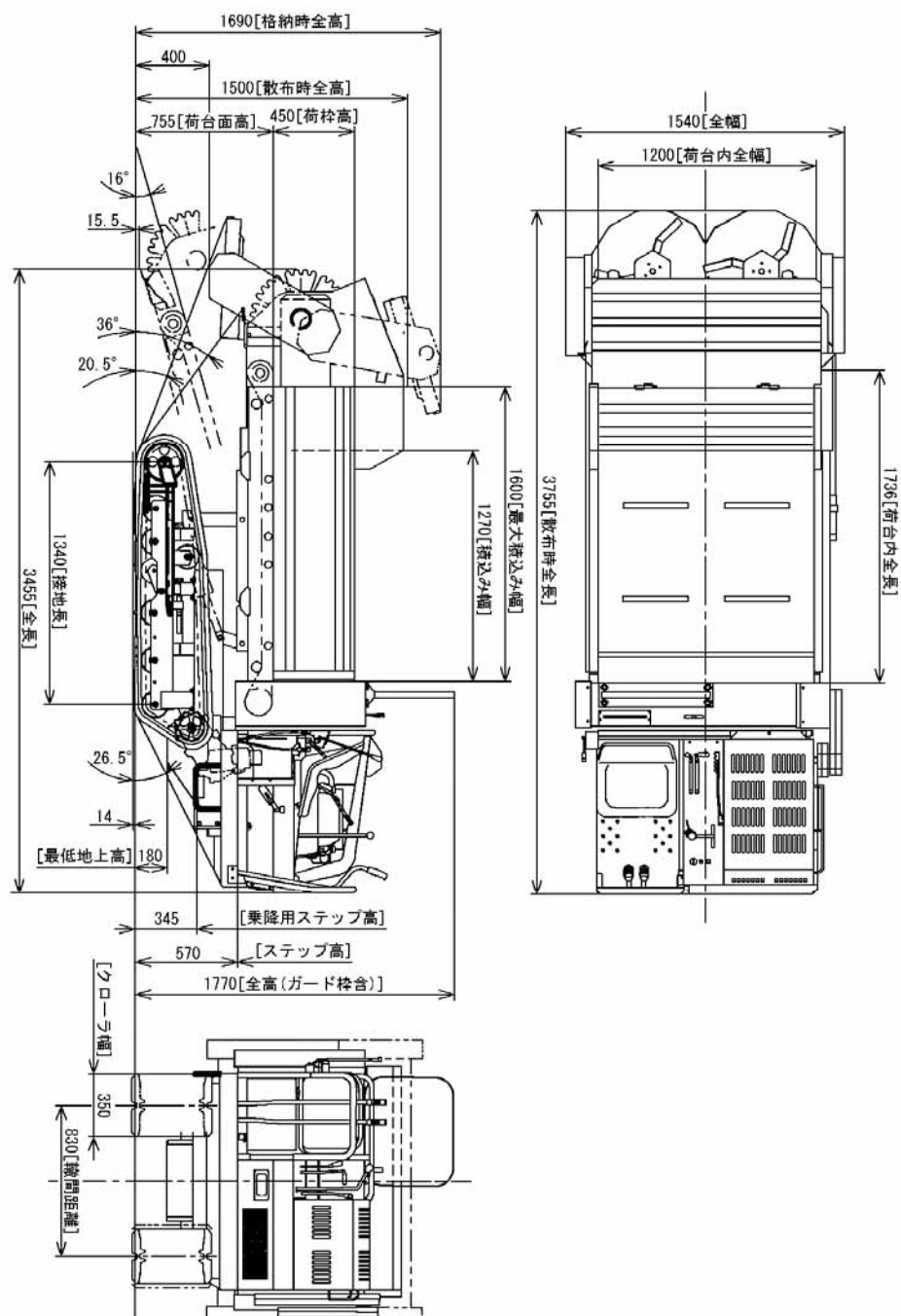
主要諸元

名 称			自走積込マニュアルスプレッダ
型 式			MSX1050
最 大 作 業 能 力 (kg)			1000
機 体 寸 法	全 長 (mm)	スピナ格納状態	3455
		スピナ散布状態	3755
	全 幅 (mm)		1540
	全 高 (mm)	スピナ格納時	1770[1690 (ガード枠無し)]
		スピナ散布時	1770[1500 (ガード枠無し)]
	最 低 地 上 高 (mm)		180
	機 体 質 量 (Kg)		1365
荷 台 寸 法	最大容積・平積み (山積み) (m ³)		0.93 (1.43)
	荷台内寸法(mm)	全 長	1735
		全 幅	1200
		枠 高	450
	荷 台 面 地 上 高 (mm)		755
エ ン ジ ン	種 類 ・ 型 式		空冷4サイクル OHV90°・Vツイン・ガソリン ホンダGX630SAE1
	最 大 出 力 (kW {PS} /min ⁻¹)		15.5 {21} /3600
	最大トルク (N・m {kgf・m} /min ⁻¹)		48.3 {4.9} /2500
	総 排 気 量 (cc {ℓ})		688 {0.688}
	燃 料 タ ン ク 容 量 (ℓ)		17
	始 動 装 置		セルスタート式 (リコイル無し)

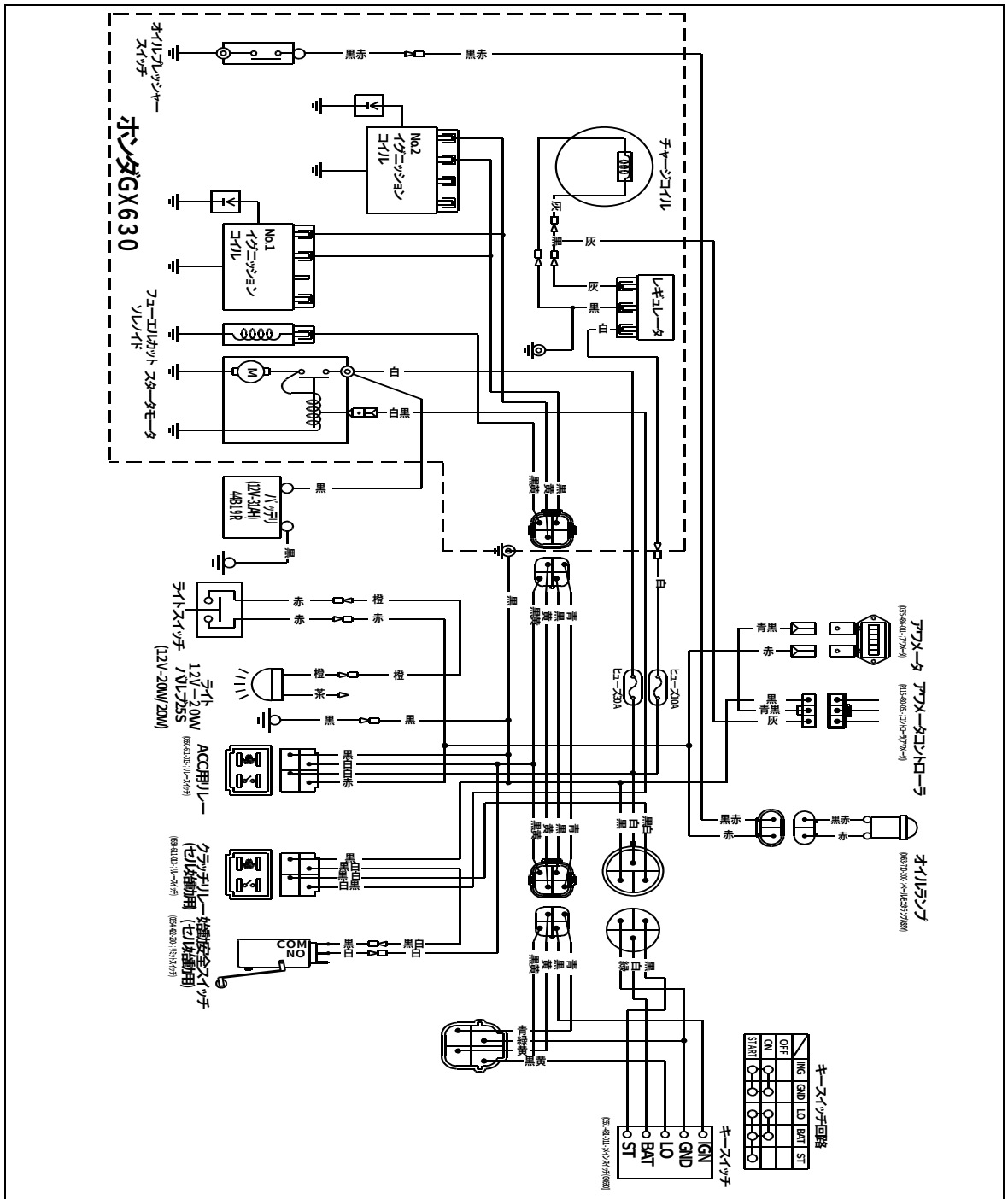
サービス資料

走行部	走行形式（幅×リンク数×ピッチ）			エンドレスゴムクローラ（350×52×72）	
	轍間距離（mm）			830	
	接地長（mm）			1340	
	接地圧（積込時）（kpa {kgf/cm ² }）			14.3 {0.146}（24.7 {0.252}）	
	変速方向			無段変速（HST）+副変速（2速）	
	走行速 （km/h）	1速	前進	0～4	
			後進	0～4	
		2速	前進	0～7	
			後進	0～7	
	登坂能力（1速走行時） （°）		最大積込時	15	
積込無し			20		
離坂角度（°）			26.5		
作業部	ダンパ角度（°）			16	
	コンベア	変速方法		無段変速（HST）	
		搬送ベルト		平ベルト（横サン[高さ8mm]付）	
		搬送速度（mm/s）	積込（8段階）	0～50	
			散布（8段階）	0～50	
	横ビータ径（mm）			550	
	横ビータ回転数（min ⁻¹ ）			295	
	スピナ径（mm）			650	
	スピナ回転数（min ⁻¹ ）			390	
	散布幅（mm）			1.5, 6～8（ｽﾋﾟﾅ広幅散布時）	
	散布量（m ³ /分）			0～1.5	
	積込時間（分/m ³ ）			2	
	作業能率（分/10a）			12～20	

外観図



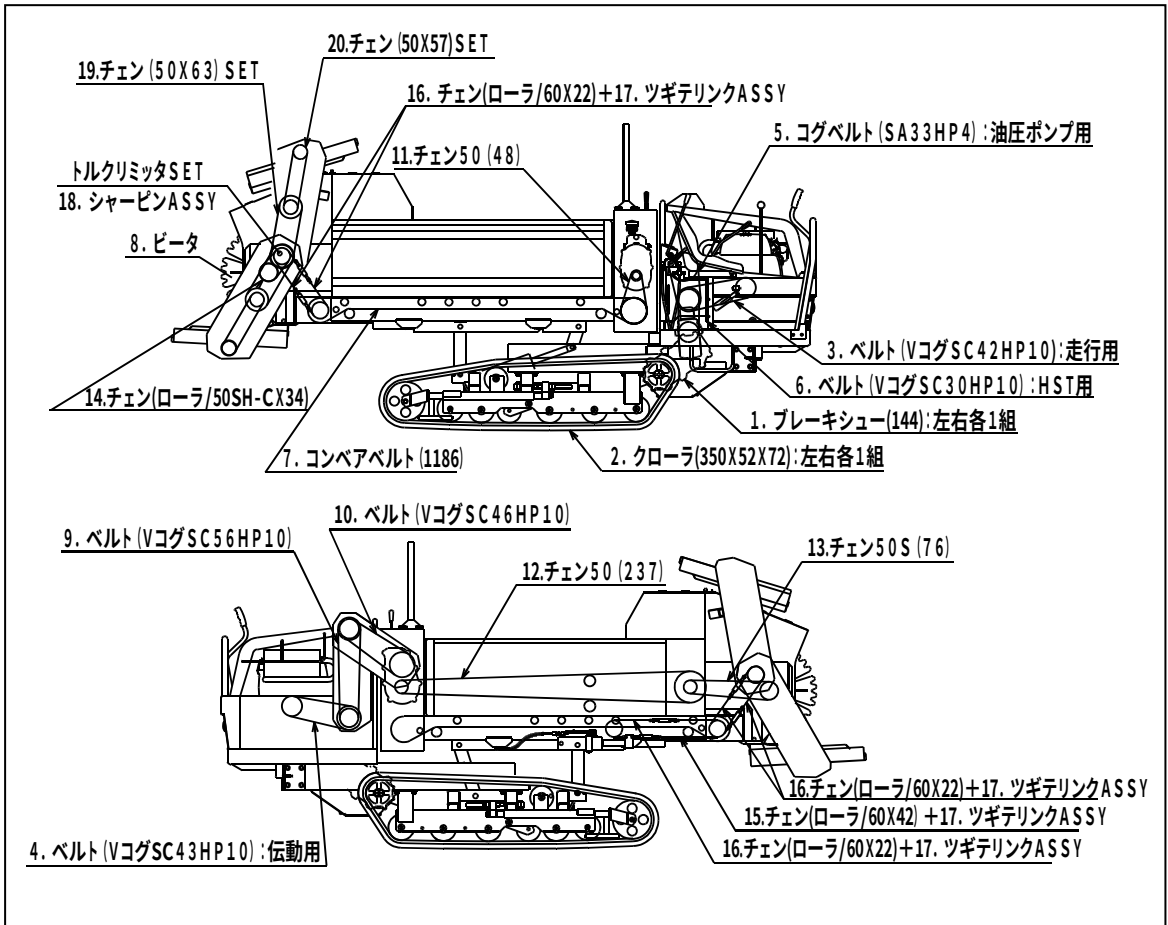
配線図



主な消耗部品

消耗部品のご注文は、部品番号をお確かめの上、
お買い上げいただきました販売店にご注文ください。

■消耗部品の使用箇所



■消耗部品一覧表

No	部 品 番 号	部 品 名 称	備 考
1	0551-112-015-0	ブレーキシュー (1 4 4)	——
2	0551-352-011-0	クローラ (3 5 0 × 5 2 × 7 2)	——
3	0551-512-013-0	ベルト (VコグSC42HP10)	——
4	0551-512-014-0	ベルト (VコグSC43HP10)	——
5	0551-520-011-0	コグベルト (SA33HP4)	——

サービス資料

■消耗部品一覧表

№	部 品 番 号	部 品 名 称	備 考
6	0551-521-015-0	ベルト（VコグSC30HP10）	——
7	0551-713-014-0	コンベアベルト（1186）	——
8	0551-721-011-0	ビータ	——
9	0551-730-022-0	ベルト（VコグSC56HP10）	——
10	0551-730-023-0	ベルト（VコグSC46HP10）	——
11	0551-731-012-0	チェン50（48）	——
12	0551-732-011-0	チェン50（237）	——
13	0551-732-013-0	チェン50S（76）	——
14	0551-734-013-0	チェン（ローラ/50SH-C×34）	——
15	0551-751-018-0	チェン（ローラ/60×42）	——
16	0551-751-019-0	チェン（ローラ/60×22）	——
17	0551-751-014-0	ツギテリンク（60）ASSY	——
18	0551-762-370-0	シャープピンASSY	——
19	0551-762-330-0	チェン（50×63）SET	——
20	0551-762-340-0	チェン（50×57）SET	——
21	0560-813-200-0	オフセットリンク（50）ASSY	各チェンの継手が折損した場合の補修部品です。
22	0560-813-250-0	ツギテリンク（50）ASSY	各チェンの継手が折損した場合の補修部品です。

索引

あ	安全な作業をするために……	6～19	か	子供に対する安全配慮……	98
	安全のための機械管理……	99		ゴムクローラへの 注意……	42
	安全のポイント……	6～19	さ	最大作業能力……	59
	安全表示ラベル について……	3		サービス資料……	104～108
	安全表示ラベル 貼付位置……	3～5		サービスネット……	20
	一般共通事項……	98～100		サイドクラッチ ブレーキの調整……	78
	移動機械共通事項……	101・102		サイドクラッチレバー……	25
	上散布……	31		サイドクラッチレバーおよび ブレーキレバーの調整……	76～79
	上積込……	30		サイドクラッチレバーの 遊び（ガタ）調整……	78
	運転者の条件……	6		坂道での運転……	43・44
	運転操作の要領……	36～45		作業回転切換レバー……	30～32
	エンジンオイル……	70		作業クラッチレバー……	27
	エンジンの始動……	36・37		作業クラッチレバーの 調整……	79
	エンジンの始動と 発進は……	8		作業中は……	12～15
	エンジンの停止……	38・39		作業中の注意事項……	101・102
	オイル警告灯……	29		作業のしかた……	36～93
	主な消耗部品……	107～108		作業の準備……	34・35
か	外観図……	105		作業前の注意事項……	101
	各ギヤボックスオイルの 給油・交換……	63・64		作業レバー……	33
	確認……	76・77		作業を開始する前に……	7
	各部の調整……	74～89		始業点検……	34・35
	各部の名称……	21		下散布……	31
	各部の名称とはたらき……	21～33		下積込……	30
	火災・爆発の防止……	99・100		指定バッテリー型式……	73
	キースイッチ……	22		終業後の注意事項……	102
	ギヤボックス操作部の 調整……	77		就業条件……	98
	給油……	62～69		重要安全ポイント について……	2
	給油箇所一覧表……	62・63		主要諸元……	103・104
	緊急停止後の再発進……	41			
	クローラの張り調整……	89			

索引

さ	使用前の点検について……	34・35	た	堆肥を遠くへ飛ばしたい 場合……	52
	消耗部品一覧表 ……	107～108		堆肥を広幅散布したい 場合……	55
	消耗部品の使用箇所 ……	107		長期格納……………	90・91
	新車の保証……………	20		長期格納後の使用……………	91
	スピナクラッチの 調整……………	86		チョークレバー……………	22
	スピナ上下駆動チェンの 調整……………	85		積込み・積降ろし……………	11・12
	スピナでの散布……………	53～58		定期点検整備箇所 一覧表……………	60・61
	スロットルレバー……………	24		停車・駐車……………	40
	積載要領……………	59		手入れと格納……………	90・91
	狭幅散布……………	32		適用範囲……………	98・101
	旋回のしかた……………	40		電気系統の点検と清掃……	71～73
	走行H S Tオイルの 給油・交換……………	65・66		電気配線の点検と清掃……	71
	走行H S T駆動ベルトの 張り調整……………	76		点検・整備……………	60～73
	走行クラッチレバー……………	23		点検整備は……………	15・16
	走行クラッチレバーの 調整……	74		点検と清掃……………	70
	走行するときは……………	8～11		電装品の取扱い……………	18・19
	走行レバー……………	25		転輪の注油箇所……………	63
	走行レバーの動き調整……	75		トルクリミッタ について……………	57
	走行レバーの 「中立」位置の調整……………	75		トルクリミッタ シャープンの交換……	87～88
	操作レバーおよびスイッチ の名称とはたらき……………	22～33	な	荷台H S Tオイルの 給油・交換……………	67・68
	その他走行時の注意……………	45		荷台駆動ベルトAの 張り調整……	80
た	堆肥積込・散布の要領……	46～58		荷台駆動ベルトBの 張り調整……	80
	堆肥の散布のしかた……………	50～58		荷台コンベアベルト 駆動チェンの張り調整……	81
	堆肥の積込のしかた……………	46～49		荷台コンベアベルトの 掃除……	89
	堆肥の山が高い場合……………	47		荷台コンベアベルトの 停止位置調整……	81
	堆肥の山が低い場合……………	48			
	堆肥を下へ落としたい 場合……	52			
	堆肥を狭幅散布したい 場合……	56			

索引

な	荷台コンベアベルトの 張り調整…… 82・83 荷台コンベアベルトの 両サイドの掃除…… 89 日常の格納…………… 90 燃料…………… 70 農作業を安全に おこなうために…… 98～102	ま	目次…………… 1
は	配線図…………… 106 発進のしかた…………… 39・40 バッテリーの液量点検…… 73 バッテリーの点検と 取扱い…………… 72・73 バッテリーの取扱い…… 73 バランス…………… 59 ビータでの散布…………… 50～53 フィルタポットの 清掃と交換…………… 70 服装および保護具の 使用…………… 99・100 副変速レバー…………… 24 不調時の対応のしかた…… 92～97 ヒューズの取扱い…………… 72 ブレーキレバー…………… 26 ブレーキレバーの調整…… 79 広幅散布…………… 32 保管・格納は…………… 16～18 補修用部品供給年限 について…………… 20 保証とサービス…………… 20 圃場の条件…………… 41	や	油圧切換レバー…………… 28 油圧操作レバー…………… 28・29 油圧ポンプオイルの 給油…………… 69 油圧ポンプ駆動ベルトの 張り調整…………… 84
		ら	ライトスイッチ…………… 23

困ったり、わからないことがあれば

販売店

住所〒 —

TEL — —

担当；

までご連絡ください。

型 式

製造番号

※ご使用になる前にメモしておく、万一、修理の依頼をされるときに役立ちます。

豊かさを創造し、未来へ挑戦する 株式会社アテックス

本 社	愛媛県松山市衣山1丁目2-5	〒791-8524
	T E L (089)924-7161 (代)	F A X (089)925-0771
	T E L (089)924-7162 (営業直通)	
	ホームページ http://www.atexnet.co.jp/	
東 北 営 業 所	岩手県紫波郡矢巾町広宮沢第11地割北川505-1	〒028-3621
	T E L (019)697-0220 (代)	F A X (019) 697-0221
関 東 支 店	茨城県猿島郡五霞町元栗橋6633	〒306-0313
	T E L (0280)84-4231 (代)	F A X (0280)84-4233
中 部 営 業 所	岐阜県大垣市本今5丁目128	〒503-0931
	T E L (0584)89-8141 (代)	F A X (0584)89-8155
中 四 国 支 店	愛媛県松山市衣山1丁目2-5	〒791-8524
	T E L (089)924-7162	F A X (089) 925-0771
九 州 営 業 所	熊本県菊池郡菊陽町大字原水1262-1	〒869-1102
	T E L (096)292-3076 (代)	F A X (096) 292-3423
部 品 セ ン タ ー	愛媛県松山市馬木町899-6	〒799-2655
	T E L (089)979-5910 (代)	F A X (089) 979-5950

部品コード

0551-941-063-0